千葉県の保護上重要な野生生物

千葉県 レッドリスト 動物編 2019年改訂版

目次

1. 概要 …… 1
2. レッドリスト …… 17
3. 変更点一覧 …… 31
4. 特に留意が必要な種 …… 34
5. 索引 …… 36

2019年3月
千葉県環境生活部自然保護課

＜改訂版＞千葉県レッドリスト（動物編）について

1. 千葉県レッドデータブックの背景と目的

多種多様な野生の動植物は、自然環境を構成する生態系に不可欠の要素であるが、近年地球規模での自然環境の悪化等から多くの種が絶滅の危機に瀕しているといわれており、野生動植物の保護は国際的な課題となっている。

このような状況の中で、本県においては、千葉県環境基本計画で掲げた「自然との共生」の理念のもとに「生物多様性の確保」という観点から、県内における絶滅のおそれのある野生動植物の現状と保護のあり方を明らかにした「千葉県レッドデータブック」-植物編-を1998年度に、同じく-動物編-を1999年度にとりまとめ、2000年度には植物編と動物編を一冊にまとめた-普及版-を作成した。以後は改訂版として、植物に関しては「千葉県レッドリスト植物編2004年改訂版」、「千葉県レッドデータブック植物編・菌類編2009年改訂版」、「千葉県レッドリスト植物・菌類編2017年改訂版」の発行を行ってきた。また動物に関しては、「千葉県レッドリスト動物編2006年改訂版」、「千葉県レッドデータブック動物編2011年改訂版」の発行を行い、今回の新たな改訂を迎えている。その他、ブック及びリスト発行のタイミングに間に合わなかったランク改訂などの新知見を、「追録」として発行してきた。

千葉県レッドデータブックは法的規制等の強制力を伴うものではないが、多くの県民の方々に貴重な野生生物の現状を理解し、自然との共生のあり方を考えていただくことを目的に作成した。レッドデータブック及びレッドリストは、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価したものであるので、絶滅のおそれのある野生生物の保護を進めていくための基礎的な資料として、広く活用されることを願うものである。

2. 千葉県レッドデータブック及び千葉県レッドリストとは

「千葉県レッドデータブック」とは、千葉県内で絶滅のおそれのある野生の動植物（希少種）に関する生息状況・生物学的な特徴などを概ね10年ごとにまとめ、フルカラーの写真付きで発行した冊子である。

「千葉県レッドリスト」とは、文字情報のみの簡易版であるが、上記のレッドデータブック発行の間を埋める形で概ね5年ごとに最新情報をまとめ、一覧表のリストとして発行するものである。

3. 千葉県レッドリスト（動物編）改訂の方法

（1）動物編の改訂に当たっては、2004年度より専門家からなる「千葉県レッドリスト改訂委員会」（事務局：（財）千葉県環境財団）を組織した。2010年度には千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会・動物部会」（事務局：千葉県生物多様性センター）を組織し、千葉県立中央博物館宮野伸也を動物部会長として、「レッドデータブック動物編2011年改訂版」を発行した。

（2）今回のレッドリスト改訂にあたっては、2017年度より県立中央博物館駒井智幸を部会長とする動物部会を組織し、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、魚類、昆虫類（クモ類を含む）、甲殻類（陸産及び陸水産甲殻類、十脚甲殻類）、多足類及び貝類の分類群ごとに分科会を組織し、それぞれの分科会ごとに野外調査や情報収集を行い、得られた知見を基に改訂作業を行った。

（3）選定のための評価基準とカテゴリーは、千葉県レッドデータブック動物編2011年改訂版で用いた選定方法を基準とした。

4. 改訂の体制

(1) 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会・動物部会委員

下稲葉 さやか		(哺乳類)	千葉県立中央博物館
桑原 和之		(鳥類)	千葉県立中央博物館
小賀野　大一		(両生・爬虫類)	千葉県野生生物研究会
後藤　　亮		(魚類)	千葉県立中央博物館
倉西 良一		(昆虫類・クモ類)	千葉県立中央博物館
萩野 康則		(多足類)	千葉県立中央博物館
駒井 智幸	委員長	(甲殻類)	千葉県立中央博物館
黒住 耐二		(貝類)	千葉県立中央博物館

(2) 改訂協力者 (分類群別50音順、敬称略)

(1. 哺乳類)	萩原　光	特定非営利活動 (NPO) 法人 房総自然博物館
	三笠 暁子	コウモリの会事務局
	宮川 尚子	千葉県立中央博物館
	矢竹 一穂	株式会社セレス技術本部 環境部
(2. 鳥類)	嶋田 哲郎	公益財団法人 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	高木　武	環境科学NT株式会社
	田尻 浩伸	公益財団法人 日本野鳥の会保全プロジェクト推進室
	三沢 博志	千葉市野鳥の会
	箕輪 義隆	日本鳥類保護連盟
	山口　誠	特定非営利活動 (NPO) 法人 行徳野鳥観察舎友の会
(3. 両生類・爬虫類)	今津 健志	千葉県生物多様性センター
	笠原 孝夫	千葉県立市原八幡高等学校
	田中 一行	千葉県野生生物研究会
	八木 幸市	千葉県野生生物研究会
	吉野 英雄	千葉県立銚子高等学校
(4. 魚類)	新井 桂二	千葉県立千葉西高等学校
	田中 正彦	千葉県立千葉西高等学校
(5. 昆虫類)	浅間　茂	千葉生態系研究所
	石綿 進一	特定非営利活動 (NPO) 法人 神奈川ウォーター・ネットワーク
	井上 尚武	茨城県立高萩清松高等学校
	斉藤 明子	千葉県立中央博物館
	鈴木　裕	三浦半島昆虫研究会
	土井　学	千葉県昆虫談話会
	藤平　暁	日本鱗翅学会
	松木 和雄	日本トンボ学会
	宮内 博至	日本甲虫学会
	和田 一郎	日本直翅類学会
(6. 多足類)	石井　清	元獨協医科大学
(7. 甲殻類)	布村　昇	金沢大学環日本海域環境研究センター
(8. 貝類)	立川 浩之	千葉県立中央博物館分館海の博物館
	谷口 智彦	日本貝類学会
	谷口 優子	日本貝類学会
	多留 聖典	東邦大学理学部東京湾生態系研究センター
	都築 章二	日本貝類学会
	山下 博由	貝類多様性研究所

(3) 改訂協力団体 (50音順)

我孫子市鳥の博物館　イシガメ研究会　行徳野鳥観察舎友の会　株式会社自然回復　千葉県野鳥の会　千葉県立行徳野鳥観察舎　千葉市野鳥の会　水鳥研究会　谷津干潟自然観察センター　山階鳥類研究所資料室　山階鳥類研究所標識研究室

5. 千葉県レッドリスト動物編2019年改訂版について

同改訂版は、今回の検討により見直された結果を、分類毎に、カテゴリー順の一覧表にまとめ、さらに五十音順による検索ができるように索引表を掲載した。

リストの改訂が行われた分野については適宜改訂して掲載し、改訂された分野を改訂履歴で示した。本編を含む過去の「千葉県レッドリスト」は千葉県生物多様性センターのホームページから入手可能である。

6. 千葉県レッドデータブック共通評価基準及びカテゴリー

レッドデータブックに掲載されることは、対象種が絶滅の危機に瀕していると同時に、その種が保護を必要としていることを示している。この点を踏まえ、評価基準は保護の必要度の高さから区分がされている。現在、県内で生息・生育が確認されている種のカテゴリーは4段階とし、現在まで長期にわたって確実な生息・生育情報のない、消息不明または絶滅したものを加え、全体で5段階とした。

千葉県レッドデータブック共通評価基準及びカテゴリー

X 消息不明・絶滅生物
かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。ただし、すでに保護の対象外となったかに見える生物であっても、将来、他の生息・生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより自然回復する可能性もありうるので、かつての生息・生育地については、現存する動植物と共に、その環境の保全に努める必要がある。
A 最重要保護生物
個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。放置すれば近々にも千葉県から絶滅、あるいはそれに近い状態になるおそれがあるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって軽減又は排除する必要がある。
B 重要保護生物
個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリーAへの移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減又は排除する必要がある。
C 要保護生物
個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリーBに移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。
D 一般保護生物
個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリーCに移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないよう注意する。

7. 選定の結果

動物の分類群・カテゴリー別の掲載種数は表に示すとおりである。

本年改訂された種は、脊椎動物では、哺乳類3種、鳥類25種、両生・爬虫類1種、魚類10種の計39種、無脊椎動物では、昆虫類118種、クモ類1種、甲殻類4種、多足類4種及び貝類27類の計154種で、脊椎動物、無脊椎動物を合計すると計193種となる。

対象とした在来の脊椎動物は約520種であり、そのうち約43%が本書に掲載されている。一方、在来の無脊椎動物は約6,000種と考えられ、その内の約12%が本書に掲載されている。また、カテゴリーXの消息不明・絶滅生物に選定されたものは、哺乳類3種、鳥類20種、魚類2種、昆虫類26種、多足類3種、貝類18種の計72種である。さらに、カテゴリーAの最重要保護生物には284種が選定され、現在多くの種が絶滅の危機に瀕していることを示している。

改訂された種数

改訂内容	種数
新規追加	65
削除	34

千葉県の保護上重要な野生動物 分類群・カテゴリー別掲載種数

カテゴリー	分類群	X	A	B	C	D	情報不足	総計
脊椎動物	哺乳類	3 (3)		4 (2)	4 (5)	6 (7)	2 (1)	17 (17) ※1
	鳥類	20 (19)	46 (42)	38 (35)	33 (43)	19 (22)		156 (161)
	両生類・爬虫類		6 (6)	7 (7)	4 (4)	6 (6)	1 (2)	23 (23) ※2
	魚類	2 (2)	5 (3)	9 (9)	8 (7)	5 (7)		29 (28)
小計		25 (24)	57 (51)	58 (53)	49 (59)	36 (42)		225 (229)
無脊椎動物	昆虫類							
	カゲロウ目		2 (2)			3 (3)		5 (5)
	トンボ目	7 (7)	19 (16)	13 (14)	6 (7)	9 (7)		54 (51)
	カワゲラ目		1 (1)			1 (1)		2 (2)
	ゴキブリ目					1 (1)		1 (1)
	カマキリ目				1 (1)	1 (1)	1 (0)	2 (2) ※3
	バッタ目	1 (1)	7 (8)	4 (5)	3 (1)	5 (4)	4 (0)	20 (19) ※4
	ナナフシ目				0 (1)	1 (0)		1 (1)
	カメムシ目	1 (4)	10 (8)	5 (4)	13 (13)	6 (6)		35 (35)
	アミメカゲロウ目			1 (1)	1 (1)			2 (2)
	コウチュウ目	3 (3)	50 (37)	48 (24)	42 (38)	15 (38)		158 (140)
	ハチ目		6 (6)	8 (8)	18 (18)			32 (32)
	シリアゲムシ目			1 (1)	3 (3)	1 (1)		5 (5)
	ハエ目	6 (6)	5 (5)	10 (10)	4 (4)	4 (4)		29 (29)
	トビケラ目	1 (1)	2 (2)	2 (2)	5 (7)	4 (2)		14 (14)
	チョウ目（チョウ類）	5 (5)	4 (4)	9 (9)	16 (15)	0 (1)		34 (34)
	チョウ目（ガ類）	2 (2)	1 (3)	4 (4)	7 (6)	2 (6)	3 (0)	16 (21) ※5
	昆虫類小計	26 (29)	107 (92)	105 (82)	119 (115)	53 (75)		410 (393)
	クモ		3 (2)	3 (2)	2 (3)	2 (3)		10 (10)
	甲殻類	0 (1)	14 (14)	3 (4)	7 (5)	10 (11)	1 (0)	34 (35) ※6
	多足類	3 (3)	14 (12)	12 (12)	7 (8)	1 (1)		37 (36)
	貝類	18 (19)	89 (80)	57 (55)	28 (31)	14 (11)		206 (196)
小計		47 (52)	227 (200)	180 (155)	163 (162)	80 (101)		697 (670)
合計		72 (76)	284 (251)	238 (208)	212 (221)	116 (143)		922 (899)

（　　）内は前回のレッドデータブック（2011年改訂版）の種数を示す。
※1：他に情報不足２種。 ※2：他に情報不足1種。※3：他に情報不足１種。 ※4：他に情報不足４種。 ※5：他に情報不足３種。
※6：他に情報不足１種。

8.各分類群における改訂方法

（1）哺乳類

①選定基準について

1）評価の単位は種とした。検討対象種は、千葉県で現在生息が確認されているか、明治時代以降に県内に生息していた記録がある、在来の陸生哺乳類と沿岸域に生息している海生哺乳類を対象とした。哺乳類の和名、学名、種の配列はOhdachi *et al.*（2015）に従った。これに伴い、ユビナガコウモリの科名、ニホンアシカ、スナメリ、ニホンアナグマの学名を千葉県版レッドデータブックの動物編2011年改訂版（以下、2011年版）より変更した。

2）今回の改訂では、2011年版と同一の時間軸・基本的な考え方とカテゴリー基準の補助基準に基づいて選定・評価を行った。カテゴリー基準の補助基準は下記に従って用いた。

・定性的要件として、2000年に刊行された千葉県版レッドデータブックの動物編（以下、2000年版）に掲載された「千葉県版レッドデータブック共通評価基準及びカテゴリー」を使用した。

・定量的要件として2011年版を参考とし、現在個体数、及び個体数ないし分布面積の減少率に基づく基準を使用した。

・評価にあたっては、定量的要件を満たすデータが得られている場合は定量的要件を使用した。ただし、一部の種を除くほとんどの種において定量的要件を満たすデータは得られていない。その場合、定量的要件は目安ないしイメージとして考慮し、基本的には定性的要件に基づいてカテゴリー評価を行った。

3）評価の結果、19種（陸生16種、海生3種）を選定した。内訳は次のとおりである：消息不明・絶滅生物（X）3種、最重要保護生物（A）0種、重要保護生物（B）4種、要保護生物（C）4種、一般保護生物（D）6種、情報不足2種。

4）今回の改訂により2011年版から変更した3種に関して、以下に述べる。

（ニホンザル）遺伝学的研究により、外来種アカゲザルとの交雑がニホンザル生息域の広範囲に広がっていることが明らかになってきている。交雑していないニホンザルの個体数は急速に減少していると考えられるため、カテゴリーを「C→B」へと変更した。

（スナメリ）千葉県沿岸域には、太平洋に分布する外房集団と東京湾に分布する内房集団という、別系群の可能性が高い2つのスナメリの集団が認められる。外房集団は太平洋の他の個体群と交流があり、個体数が比較的多いと推定されている。これに対し、内房集団は他の集団から孤立しているうえ、生息個体数が少ないと考えられている。そのため、内房集団の生息状況を考慮し、スナメリのカテゴリーを「D→B」へと変更した。

（コククジラ）沿岸性の鯨類であるため検討対象種に含め、検討・選定を行った。本種は、千葉県沿岸域に4月から5月にかけて来遊が確認されることがある。近年では2016年と2017年に東京湾で目撃され、2016年には勝浦市で座礁が発生した。コククジラのアジア系群の個体数は120頭程度と推定されているが、千葉県沿岸域の利用状況や来遊する個体数などの情報が不足しているため、カテゴリーを「情報不足」として選定した。

②参考文献

Ohdachi,S.D.*et al.*（2015）The Wild Mammals of Japan（Second Edition）.506pp.／環境省関東地方環境事務所（2015）平成27年度特定外来生物防除推進調査（ニホンザル交雑個体）報告書／環境省関東地方環境事務所（2017）平成29年度特定外来生物防除推進調査（ニホンザル交雑個体）報告書／Amano,M.*et al.*（2003）Abundance estimate of finless porpoises off the Pacific coast of eastern Japan based on aerial surveys.Mammal Study 28:103–110／ Yoshida,H.*et al.*（2001）Population Structure of Finless Porpoises（*Neophocaena phocaenoides*）in Coastal Waters of Japan Based on Mitochondrial DNA Sequences.Journal of Mammalogy 82:123-130／白木原美紀（2017）特集スナメリ.エブオブ65：2-5／Swartz,S.L.*et al.*（2006）Gray whale *Eschrichtius robustus* population and stock identify.Mammal Review 36:66–84／Cooke,J.G.*et al.*（2008）Population assessment of western gray whales in 2008 Paper SC/60/BRG11 presented to the International Whaling Commission Scientific Committee.9 pp.／水産庁資源管理部（2016）西部北太平洋系群コククジラの混獲等防止のための啓発活動の推進について（28水管第244号）

（2）鳥類

①選定基準について

1）2011年版に基づき新たな文献や観察記録を参考にして、千葉県に生息する全種に関してカテゴリー・ランクの再検討を行った。さらに、繁殖や越冬が新たに確認された種の記録を考慮し、カテゴリー・ランクを再検討した。なお、2011年版に基づき再検討を行う作業に当たっては、鳥類分科会委員の高木武、箕輪義隆、三沢博志、嶋田哲郎、田尻浩伸、山口誠の見解を桑原和之がとりまとめた。以下では、カテゴリー・ランク別に本改訂版の根拠を述べる。

X：消息不明・絶滅生物
過去に繁殖記録があるが、1970年以降の繁殖記録がない種。カテゴリー・ランクの変更はしなかった。なお、千葉県内で30年以上繁殖記録のないツバメチドリの繁殖個体群に関しては、近年繁殖記録がないため消息不明として改訂した（桑原・鈴木2002、齊藤・桑原1991）。ヒシクイは2017年から2018年、マガンは2017年から2018年の越冬期に記録されたが、定期的な記録ではないため2011年版に引き続き消息不明種・絶滅生物とした。
A：最重要保護生物
国際的に稀少である種。極東・アジア地域若しくは日本に固有で、生息数の減少が著しい種。メリケンキアシシギは利根川河口域の干潟、岩礁や外房海岸、東京湾岸で記録されていた（桑原ら2006）。春の渡りの時期の減少が、著しいため、新たに今回の改訂で最重要保護生物とした。千葉県内で個体数が少ないが繁殖期に確認されているハヤブサを非繁殖から繁殖に変更し、繁殖個体群に関して保護が必要であるため今回の改訂では最重要保護生物とした。東京湾岸の干潟で、個体数が多かったダイゼンは、春の渡りの時期の個体数の激減及び第1回夏羽の越夏個体の激減により、要保護生物から最重要保護生物に改訂した（桑原2010）。同様に、ツルシギも春の渡りの時期の個体数の激減により最重要保護生物に改訂した。渡りの時期に記録されるシギ・チドリ類の観察個体数は国内でも減少しているが、前2種はその現象が著しいことが理由である。さらに、ヤマセミの減少も著しかったため、最重要保護生物として改訂した。
B：重要保護生物
国内で生息数が少ないか、著しく減少した種。ヒメウは海岸での越冬個体数が減少したため、重要保護生物とした。ナベヅル、クロヅル、マナヅルは近年観察記録がなくなり、狩猟や野鳥撮影者などによる圧迫が懸念されるため、重要保護生物に改訂した。コサギは、周年を通じて記録され、個体数も多い普通種であったが、1970年以降激減したため、重要保護生物として改訂した。渡りの時期に記録されていたムナグロ、アオアシシギの観察個体数が東京湾や利根川水系周辺の湿地などで著しく減少したため、要保護生物から重要保護生物に改訂した。
C：要保護生物
千葉県内で生息数が少ないか、著しく減少した種。クサシギは、湿地で減少が著しいため、一般保護生物から要保護生物に改訂した。オオタカが重要保護生物から要保護生物に改訂されたのは、都市部周辺などで増加の傾向があり、各地で営巣記録が増加したことが大きな理由である。
D：一般保護生物
要保護生物としていたダイサギ、タゲリ、ツミ、カケスを要保護生物から一般保護生物とした。ダイサギは、各地で記録され、繁殖個体数も少なくないことが確認された。タゲリは、利根川水系周辺の湿地で個体数の増加傾向があった。ツミは、都市部などで増加の傾向があり、カケスは千葉県南部で記録されたことが大きな理由である。
2）今回の改訂にあたり選定から解除した種
・本改訂版では6種を解除した。カナダヅルはカテゴリー基準の見直しを行った結果、本来、国内には稀に飛来する種であり、千葉県内でも1例の記録のみであるため解除した。イソヒヨドリは九十九里浜、利根川河口域の調査が進み、文献なども公表され海岸に多くが生息していることが確認されており、カテゴリー基準の見直しを行った結果解除した。
・カワウ、チョウゲンボウの2種は、各地で繁殖地が増加し、観察記録も増加しており、現況では減少傾向がないため解除した。トビは千葉県南部で繁殖しており、多く生息していることが確認され、現況では減少傾向がないため解除した。ツバメは現況では、減少傾向が少ないため解除した。
②参考文献
千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）（2011）鳥類.千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドデータブックー動物編2011年改訂版.千葉県.／桑原和之.2010.ダイゼン.生きもののつながり雑学コーナー.私たちの自然51（559）:18.／桑原和之・鈴木恒治（2002）タマシギ・ツバメチドリ.千葉県の自然誌.県史シリーズ本編6:789−791.千葉県資料財団.／桑原和之・三沢博志・箕輪義隆・野口一誠・繁倉崇・奴賀俊光・高木武（2006）銚子市鳥類目録.我孫子市鳥博報14:71-147.／齊藤敏一・桑原和之（1991）ツバメチドリの繁殖とムナグロの越夏.日本の生物5（2）:38-39.

（3）爬虫類・両生類
①選定基準について
本改訂版における選定基準は、原則として2011年版による基準を用いた。改訂にあたり、2011年版で参照されなかった文献に加え、2011年以降新たに発行された文献及び最近の現地調査から生息情報を収集し参考資料とした。その結果、千葉県内における爬虫類及び両生類の生息環境には好転の兆しは見られず、引き続き絶滅や減少の危険があるものの大幅

な生息域の減少が認められなかったことなどから、今回の改訂ではランク変更に該当する種は無しとした。以下に検討した主な内容とランク変更以外の修正点について示す。

1) 捕食者となりうる外来のアライグマ、イノシシの分布拡大や個体数の増加、カエル類など餌資源の減少等による生息環境の悪化からシマヘビやヤマカガシなどの個体数減少が予測されたが、現時点では過去との定量的な比較ができる十分な資料が得られなかったことから、各種ヘビ類のランクアップは保留として今後の検討課題にした。

2) 2011年版において情報不足とされたクサガメは、近年の研究から日本国内からの化石記録がないこと、江戸時代後期より前の信頼できる記録がないこと、ミトコンドリア遺伝子の解析より自然分布が不自然であることなどから移入種である可能性が極めて高いことが示された。さらに、千葉県内においては生息数の増加や在来のニホンイシガメとの交雑が各地で報告されてきたことにより、保護対象種となる可能性は低いと判断し記載から外した。

3) 日本爬虫両棲類学会の日本産爬虫両生類標準和名リストに従い、学名、和名、科名の一部を修正した。

②参考文献

長谷川雅美・草野保・福山欣司（2000）日本における両生類個体群減少の認識過程.自然誌研究報告特別号3日本の両生類-現状と将来-：1-7.千葉県立中央博物館／長谷川雅美（2011）.爬虫類・両生類：125-138.千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編2011年改訂版.千葉県／疋田努・鈴木大.2010.江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入.爬虫両棲類学会報2010（1）：41-46／平山廉（2006）.日本産化石カメ類の研究の概要.化石（80）：47-50／今津健志・長谷川雅美・倉本宣（2015）.谷津田に生息するクサガメの産卵生態.爬虫両生類学会報2015（1）：9–15／井上祐子（2016）.外来哺乳類アライグマによるシュレーゲルアオガエルの補食事例.爬虫両生類学会報2016（1）:29–32／加賀山翔一・小賀野大一・長谷川雅美（2017）.千葉県における淡水性カメ類の垂直分布.爬虫両棲類学会報2017（2）：156-161／金田正人・加藤卓也（2011）.外来生物アライグマに脅かされる爬虫両生類.爬虫両生類学会報2011（2）：148–154／草野保（2016）.種分布モデリングによるトウキョウサンショウウオの公的生息環境の予測（特集日本における希少有尾類の保全活動）.爬虫両棲類学会報.2016（2）：135-146／小菅康弘・小林頼太（2015）.アライグマによる淡水カメ類の危機.爬虫両棲類学会報2015（2）：167-173／成田篤彦（2009）.繁殖期にトラクターで作られた畦が障壁となり死亡したトウキョウサンショウウオとニホンアカガエル.千葉生物誌59（1）：43-44／成田篤彦・田村満（2010）.木更津市でタゴガエル*Rana tagoi*の生息地を発見.千葉生物誌60（1）：42／棗田孝晴・大木智矢（2014）千葉県北東部の谷津田におけるトウキョウサンショウウオ*Hynobius tokyoensis*の産卵場の分布及びその周辺環境.応用生態工学16（2）：119-125／日本爬虫両棲類学会日本産爬虫両棲類標準和名リスト.http://herpetology.jp/wamei/index_j.php ／小賀野大一（2001）.清和自然環境保全地域とその周辺の爬虫類.両生類.魚類：52-77.千葉県環境部自然保護課／小賀野大一（2003）.「梅ヶ瀬渓谷自然環境保全地域」とその周辺の爬虫類・両生類：112-142,千葉県環境生活部自然保護課／小賀野大一（2005）.「高塚山自然環境保全地域」の両生類・爬虫類調査:185-195.千葉県環境生活部自然保護課／小賀野大一・福士融・木村孝康（2005）.印旛沼水系に侵入したヌマガエルの分布範囲と生息状況.千葉生物誌55（1）：1-7／小賀野大一（2007）.内浦山自然環境保全地域とその周辺に生息する動物相（爬虫類・両生類と一部の哺乳類）：41-48.千葉県自然環境保全調査研究会／小賀野大一・田中一行・笠原孝夫（2007）.九十九里浜平野の大網白里町細草にかつてあったトウキョウサンショウウオの大きな生息地.千葉生物誌57（1、2）：69-72／小賀野大一・八木幸市・田中一行・吉野英雄・笠原孝夫（2007）.早春に産卵するニホンアカガエルとトウキョウサンショウウオの生息数の変化-谷津田における圃場整備の影響-.千葉生物誌57（1、2）:69-72／小賀野大一・笠原孝夫・吉野英雄（2008）.千葉県のトウキョウサンショウウオは減っている.千葉生物誌58（1）：21-23／小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫（2008）.房総半島におけるトウキョウサンショウウオの生息域と特徴.両生類誌18：1-6／小賀野大一・吉野英雄・田中一行・笠原孝夫・八木幸市（2008）.九十九里浜平野におけるカエル類（無尾目）の分布.千葉生物誌58（1）：24-25／小賀野大一・吉野英雄（2010）.元清澄山自然環境保全地域とその周辺の両生爬虫類相：41-48.千葉県自然環境保全調査研究会／小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫（2010）.下総台地に生息するトウキョウサンショウウオの生態.千葉生物誌60（1）：1-9／小賀野大一・八木幸市・笠原孝夫・田中一行・吉野英雄（2011）.九十九里浜平野の乾草沼に生息する淡水性カメ類の調査.千葉生物誌60（2）：21-27／小賀野大一（2012）.白浜自然環境保全地域の両生爬虫類相：41-48.千葉県自然環境保全調査研究会／小賀野大一（2013）.房総丘陵における1月のタゴガエルの産卵記録.千葉生物誌63（1）：13-14／小賀野大一（2013）.房総半島における12月のトウキョウサンショウウオの産卵記録.千葉生物誌63（1）：15-16／小賀野大一・尾崎真澄・小菅康弘・近藤めぐみ・西堀智子・松本健二・長谷川雅美（2015）.千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会の設立とその活動.爬虫両生類学会報2015（2）：174–183／小賀野大一・田中一行・八木幸市・吉野英雄・笠原孝夫（2015）.香取市の水田域に生息するアカハライモリ個体群の絶滅.千葉生物誌64（2）：55-56／小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫（2015）.房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況.爬虫両棲類学会報2015（1）：1-8／小賀野大一・八木幸市・吉野英雄・田中一行・笠原孝夫・對馬浩二・五味真人・吉田直矢.栗山川流域における淡水性カメ類の流呈分布と護岸形態による影響（2016）.千葉生物誌66（2）：55-57／小賀野大一（2017）.清和自然環境保全地域の両生爬虫類:53-60.千葉県環境生活部自然保護課／小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫・對馬浩二・五味真人・吉田直矢.房総半島の溜池で確認した両生類（2017）.爬虫両棲類学会報2017（1）：1-4／尾崎煙尾・鎌田貢司郎（2003）.房総丘陵のハス田におけるヤマアカガエルの繁殖スケジュール.自然誌研究報告特別号6房総半島小糸川上流の自然誌I：59-65.千葉県立中央博物館／齋藤純康・大澤彰久・勝俣悦子・田谷一善・荒井一利（2016）.千葉県鴨川市東条海岸におけるアカウミガメの産卵・孵化・脱出状況.動物園水族館雑誌57（3）：59-69／Suzuki,D.,H.Ota,H.Oh,and T.Hikida（2011）.Origin of Japanese population of Reeves'pond turtle,*Mauremys reevesii*（Reptilia：Geoemydidae）,as inferred by a molecular approach.Chelonian Conservation and Biology 10（2）:237–249/Suzuki,D.,Yabe,T.,&Hikida,T.（2014）.Hybridization between *Mauremys japonica* and *Mauremys reevesii* inferred by nuclear and mitochondrial DNA analyses. Journal of Herpetology,48（4）：445-454／高橋亮雄（2015）.化石及び遺跡産骨格残骸からみた日本の厳正淡水生カメ類の歴史.爬虫両生類学会報2015（2）：133–143／竹内将俊・西村香奈子・田中愛・内山美穂・大石英子・横山能史（2003）.房総半島におけるトウキョウサンショウウオ成体の餌資源及び産卵環境の現況.野生生物保護8（2）：89-95／田中一行・小賀野大一・八木幸市・吉野英雄・笠原孝夫（2016）.房総半島北東部の谷津におけるトウキョウサンショウウオの産卵場所.両生類誌（28）：1-4／千葉史料研究財団（編）（1996）.千葉県の自然誌本編1千葉県の自然.県史40：789pp.千葉県／千葉史料研究財団（編）（2002）.千葉県の自然誌本編6千葉県の動物-陸と淡水の生物-.県史45：988pp.千葉県／八木幸市・

松岡耕二・佐々木啓子（2015）.千葉県栗山川流域で発見されたニホンイシガメとクサガメの交雑種.千葉科学大学紀要8：85-89／八木幸市・小賀野大一・笠原孝夫・田中一行・吉野英雄・對島浩二・吉田直矢・五味真人（2017）.千葉県栗山川で捕獲されたニホンイシガメとクサガメの交雑個体の遺伝的特徴.爬虫両棲類学会報2017（2）：29-32.

（4）魚類

①選定基準について

本改訂版における選定基準は、原則として2011年版による基準を用いた。前回の基準からの大きな変更点は、以下4点である。

1）魚類の学名について、必要な変更を行った。新たに採用した学名は、原則として日本産魚類検索全種の同定第三版（2013）に基づいている。

2）ニホンウナギとマサゴハゼを新たにリストに追加した。

3）スナヤツメを「スナヤツメ種群」に変更した。スナヤツメは形態的には区別することができない2種（北方種と南方種）が存在し、千葉県には両方の種が生息するが、県内における詳細な分布域は現時点で不明であるため、今回の改訂では種群として扱うことにした。今後、遺伝子解析を用いた詳細な調査が望まれる。

4）ヤリタナゴの指定対象を個体群ではなく、種に変更した。ヤリタナゴは国内外来種として千葉県内に移入しているため、これまでは地域を指定し、在来の可能性が高い個体群を対象にしてきたが、実際には指定地域内でも移入の可能性が高い個体群が存在し、逆に指定地域外でも在来個体群が残っている可能性もある。また、形態的特徴から在来・移入の識別が困難といった問題もあるため、個体群を対象として指定するのではなく、種を対象とすることに変更した。この変更は、明らかな移入個体群も一律に保護上重要とするのではなく、在来・移入の別を検討した上で、保護するか否かを判断しようという意図である。一般に、淡水魚類においては国内外来種の問題は非常に大きく、特に、ヤリタナゴのようにもともと千葉県内の生息種に移入個体群が加わった場合には互いの識別が困難となるため、遺伝学的な解析及び文献調査等による在来個体群の把握が重要となる。

②参考文献

環境省（編）（2014）レッドデータブック2014.4汽水・淡水魚類.ぎょうせい,東京.／千葉県資料研究財団（編）（2002）千葉県の自然史、本編6、千葉県の動物―陸と淡水の動物―、県史45:988pp.千葉県／千葉県（2011）千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―動物編.千葉県,千葉.／中島淳（2017）日本のドジョウ形態・生態・文化と図鑑.山と渓谷社,東京.／中坊徹次（編）（2013）日本産魚類検索全種の同定第三版.東海大学出版会,東京.／細谷和海（編・監修）山渓ハンディ図鑑15日本の淡水魚.山と渓谷社,東京.／Yokouchi,K.,*et al.*（2014）Demographic survey of the yellow-phase Japanese eel *Anguilla japonica* in Japan.Fisheries Science,80:543-554.

（5）昆虫類

①選定基準について

本改訂版における選定基準は、原則として2011年版による基準を用いた。

②参考文献

文献類は今回の改訂に直接係わったものを中心に原則として2000年代以降の記録を中心に収録した。

（カゲロウ目）藤谷俊仁.2006.日本産コカゲロウ科カゲロウ目の7属への検索及び所属する種の分類と分布・ハビタットに関する情報.陸水学雑誌67:185-207.／石綿進一.2000.カゲロウ目.千葉県の保護上重要な野生動物ー千葉県レッドデータブックー動物編.p.194.千葉県.／Ishiwata,S.2001.Checklist of Japanese Ephemeroptera.In 21st Century and Aquatic Entomology in EastAsia,Proceedings of the 1st Joint Meeting and Symposium of Aquatic Entomologists in EastAsia,Bae,Y.J.ed.:55-84.Jeonghangsa,Seoul.／石綿進一.2001.千葉県のカゲロウ類-チェックリストー記相及び検索ー.千葉中央博自然誌研究報告:62:163-200.／石綿進一.2005.カゲロウ類蜉蝣目Ephemeroptera.日本産幼虫図鑑, pp.10-19.学習研究社, 東京.／石綿進一・竹門康弘.2005a.日本産カゲロウ類の和名-チェックリスト及び学名についてのノート-.陸水学雑誌661:11-35.／石綿進一・竹門康弘.2005b.カゲロウ類蜉蝣目Ephemeroptera.日本産水生昆虫, pp.31-128.東海大学出版会, 秦野.／石綿進一, 2018.ヒトリガカゲロウ（ヒトリガカゲロウ科, ヒトリガカゲロウ属）の分類的再検討.千葉中央博自然誌研究報告14（1）:1-6.／Tojo,K.2001. Redescription of *Brachycercus japonicus* Gose,1980 Ephemeroptera,Caenidae.Entomological Science 43:369-377.

（トンボ目）

阿部則雄.2000.トンボ目目録.鎌ヶ谷市史資料編Ⅶ自然.439-441.／枝重夫.1963.千葉県の蜻蛉第1報.千葉県動物誌基礎資料2:15-34.／枝重夫.1965a.千葉県の蜻蛉第2報.千葉県動物誌基礎資料4:27-38.／枝重夫.2007.房総半島固有型シロバネカワトンボの絶滅危機.昆虫と自然429:21-25.／枝重夫.2010.市川市の1965年までのトンボ研究史.付市川市産トンボ目録.市史研究いちかわ創刊号：54-68.／二橋亮・林文男.2004.房総半島千葉県におけるオオカワトンボとカワトンボの分布様式.Tombo 471/4:41-46.／Hämäläinen M.&Tol J.2004.Note on the nomenclature of the Japanese *Mnais* species.Tombo 47 1/4:12.／Hayashi,F.Dobata,S.&Futahashi,R.2004.Macro-and microscale distribution patterns of two closely related Japanese Mnais damselflies Odonata:Calopterygidae inferred from nuclear ribosomal ITS sequences and morphology.Odonatologica 33 4:399-412.／林文男・土畑重人・二橋亮.2004a.核DNA ITS1 の塩基配列によって区別される日本産カワトンボ

属の幼虫の形態.Tombo 47:13-24. ／林文男・土畑重人・二橋亮.2004b.日本産カワトンボ属の分類的,生態的諸問題への新しいアプローチ.I総論.Aeschna,41:1-14. ／平澤雄一.2003a.キイロヤマトンボの採集記録.房総の昆虫31:32. ／平澤雄一.2003b.夷隅郡大多喜町でタカネトンボを採集.房総の昆虫 31:33. ／石田昇三・石田義勝・小島圭三・杉村光俊.1988.日本産トンボ幼虫・成虫検索図説.141pp.東海大学出版会, 東京. ／加納一信・木村茂.2007.沢蟹に襲われたコシボソヤンマ♀.房総の昆虫 38:116-118／木村一彦.2010.市川市北方でヨツボシトンボを目撃.房総の昆虫 45:24. ／古城知己.2003.佐倉市の印旛沼におけるトラフトンボの新記録.房総の昆虫 30:38. ／松井英子・松井安俊.2001.北総の昆虫相ノート：トンボ目3.房総の昆虫 27:1-6／松木和雄・宮崎俊行・斉藤洋一・槐真史・小口岳史.1993.千葉県の蜻蛉相.湘南昆虫 3：152pp.4pls. ／松木和雄・加納一信.2000.キイロヤマトンボ木更津市に産す.房総の昆虫 24:51. ／松木和雄・加納一信.2002.香取郡下総町のトンボ.房総の昆虫 28:17-18. ／松木和雄・加納一信・木村和未.2002.千葉県におけるキイロヤマトンボの新記録地.房総の昆虫 28:19. ／松木和雄・阿部則雄・加納一信・木村和未・中山悠一郎.2003.千葉県産ホンサナエ幼虫の背棘・側棘数について.房総の昆虫 30:29-32. ／松木和雄・互井賢二.2004.コノシメトンボ幼虫の外部形態の変異について.房総の昆虫 33:1-5. ／松木和雄・加納一信.2009.千葉県産コサナエ♂の翅胸斑と尾部上付属器の変異.房総の昆虫 43:50-52. ／松木和雄・依田彦太郎.2018.四街道市のトンボ.房総の昆虫 63:31-43. ／松木和雄・大森武昭・阿部則雄・依田彦太郎.2018.印西市のトンボ.房総の昆虫 62:38-44. ／宮崎俊行.2015.平山コレクションの千葉県産マダラヤンマについて.附戦前のマダラヤンマ記録の再検討.Tombo 57:39-42. ／中山悠一郎・阿部則雄.2001.木更津市のトンボ類分布調査報告.房総の昆虫 25:1-5. ／中山悠一郎.2003.千葉市緑区及び山武郡大網白里町でみつけたトンボ類.房総の昆虫 29:41-42. ／中山悠一郎.2010.千葉市緑区土気町で採集観察したトンボ類.房総の昆虫 45:8. ／西田時弘.2008.千葉県君津市でハネビロエゾトンボを採集.月刊むし 449:48. ／日本環境動物昆虫学会編.2010.井上清・宮武頼夫監修.改訂トンボの調べ方.339pp.文教出版, 大阪. ／小野由美.2005.佐倉市直弥におけるヤマサナエ2種の混生生息確認報告.房総の昆虫 35:35-37. ／斉藤洋一・緒方政次.2002.佐倉市でナゴヤサナエを採集.房総の昆虫 28:21. ／斉藤洋一.2002.市川市でホソミイトトンボを採集.房総の昆虫 28:21. ／斉藤洋一.2010.長生郡長柄町でホソバセセリ,ホソミイトトンボを採集.房総の昆虫 45:10. ／斉藤洋一・加藤俊一.2010.東京都江戸川区でオツネントンボを採集.房総の昆虫 45:20-21. ／佐藤隆士.2004.松戸市千駄堀のトンボ相.房総の昆虫 33:6-11. ／嶋本習介.2009.千葉市の県立青葉の森公園でのネアカヨシヤンマの採集記録.房総の昆虫 43:24. ／志賀一朗.2005.野田市で初めてのマルタンヤンマを採集.房総の昆虫 34:41. ／鈴木堅司.2001a.ベニイトトンボの生息を市原市に確認.房総の昆虫 25:6. ／鈴木堅司.2001b.2000年千葉県内のトンボの記録.房総の昆虫 25:7. ／鈴木堅司.2010a.ベニイトトンボの交尾.房総の昆虫 45:表紙／鈴木堅司.2010b.千葉県におけるホソミイトトンボの記録.房総の昆虫 45:20. ／互井賢二.2002.八千代市のトンボ類.八千代市の水辺の自然環境調査報告.151-173.八千代市. ／互井賢二.2004a.市川市のムスジイトトンボについて.房総の昆虫 33:13-15／互井賢二.2004b.コノシメトンボの市川市のプールの記録.房総の昆虫 33:16. ／互井賢二.2005a.市原市でベニイトトンボを採集.房総の昆虫 35:38. ／互井賢二.2005b.養老川でキイロヤマトンボ幼虫を採集.房総の昆虫 35:40. ／互井賢二.2008.市原市で再びベニイトトンボを採集.房総の昆虫 40:52. ／互井賢二.2009a.千葉市におけるホソミイトトンボの若干の記録と新産地発見.房総の昆虫 43:24-25. ／互井賢二.2009b.千葉市におけるムスジイトトンボの若干の記録と新産地発見.房総の昆虫 43:25. ／互井賢二.2009c.八千代市でネアカヨシヤンマを発見.房総の昆虫 43:27. ／互井賢二.2009d.市川市でネキトンボを再発見.房総の昆虫 43:28. ／互井賢二.2009e.千葉市におけるヒメアカネの若干の記録.房総の昆虫 43:29. ／互井賢二.2010a.千葉市におけるアオイトトンボの産地.房総の昆虫 44:38-39. ／互井賢二.2010b.千葉市におけるヤマサナエの記録と産地.房総の昆虫 44:41-43. ／互井賢二.2010c.千葉市でマルタンヤンマを発見.房総の昆虫 45:22. ／互井賢二.2010d.千葉市におけるハラビロトンボの記録.房総の昆虫 45:24. ／互井賢二.2010e.千葉市におけるウチワヤンマの記録と産地.房総の昆虫 45:44. ／鵜飼貞行.2000.千葉県におけるベッコウトンボ最後の記録.月刊むし 358:35-36. ／柳沢勉.2017.野田市でアオハダトンボを発見.房総の昆虫 60:36.

（カワゲラ目） 千葉県史料研究財団.2003.千葉県の自然誌資料千葉県産動物総目録.378pp.千葉県. ／川合禎次・谷田一三共編.2018.日本産水生昆虫第二版.1520pp.東海大学出版会.平塚市／倉西良一.1996.千葉市の淡水大型無脊椎動物.千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書.千葉自然環境調査会〔代表：沼田真〕, pp.873-886.千葉市環境衛生局環境部／内田臣一.1986.房総丘陵の河川の水生昆虫.千葉生物誌 36:1-15.

（ゴキブリ目） 朝比奈正二郎.1991.日本産ゴキブリ類.中山書店.東京. ／山﨑秀雄.1999.千葉県の網翅目・ハサミムシ目・シリアゲムシ目.千葉県動物 pp.246-247.文一総合出版.東京.

（カマキリ目） 倉西良一.2010.ヒメカマキリとヒナカマキリの卵鞘を同じクスノキの幹から採集.房総の昆虫44:53. ／山﨑秀雄.1997.千葉県で記録の少ない昆虫の記録.房総の昆虫19:26.

（バッタ目） 千葉市環境局環境保全部環境保全推進課.2004.千葉市の保護上重要な野生生物.104pp ／井上尚武.2000.日本から発見されたカスミササキリ属*Orchelimum*の1新種.越佐昆虫同好会報 82：29-34. ／井上尚武.2002.バッタ目千葉県の自然誌本編6.千葉県の動物1-陸と淡水の動物-千葉県史料研究財団編.pp.377–391. ／井上尚武.2005.茨城県鹿島郡及び千葉県銚子市のオオクサキリについて.房総の昆虫 34:39-40. ／井上尚武.2009.バッタ目.茨城県自然博物館総合調査報告書2008年.茨城県の昆虫及びその他の無脊椎動物の動向.pp.9–10. ／井上尚武.2012.千葉県のハマスズとヤマトマダラバッタの新産地.房総の昆虫 50:37-38. ／伊藤敏仁.2001.清和県民の森及びその周辺の昆虫,平成12年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書.pp.82-99.千葉県環境部自然保護課. ／日本直翅類学会.2006.バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑.687pp.北海道大学出版会. ／西村正賢.1999.千葉県のバッタ目.千葉県動物誌.千葉県生物学会編, pp.249-260.文一総合出版, 東京. ／高野徹.2003.千葉県富津市でハマスズを確認.月刊むし 395:44. ／田辺盛光.1980.自然,In:高滝ダム水没地域総合調査報告書.pp.8-26. ／谷川正樹・金子是久・江澤英理子・長谷川雅美.2004.千葉県白井市における管理形態の異なる二次草原の植物相及びバッタ目相.千葉生物誌 54:1–10. ／斉藤明子・尾崎煙雄・宮野伸也・鈴木勝・斉藤修・村川功雄・倉西良一.2017.東京大学千葉演習林（千葉県南部清澄山系）の昆虫相,千葉中央博自然誌研究報告特別号10:61–232. ／Uchida & Ichikawa.1999.Description of three new species and two new subspecies of the genus *Tetrix Latreille*（Orthoptera：Tetrigidae）from the Kanto District,Central Japan.Tettigonia12:83-98. ／内田正吉.2009.白井市のバッタ目昆虫.「白井市生物多様性調査報告書」, pp.355–372. ／内田正吉・井上尚武.2003.市川市のバッタ類Ⅱ.「市川市自然環境実態調査報告書2002」, pp.689–704. ／和田一郎.2000.千葉県の直翅類について.房総の昆虫 24:1–25. ／和田一郎.2006.カヤヒバリの新産地.房総の昆虫 31:45-46. ／和田一郎.2010.千葉県における直翅類の追加7ナナフシ目分布資料.房総の昆虫 44:28–33. ／和田一郎.2013.ヤマトマダラバッタを長生村で採集.房総の昆虫 51:60.

（ナナフシ目）井上尚武.1998.千葉県のトゲナナフシの分布記録.ばったりぎす 120:31. ／岡田正哉.1992.検索入門セミ・バッタ.宮武頼夫・加納康嗣編著.pp.138-149.保育社, 東京／岡田正哉.1999.ナナフシのすべて.トンボ出版, 55pp.大阪. ／宮内博至.2008.鴨川市（旧天津小湊でトゲナナフシを採集）房総の昆虫 40:58. ／横田隆夫.2012.千葉市でトゲナナフシを確認.房総の昆虫 49:28.

（カメムシ目）青木直芳.2003.我孫子市岡発戸で採集したカメムシ6種の記録.房総の昆虫 31:26-27. ／青木直芳.2006.オオツノカメムシ我孫子市の記録.房総の昆虫 36:40-41. ／青木直芳.2009.我孫子市でもベニモンツノカメムシを採集.房総の昆虫 41:47. ／青木直芳.2010.カメムシ目我孫子市の昆虫, pp.68-83.岡発戸・都部の谷戸を愛する会.我孫子市. ／槐真史.2007.久保幸一氏採集の千葉県産異翅亜目.房総の昆虫 39:51-56. ／船橋市.2002.船橋市内環境調査報告書資料編, pp.55-83. ／諫川卓之.2013.市原市でオオツノカメムシを採集.房総の昆虫 52:30. ／丸山宗利ほか.2000.佐倉市の昆虫類.佐倉市自然環境調査報告書Ⅲ, pp.239-310. ／松井英子・松井安俊.2001.2000年の成田市,千葉市及び佐原市でのハルゼミ調査について.房総の昆虫 26:29. ／宮本正一ほか.2008.原色昆虫大図鑑Ⅲ・新訂版.pp.75-154.北隆館.東京. ／宮内博至.2003.君津市でクロバアカサシガメ採集.房総の昆虫 31:7. ／宮内博至.2004.オオキンカメムシの採集記録.房総の昆虫 32:61. ／宮内博至.2005a.乾草沼でヒメミズカマキリ採集.房総の昆虫 34:65. ／宮内博至.2005b.多古町でエサキアメンボ採集.房総の昆虫 34:64. ／宮内博至.2005c.光町でハネナシアメンボ採集.房総の昆虫 34:68. ／宮内博至.2005d.市原市でハネナシアメンボ長翅型採集.房総の昆虫 35:47／宮内博至.2005e.印旛村でキバネアシブトマキバサシガメ採集.房総の昆虫 35:46／宮内博至.2006.千葉県のカメムシ4種の記録.房総の昆虫 36:41-42. ／宮内博至.2008.鴨川市でケシウミアメンボを採集.房総の昆虫 40:57. ／宮内博至.2009.千葉県南部でヒメジュウジナガカメムシを採集.月刊むし 460:40. ／中村涼.2013.成田市でオオツノカメムシを採集.房総の昆虫 51:56. ／直海俊一郎.2001.千葉県産のカメムシ4種の記録.房総の昆虫 26:8. ／直海俊一郎.2002.千葉県にて採集した昆虫3種の記録.房総の昆虫 28:27. ／成田篤彦.1979b.市原市の動物.市原市史別巻.pp.700-709. ／小川洋.2009.ふぉとぎゃらりー:ヨコヅナツチカメムシ.房総の昆虫 42:表紙裏. ／信太利智.2001.乾草沼とその周辺の昆虫若干.房総の昆虫 25:49. ／信太利智.2003.フタテンカメムシの1採集例.房総の昆虫 31:41. ／志賀一朗.2006.野田市で採集したコバンムシについて.房総の昆虫 36:38-39. ／嶋本習介.2009.千葉市美浜区でオオツノカメムシを採集.房総の昆虫 42:48-49. ／嶋本習介.2010.千葉市美浜区でヒメマダラナガカメムシを採集.房総の昆虫 43:37-38. ／城田義友・高橋学.2010.清澄山系でトホシカメムシを採集.房総の昆虫 45:31. ／城田義友.2011.東京大学千葉演習林における昆虫相調査報告.房総の昆虫 47:1-64. ／鈴木智史.2001.千葉県各地で採集した水生昆虫Ⅲ.房総の昆虫 25:47-48. ／鈴木智史.2004.千葉市内2箇所でハルゼミの鳴き声を聴く.房総の昆虫 33:19／鈴木裕.2003.市川市のカメムシ2002年の記録.市川市自然環境実態調査報告書第二分冊, pp.617-628.市川市自然環境調査会, 市川市. ／鈴木裕.2004.市川市のカメムシ類.市川市自然環境実態調査報告書第二分冊, pp.855-868.市川市自然環境調査会,市川市. ／袖ヶ浦市史基礎資料調査会.1997.カメムシ目データ袖ヶ浦市史基礎資料調査報告書10袖ヶ浦の動物, pp.76-78.袖ヶ浦市教育委員会, 袖ヶ浦市. ／高橋学編.2001.みんなで調べよう身近な昆虫20種.房総の昆虫 25:50-53. ／鳥越邦博.2005.千葉県市川市でキュウシュウクチブトカメムシを採集.月刊むし 410:47. ／和田一郎.2010.ヒメハルゼミの記録.房総の昆虫 44:52. ／山﨑秀雄.2001a.千葉県のオオクチブトカメムシの記録.房総の昆虫 26:10. ／山﨑秀雄.2001b.大房岬少年自然の家に保存されているゲンゴロウとタガメの標本.房総の昆虫 26:9. ／山﨑秀雄.2002a.久留里の昆虫類調査-千葉県自然環境保全学術調査報告書-pp.39-58. ／山﨑秀雄.2002b.八千代市の昆虫.八千代市水辺の自然環境調査報告書, pp.259-292. ／山﨑秀雄.2003.オオツノカメムシ市川市の記録.房総の昆虫 30:5. ／山﨑秀雄・鈴木裕.1999.千葉県のアメンボ類.「千葉県動物誌」千葉県生物学会編, pp.312-314.文一総合出版, 東京. ／安永智秀ほか.2001.日本原色カメムシ図鑑第2巻.350pp.全国農村教育協会, 東京. ／横田隆夫.2005千葉市でオオキンカメを確認.房総の昆虫 35:43. ／横田隆夫.2013.佐倉市でのオオツノカメムシの写真撮影記録.房総の昆虫 52:30.
（アミメカゲロウ目）山﨑秀雄.1999.千葉県の網翅目･ハサミムシ目･シリアゲムシ目.千葉県動物誌pp.246-247.文一総合出版, 東京.
（コウチュウ目）深川幸雄.2004.オオルリハムシの古い採集記録.房総の昆虫 33:29. ／深川幸雄.2005a.船橋市で採集したハムシ.房総の昆虫 35:30. ／深川幸雄.2005b.船橋市で採集したカミキリ.房総の昆虫 34:56. ／深川幸雄.2007.2006年に船橋市で採集したカミキリムシ.房総の昆虫 38:109. ／藤岡昌介.2001.日本産コガネムシ上科総目録, 293pp.コガネムシ研究会／林成多.2012.月刊むし･昆虫図説シリーズ2 日本のネクイハムシ, 95pp.むし社. ／井村有希・水沢清行.2013.日本産オサムシ図説, 368pp.昆虫文献六本脚. ／妹尾俊男・山﨑秀雄.1999.千葉県のヒゲナガゾウムシ科.千葉県動物誌:720・722.文一総合出版. ／伊藤敏仁.1999.千葉県のカミキリムシ類.千葉県生物学会編.千葉県動物誌：613−633.文一総合出版. ／亀澤洋.2012.房総半島におけるツツイキバナガミズギワゴミムシの発見.さやばねニューシリーズ 6:36-37. ／笠原須磨生.1999.千葉県の歩行虫.千葉県生物学会編.千葉県動物誌：496-545.文一総合出版. ／笠原紀彦.2011.千葉県のマルコブスジコガネ採集記録.鰓角通信 22：24. ／小坂敏和・秋山美文・角島幸二・中崎清隆・大澤省三.2010.広島県産オオキノコムシ目録.広島虫の会会報 49:1-14. ／丸諭.2000.千葉県におけるアオタマムシの再記録。月刊むし 347:40. ／宮内博至.2004a.ルリツヤハダコメツキを君津市で採集.房総の昆虫 33:26. ／宮内博至.2004b.成田市、下総町でオオルリハムシ採集.房総の昆虫 33:27. ／宮内博至.2004c.柏市でジュンサイハムシ採集.房総の昆虫 33:28. ／宮内博至.2005a.佐倉市でオオルリハムシ採集.房総の昆虫 35:30. ／宮内博至.2005b.和田義人氏よりいただいたフトネクイハムシ.房総の昆虫 35:31. ／宮内博至.2005c.佐倉市・印旛村・本埜村でジュンサイハムシを採集.房総の昆虫 35:31. ／宮内博至.2006.千葉県のオオルリハムシ新産地.房総の昆虫 37:65. ／宮内博至.2010.千葉県香取市の利根川河川敷でチビアオゴミムシを採集.月刊むし 478:28. ／宮内博至.2005.君津市でモモグロハナカミキリを採集.房総の昆虫 35:29. ／森正人・北山昭.2002.改訂版図説日本のゲンゴロウ.231pp.文一総合出版. ／森本桂監修.2007.新訂原色昆虫大図鑑Ⅱ 526pp.北隆館. ／直海俊一郎・武田卓明.1999.千葉県のハネカクシ科.千葉県動物誌:551.文一総合出版. ／直海俊一郎.2004.オオネクイハムシ甲虫目,ハムシ科の千葉市からの記録.房総の昆虫 32:56. ／直海俊一郎・松田卓巳.2010.旭市におけるオオコブスジコガネの採集記録.房総の昆虫 44:46. ／成田市.2004.動植物生息調査第2次陸域編報告書：200pp.成田市. ／西泰弘.2009.ついに手にした大虎天牛.房総の昆虫 43:おもて表紙. ／西泰弘・城田義友.2010.東京大学千葉演習林における昆虫相調査報告2008～2009年度概報.房総の昆虫 45:60・65. ／大林延夫・新里達也編.2007.日本産カミキリムシ,xii+818pp.東海大学出版会. ／岡島秀治･荒谷邦雄.2007.日本産コガネムシ上科標準図鑑,444pp.学研教育出版. ／大桃定洋・福富宏和.2013.月刊むし・昆虫大図鑑シリーズ7 日本産タマムシ大図鑑, 206pp.むし社. ／尾園暁.2014.ミヤコグサマメゾウムシ.ハムシハンドブック, 92pp.文一総合出版. ／菅谷和希.2009.セスジダルマガムシ属2種を千葉県の海岸部より採集.月刊むし 465：46-47. ／高橋学・宮内博至.2004.オオルリハムシの採集記録.房総の昆虫 32:60. ／武田卓明.1999a.千葉県のオサムシ類の分布.千葉県動物誌:481-490.文一総合出版. ／武田卓明.1999b.千葉県の食糞コガネムシ類.千葉県動物誌:575-580.文一総合出版. ／武田卓明.1999c.千葉県のタマムシについて.千葉県動物誌:593・594.文一総合出版. ／田中宏卓.2008.千葉県松戸市におけるネクイハムシ2種の記録.房総の昆虫 40:26-27. ／和田義人.2003.市原市北東部のコガネムシ類、2002年の採集結果.房総の昆虫 29:33. ／山﨑秀雄.1999.千葉県の鞘翅目.千葉県動物誌:614-713.文一総合出版. ／山﨑秀雄.2004.昆虫類コウチュウ目.千葉市の保護上重要な野生生物ー千葉市レッドリスト64.千葉市環境局環境保全部環境保全推進課. ／山﨑秀雄・宮内博至.2004.市川市のコウチュウ目Ⅱ.市川市自然環境実態調査報告書200：814.市川市・市川市自然環境調査会. ／山﨑秀雄・宮内博至.2009.白井市のコウチュウ目.白井市生物多様性調査報告書:434-437.白井市. ／山﨑秀雄.1999.千葉県の鞘翅目.千葉県生物学会編.千葉県動物

誌:634-718.文一総合出版. ／谷野泰義.2007.千葉県で採集した海棲のゴミムシ類.房総の昆虫 39:59-62. ／谷野泰義.2010.カズサヒラタゴミムシの新産地.房総の昆虫 45:25-26. ／吉松慎一・伊藤昇・中谷至伸・吉武啓.2018.田中和夫コレクションオサムシ上科昆虫綱:オサムシ科標本目録,農環研報 39:15-191.
（ハチ目）青木直芳.2009.我孫子市でワレモコウチュウレンジを発見.房総の昆虫 41:16. ／青木直芳.2010.ハチ目.我孫子市の昆虫,pp.115-159.岡発戸・都部の谷津を愛する会. ／千葉県.2003.ハチ目.千葉県産動物総目録.pp.258-271.千葉県史料研究財団. ／深川幸雄.2006.船橋市で採集したキバチ類数種.房総の昆虫 37:57. ／平嶋義宏ほか.2002.膜翅類.「日本動物大百科10・昆虫III」, pp.8-83.平凡社, 東京. ／平嶋義宏.2008.ハチ目.新訂原色昆虫大圖鑑III, pp.467-586.北隆館.東京. ／井上尚武.2004.市川市のアリ類.市川市自然環境実態調査報2003・第二分冊, pp.745-750.市川市・市川市自然環境調査会. ／宮野伸也.2005.クロマルハナバチを千葉市で採集.房総の昆虫 34:52. ／宮野伸也.2007.君津市で採集されたウマノオバチ.房総の昆虫 39:99. ／成田市.2005.資料6, 昆虫目録ハチ目「動植物生息調査総合解析報告書・資料編」, pp.6-28. ／嶋本習介.2009.千葉市で77年ぶりにニッポントゲアナバチを再発見.房総の昆虫 43:38-39. ／Shinohara,A.,Hara,H. & Saito,T.2008.Taxonomy, Distribution and Life History of Sanguisorba-feeding Sawfly,*Arge suspicax*.Japanese Journal of Systematic Entomology 142:265-282. ／Shimizu,A. & Wahis,R.2009.Systematic studies on the Pompilidae occurring in Japan,Genus *Agenioideus* Ashmead,supplement. Entomological Science 123:238-251. ／須田博久.2002.新川沿いに生息するハチ類.「八千代市水辺の自然環境調査報告書」, pp.175-222.八千代市. ／須田博久.2004.市川市のハチ類.「市川市自然環境実態調査報告書2003・第二分冊」,pp.599-744.市川市・市川市自然環境調査会. ／須田博久.2004.市川市のレッドデータ候補のハチ.「市川市自然環境実態調査報告書2003・第二分冊」, pp.952-961.市川市・市川市自然環境調査会. ／須田博久.2009a.千葉県白井市のハチ類.「白井市生物多様性調査報告書・第二分冊」, pp.449-602.白井市. ／須田博久.2009b.初めて入手したウマノオバチ.房総の昆虫 41:49. ／多田内修.2003.日本産ハナバチ類目録2003.はなばち 5:1-35.ハナバチ談話会, 福岡.
高橋秀男・雛倉正人.2010.東京都のアカオビケラトリバチ.埼玉動物研通信 67:53-54. ／竹中英雄.1991.膜翅目.世界文化生物大図鑑.
（シリアゲムシ目）丸山宗利・斉藤明子・信太利智・佐野正和.2000.佐倉市の昆虫類, 昆虫目録.「佐倉市自然環境調査報告書」佐倉市自然環境調査団編, pp.292.佐倉市. ／山﨑秀雄.1999.千葉県の網翅目・ハサミムシ目・シリアゲムシ目.「千葉県動物誌」.文一総合出版. ／山﨑秀雄.2002.八千代市の昆虫.八千代市水辺の自然環境調査報告書, pp.291.八千代市.
（ハエ目）青木直芳.2008.我孫子市産ハナアブの追加記録.房総の昆虫 40:59. ／青木直芳.2010.我孫子市の昆虫.247pp.岡発戸・都部の谷津を愛する会. ／稲岡徹・渡辺護.2002.千葉県のアブ双翅目アブ科.千葉生物誌 52:1-14. ／伊東憲正・古田治.2009.カエルキンバエ調査会報告ならびに既報の整理.はなあぶ 27:58-61. ／加納六郎・小林洋・河内武.1997.千葉県産ニクバエ類の知見.千葉生物誌 47 1-2:1-16. ／加納六郎・小林洋・河内武.1998.千葉県産クロバエ類の知見.千葉生物誌 48:61-73. ／加納六郎・小林洋・河内武.1999.千葉県産イエバエ類の知見.I.ヤドリイエバエ亜科,サシバエ亜科,イエバエ亜科について.千葉生物誌 49:18-23. ／丸山宗利・斉藤明子・信太利智・佐野正和.2000.佐倉市の昆虫類昆虫目録.佐倉市自然環境調査報告書.佐倉市自然環境調査団編, pp.239-310.佐倉市経済環境部環境保全課, 佐倉市. ／篠永哲.1999.千葉県の双翅類.千葉県動物誌.pp.812-818.文一綜合出版.東京. ／双翅目談話会2002.データアップ図鑑 日本のハナアブ Ver.1.228pp. ／田悟敏弘.2004.*Eurina sabroskyi* Kanmiyaとカルマイタマヒラタアブに関する若干の生態的知見.寄せ蛾記 115:42-43. ／田悟敏弘.2010.埼玉県・千葉県・東都にて近年採集したニクバエ類Paramacronychiinae,Sarcophaginae.はなあぶ 28:24-25. ／内田正吉.2004.市川市のハエ類.市川市自然環境実態調査報告書2003, pp.589-598. ／内田正吉.2009.白井市の双翅目昆虫.白井市生物多様性調査報告書, pp.609-629.
（トビケラ目）小林草平・倉西良一・原昌久・西村登.2009.ヒゲナガカワトビケラの生息環境の観点で房総の河川を見る-房総丘陵河川底生動物動物巡検報告-.水辺の輪 27:13-18. ／倉西良一.2005.岩清水をトビケラから考える.昆虫と自然 40 10:15-18. ／倉西良一.2010.絶滅したか?千葉県のシンテイトビケラ.房総の昆虫 44:54. ／倉西良一.2010.シロフツヤトビケラ属千葉県に産す.房総の昆虫 44:53. ／Katsuma,N. & Kuranishi,R.B.2016. Redescription of *Triplectides misakianus*（Matsumura,1931）（Trichoptera,Leptoceridae）in Japan with notes on their habitat. Zoosymposia 10:234-242. ／ Miyadi.D.1932.Studies on the bottom fauna of Japanese lakes.III.Lakes of the Kwanto Plain.Japanese Journal of Zoology.4:1-39. ／大高明史・倉西良一・小林貞.2010.印旛沼と手賀沼の沖合の底生動物相.千葉県立中央博物館自然誌研究報告 11 1:1-9. ／三枝豊平・倉西良一.2005.岩清水と昆虫.昆虫と自然 40 10:2-5. ／平良裕之・倉西良一.2004.小糸川上流千葉県君津市豊英の底生大型無脊椎動物相.千葉中央博自然誌研究報告特別号 7:47-86.
（チョウ目）圓谷浩.2005.船橋市におけるミヤマチャバネセセリの観察記録.房総の昆虫 34:23-25. ／圓谷浩.2006.船橋市のミヤママセセリ.房総の昆虫 37:表紙. ／藤平暁.2001.清和県民の森自然環境保全地域変遷調査報告-昆虫類チョウ目ガ-.千葉県自然環境保全地域変遷調査報告書.pp.100-140.千葉県. ／藤平暁.2002.八千代市のガ類.「八千代市水辺の自然調査報告書」pp.223-243.八千代市, 八千代. ／藤平暁.2003.市川市の蛾類Ⅱ.「市川市自然環境実態調査報告書-2002」pp.395-403.市川市自然環境調査会, 市川. ／藤平暁.2003.市川市の蛾類Ⅲ.「市川市自然環境実態調査報告書-2003・総括」pp.946-950.市川市自然環境調査会.市川. ／藤平暁.2004ヤクシマキリガを千葉県で採集.蛾類通信 227:34.
藤平暁.2005東京湾岸河口域に生息する注目すべきヤガ2種.蛾類通信 233:147-148. ／藤平暁.2009.白井市のガ類.「白井市生物多様性調査報告書第二分冊」pp.659-682.白井市, 白井. ／蛭川憲男.2010.千葉県北総地域の蝶類調査記録.房総の昆虫 44:1-7. ／星光流・松井安俊.2007.アオバセセリの幼虫を成田市,神崎町及び香取市で採集.房総の昆虫 39:112-113. ／今村彰・井上升二・山口修.2003.西南日本におけるタケ・ササのタケノコを食樹とするヤガ科幼虫.やどりが 198:21-27. ／岩阪佳和.2001.勝浦市西部地域各所でルーミスシジミを多数採集.房総の昆虫 27:11-12. ／岩阪佳和.2004a.君津市東粟倉でウラキンシジミ越冬卵を確認.房総の昆虫 32:26. ／岩阪佳和.2004b..鋸南町,鴨川市西部,富山町各地でヤマキマダラヒカゲを採集.房総の昆虫 32:26-27. ／岩阪佳和1999「梅ヶ瀬渓谷自然環境保全区域」北部地域の蛾類調査報告.房総の昆虫 22:1-44. ／岩阪佳和.2004.富津市富岡蟻谷国有林南部地域の蛾類目録.房総の昆虫 32:1-7. ／川辺湛.1999.千葉県の小蛾類.「千葉県動物誌」千葉県生物学会編pp.326-339.文一総合出版, 東京. ／木勢庄平・城田義友.2018.東京大学千葉演習林での県内採集会報告.房総の昆虫 62:1-18. ／岸田泰則.2008.ヒトリガ雑記帳2.関東周辺の*Aloa lactinea* Cramerマエアカヒトリの記録.蛾類通信 250:446-447. ／清野元之.2001.市川市でイチモジヒメヨトウを採集.月刊むし 380:46.むし社, 東京. ／三沢博志.2009.船橋市でヒオドシチョウを目撃.房総の昆虫 43:18. ／村野宏樹.2001.松戸市でオオウラギンスジヒョウモンを採集.房総の昆虫 27:15. ／村野瑞樹.2004.松戸市でウラナミアカシジミを採集.房総の昆虫 33:39. ／村野宏樹・佐藤隆士.2003.松戸市でオオミドリシジミとヒオドシチョウを採集.房総の昆虫 29:7. ／中島正直・工藤広悦.2010.イチモジヒメヨトウの幼生期の記録.蛾類通信 255:115-118. ／西原幸雄..2009a.千葉県産オオムラサキ分布調査報告.房総の昆虫 42:27-31. ／西原幸雄.2009b.九十九里平野のアサマ

イチモンジ分布調査報告2008年.房総の昆虫 42:32-33. ／西原幸雄.2009c.千葉県産ミスジチョウ分布調査報告.房総の昆虫 42:34-36. ／西原幸雄.2009d.九十九里平野のアサマイチモンジ分布調査報告2009年.房総の昆虫 43:18-19. ／野間隆裕・藤井恒共編.2009.日本産蝶類都道223 昆虫カラー図版クモ類.十脚甲殻類.多足類.貝類.陸産及び陸水産甲殻類.保護上重要な無脊椎動物府県別レッドリスト三訂版.「日本産チョウ類の衰亡と保護第6集, pp.107-265.日本鱗翅学会. ／大塚市郎.2004.アサマイチモンジの茂原市と白子町での採集記録.房総の昆虫 33:42. ／大塚市郎.2007.千葉県内で記録した蝶類.房総の昆虫 38:67-98. ／大塚市郎.2009.千葉市若葉区貝塚町でミヤマチャバネセセリを採集.房総の昆虫 43:15. ／尾崎悠・尾崎純・尾崎俊文.2003a.千葉県内で目撃、採集した蝶類について.房総の昆虫 29:26-27. ／尾崎悠・尾崎純・尾崎俊文.2003b.千葉県におけるオオチャバネセセリの採集記録.房総の昆虫 32:33-34. ／斉藤修.2014.千葉県産ベニシタバ確認の経緯と記録.房総の昆虫 54:33. ／千葉県昆虫談話会.2018.千葉県立房総のむら昆虫相調査報告書.房総の昆虫 61:1-181. ／斉藤清一.2003.木更津市真里谷と市原市山口でウラゴマダラシジミを採集.房総の昆虫 31:9. ／斉藤清一.2005.千葉県南部のミスジチョウ越冬幼虫の採集記録.房総の昆虫 34:29. ／斉藤洋一.2010.長生郡長柄町でホソバセセリ・ホソミイトトンボを採集.房総の昆虫 45:10. ／城田義友.2010.佐倉市でオナガアゲハを採集.房総の昆虫 45:13. ／城田義友.2009.清澄山系でオビグロスズメを採集.房総の昆虫 43:22-23. ／城田義友.2014.千葉県初記録のシロシタバを採集.房総の昆虫 54:33-34. ／渡辺弘.2003.栄町でクロフキオオメイガ他を採集.房総の昆虫 30:13. ／渡辺弘.2004.沼周辺で採集した蛾類について.房総の昆虫 32:52-53. ／渡辺弘.2009.ガマヨトウ他2種の蛹及び幼虫をガマより採集.房総の昆虫 42:41. ／矢野幸夫.1999.千葉県の蛾類概説.千葉県動物誌 千葉県生物学会編, pp.321-325.文一総合出版東京. ／矢野幸夫・清野元之.1999.千葉県の大蛾類.「千葉県動物誌」千葉県生物学会編, pp.340-415.文一総合出版, 東京.
(クモ類) 浅間茂.1999.千葉県のクモ類.千葉県動物誌 (千葉県生物学会編) pp.145-178.文一総合出版.東京. ／浅間茂.2000.クモ目録.鎌ヶ谷市史資料編Ⅶ (自然), pp.453–458. ／浅間茂・笹岡文雄・長嶋充・平松殻.2000.クモ類.佐倉市自然環境調査報告書.pp.327–346. ／馬場友希.2010.千葉県松戸市「21世紀の森と広場」のクモ.KISHIDAIA97:59–67. ／加藤輝代子・中條竜太・植松いのり.2009.白井市のクモ類相.「白井市生物多様性調査報告書」, pp.325–344. ／中西亜耶.2007.キシノウエトタテグモの仔グモ親巣からの分散距離.東京クモゼミ報告 177. ／大新海明.1994.清澄山 (東京大学千葉演習林内) の真正クモ類.清澄 14:23–31. ／新海明.2007.ワスレナグモの全国分布調査結果.KISHIDAIA92:39–52. ／新海明.2010.清澄山でクモタケを発見.清澄 15:55–56. ／新海明・金野晋・畑守有紀.2002.房総丘陵でのキシノウエトタテグモとワスレナグモの新産地.KISHIDAIA 83:57–58. ／新海明・谷川明男.2000.採集情報.遊絲 7:15–16. ／新海明・谷川明男.2002.採集情報.遊絲 11:15–16. ／谷川明男.2010.日本産クモ類目ver.2010R2.CD–ROM. ／東葛飾土木事務所.2003.富士川・今上落における貴重種の確認状況.pp.1–8. ／八幡明彦.2002.千葉県野田市 (利根運河) 三ヶ尾のクモ.KISHIDAIA 83:31–47.

(6) 甲殻類

①選定基準について

1) 陸生等脚目のうちニホンヒイロワラジムシは最近、複数地点で多くの個体確認があり、かつ生息環境も破壊されていないところが多いため、ランクをBからCに改めた。一方、ニホンハマワラジムシは本種の生存に好適な環境が減少し、最近の確認例も少ないので、ランクをDからCに改めた。
2) これまでカテゴリーAにランクされてきたヒガタスナホリムシとヒメコツブムシについては、生息地にあたる汽水域の破壊が激しく、近年では確認された記録もないが、徹底的な県内調査が行われていない現状では、生息の可能性が否定できないため、この2種についてはランク変更はせず、Aランクのままとした。
3) 十脚目については、2011年以降に、新種として発表された干潟性のバンズマメガニ (Komai *et al.*,2014) とユメユムシテッポウエビ (Komai,2015) の2種が、追録としてAランクに追加された (いずれも千葉県内で採集された個体をタイプ標本に含む)。
4) 千葉県ではハマガニがこれまでXとランクされてきたが、2018年の調査により、鋸南町の河川の河口域で標本が採取され、南房総市でも本種のものとされる大型の巣穴がやはり河口域で確認された。その一方で、依然として生息環境が極めて限定されているのは疑いないので、ランクをカテゴリーAに変更することとした。
5) これまでカテゴリーAにランクされてきたハラグクレチゴガニは、大原の小河川 (特定されていない) の河口で採集されたメス標本1個体が酒井恒博士により本種に同定されたという情報 (菅野,1981)、及び小菅 (1997) による谷津干潟からの記録に基づいているが、後者については有明海から持ち込まれたアサリとともに移入されたとする指摘 (千葉県レッドデータブック改訂委員会編,2011)、及び本種が本来千葉県に自然分布するかどうかは疑わしいとの疑問も表明されていることから (齋藤,2011)、本改訂版では「情報不足」にランク変更した。
6) 2011年にランクAに指定された種のうち、トゲナシヌマエビ、ヒメヌマエビ、コンジンテナガエビの3種については、熱帯域に分布の中心があり、千葉県は分布の限界域にあたるものと考えられるので、指定が適切かどうかについては、今後の動向を観察する必要がある。
7) その他、従来では紀伊半島が太平洋側における北限とされてきた十脚類が近年では伊豆半島、三浦半島、房総半島からも報告される事例が相次いでおり (伊藤・根本,2012;岸ほか,2013;横岡・野元,2013;丸山,2015;横岡ら,2015;柚原・相澤,2016;伊藤・勝呂,2018;渡部ほか,2018;高倉・駒井,in press)、日本海周辺の海水温についてはここ100年の間、地球温暖化などによる上昇傾向も認められることから (気象庁,2018)、このことがこれら熱帯・亜熱帯域に分布中心をも

つ種の分布拡大に寄与している可能性があり、さらに黒潮による幼生分散が大きく貢献しているとの指摘もある（奥谷,1994）。房総半島の南部は黒潮の影響を強く受けるため、このような種が新たに記録された際にどのようにランク評価するかにあたっては、慎重な検討が必要である。

②参考文献

（等脚目）奥野淳兒（2011）.千葉県勝浦市鵜原理想郷の陸棲等脚類（甲殻亜門：フクロエビ上目：等脚目）.In:奥野淳兒・菊地則雄・村田明久（編）,房総半島の海洋生物誌ー分館海の博物館の研究成果に基づいてー.千葉中央博自然誌研究報告特別号,9:89–95. ／Kato,（1976）Life histories and vertical distribution in the spoil of *Ligidium japonicum* and *Ligidium* sp.（Isopoda）.Primary Report.Revue Biol.Sol.13（1）:103–116. ／Nunomura,N.（1981）*Eurydice akiyamai*,sp.nov.,a new Isopod Crustacean from an estuary in Chiba Prefecture,Central Japan.Bull. Toyama Sci.Mus.3:7–11. ／Nunomura,N.（1983）Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan I.Taxonomy of the fmilies Ligiidae,Trichoniscidae and Olibrinidae.Bull.ToyamaSci.Mus.5:23–68. ／Nunomura,N.(1984)Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan,II.Taxonomy of the Family Scyphacidae.Bull.Toyama Sci.Mus.7:1–43. ／Nunomura,N.（1986）Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan.III.Taxonomy of the Families Scyphacidae（continued,Marinoniscidae,Halophilosciidae,Philosciidae and Oniscidae）.Bull.Toyama Sci.Mus.9:1–72. ／Nunomura,N.（1987）Studies on the terrestrial isopod crustaceans in Japan,IV.Taxonomy of the Trachelipidae and Porcellionidae.Bull.Toyama Sci.Mus.11:1–76. ／Nunomura,N.（1998）On the genus *Gnorimosphaeroma*（Crust acea,Isopoda,Sphaeromatidae）in Japan with descriptions of six new species.Bull.Toyama Sci.Mus.21:23–54. ／Nunomura,N.（2004）Isopod Crustaceans in Chiba Prefecture,Central Japan.Bull.Toyama Sci.Mus.27:15–25. ／Nunomura,N.and Nunokawa,M.(2009)Discovery of *Eurydice akiyamai* from Giki-gawa steam,Okinawa Island,Ryukyu Archipelago.Bull.Toyama Sci.Mus.32:89–93. ／三浦知之（2008）ヒガタスナホリムシ.「干潟の生きもの図鑑」, pp.114.南方新社, 鹿児島市. ／
（十脚目）朝倉彰（1998）甲殻類の自然保護.「自然保護ハンドブック」（沼田眞編）,朝倉書店,東京. ／朝倉彰・森上需（2007）千葉県河口域のカニ類.海洋と生物 171:355–365. ／千葉県レッドデータブック改訂委員会（編）（2011）千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブックー動物編2011年改訂版.千葉県環境生活部自然保護課.538pp. ／風呂田利夫（1987）東京湾の生物.日本の生物 1:30–40. ／風呂田利夫・多留聖典・中村武弘（2016）干潟生物観察図鑑.誠文堂新光社, 東京.159pp. ／林健一（2007）日本産エビ類の分類と生態II.コエビ下目（1）（ヒオドシエビ上科・イトアシエビ上科・ヌマエビ上科・サンゴエビ上科・オキエビ上科・イガグリエビ上科）.生物研究社, 東京.292pp. ／伊藤寿茂・根本卓（2012）相模川河口域で観察されたカニ類ー特にタイワンヒライソモドキ*Ptychognathus ishii* Sakai,1939（モクズガニ科）の初記録とコメツキガニ*Scopimera globosa*（de Haan,1835）（コメツキガニ科）の再記録ー.神奈川自然誌資料 33:45–53. ／伊藤寿茂・勝呂尚之（2018）相模湾の汽水域で確認されたカニ類ー特に北限産出となる希少種の記録についてー.Cancer 27:17–27. ／上田常一（1973）日本淡水エビ類の研究.園山書店, 松江. ／環境庁（編）（1991）日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブック無脊椎動物編.自然環境研究センター, 東京. ／環境省（編）（2018）環境省レッドリスト2018.https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/RL2018_5_180604.pdf ／気象庁（2018）海面水温の長期変化傾向（日本近海）https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html ／菅野徹（1981）有明海:自然・生物・観察ガイド.東海大学出版会, 秦野.194pp. ／岸由二・小倉雅實・江良弘光・柳瀬博一（2013）小網代干潟における無脊椎動物の多様性・RD種に関する予報.Hiyoshi Rev.Nat.Sci.,Keio Univ.54:71–84. ／Komai,T.（2015）A new species of the snapping shrimp genus *Alpheus*（Crustacea:Deca poda:Caridea:Alpheidae）from Japan,associated with the innkeeper worm *Ikedosoma elegans*（Annelida:Echiura:Echiuridae）.Zootaxa 4058（1）:101–111. ／ Komai,T.,Nishi,E. & Taru,M.2014.A new species of *Pinnixa*（Crustacea:Decapoda:Brachyura:Pinnotheridae）associated with a tube worm,*Chaetopterus cautus*（Annelida:Polychaeta）,from Tokyo Bay,Japan.Zootaxa 3793:119–132. ／小菅丈治（1997）諫早湾におけるハラグクレチゴガニ*Ilyoplax deschampsi*（Rathbun,1913）の生息状況.Calanus 12:251–261. ／丸山智明（2015）三浦半島におけるオニヌマエビ（節足動物門：十脚目：ヌマエビ科）とコンジンテナガエビ（テナガエビ科）の記録.神奈川自然誌資料 36:41–44. ／三宅貞祥（1982）原色日本大型甲殻類図鑑（I）.保育社, 東京.261pp. ／三宅貞祥（1983）原色日本大型甲殻類図鑑（II）.保育社, 東京.277pp ／中田和義・浜野龍夫・天野邦彦・三輪準二（2011）淡水性エビ類の生態と保全.In川井唯史・中田和義（編著）エビ・カニ・ザリガニ淡水甲殻類の保全と生物学,pp.148–166.生物研究社, 東京. ／日本ベントス学会（編）（2012）干潟の絶滅危惧動物図鑑.海岸ベントスのレッドデータブック.東海大学出版会, 秦野.285pp. ／新島偉行（2001）千葉県における淡水産十脚甲殻類の分布について.千葉生物誌 51:59–81. ／奥谷喬司（編著）（1994）サンゴ礁の生きもの.山渓フィールドブックス⑨319pp.山と渓谷社,東京. ／齋藤暢宏（2011）「稀少動物」に指定される日本産十脚甲殻類.*In*川井唯史・中田和義（編著）エビ・カニ・ザリガニ淡水甲殻類の保全と生物学,pp.131–147.生物研究社.東京. ／Sakai,T.（1976）Crabs of Japan and Adjacent Seas.講談社, 東京.和文（461pp.）,英文（xxix+773pp）,図版（16pp.,251pls）. ／Sakai,K,Türkay,M,Yang,S-L.（2006）Revision of the *Helice/Chasmagnathus* complex（Crustacea:Decapoda:Brachyura）.Abh.Senckenberg.Naturforsch.Ges. 565:1–76. ／鈴木廣志・佐藤正典（1994）かごしま自然ガイド淡水産のエビとカニ.西日本新聞社. ／立川賢一・水口憲哉（1975）房総丘陵の河川における淡水エビ類の分布.「房総丘陵清澄山・高宕山地域の自然とその人為による影響IV」, pp.24–27. ／高倉仁史・駒井智幸（in press）フジテガニ*Clistocoeloma villosum*（A.Milne-Edwards,1869）（十脚目:短尾下目:イワガニ上科:ベンケイガニ科）の伊豆半島及び房総半島からの新たな記録.Cancer. ／豊田幸詞・関慎太郎（駒井智幸監修）（2014）ネイチャーウォッチングガイドブック日本の淡水性エビ・カニ日本産淡水性・汽水性甲殻類102種.誠文堂新光社, 東京.255pp. ／和田恵次・小菅丈治・高山順子（1992）チゴガニとハラグクレチゴガニの分布.甲殻類の研究 21:139. ／渡部哲也・淀真理・木邑聡美・野本彰人・和田恵次（2018）砂浜性スナガニ類の関東以南太平洋岸における分布.Cancer 27:7–16. ／横岡博之・野元彰人（2013）ヒメヤマトオサガニの静岡県における生息地の記録.南紀生物,55:137–140. ／横岡博之・柚原剛・田頭亮臣（2015）ヒメヒライソモドキの静岡県における生息地の記録.Cancer 24:39–45. ／柚原剛・相澤敬吾（2016）東京湾小櫃川河口干潟で確認されたシオマネキ：軟甲綱十脚目スナガニ科.千葉生物誌 65:52–54. ／Yuhara,T.,Yokooka,H.and Taru,M.（2017）Range extension of the sesarmid crab *Clistocoeloma villosum* along the eastern Pacific coast of the Izu Peninsula,Japan.Mar.Biodiv.Rec.10:19.

（7）多足類

①選定基準について

1）2011年版では多足類4綱のうち、調査が不十分なコムカデ類を除外し、ヤスデ綱・エダヒゲムシ綱・ムカデ綱を評価対象とし、動物部会委員の萩野康則がとりまとめを行った。本改訂版にあたっては、ヤスデ綱とムカデ綱は元獨協医科大学の石井清が、エダヒゲムシ綱は萩野が評価の見直しを行った。

2）選考カテゴリーは2011年版に従った。

3）配列はヤスデ綱、エダヒゲムシ綱、ムカデ綱に分け、それぞれについて、カテゴリー順にした。学名と和名及び同一カテゴリーの中の目から属までの順番は、篠原・田辺・コルソス（2015）、萩野（2015）、篠原・高野・石井（2015）に従い、同一属内は種小名のアルファベット順とした。

②参考文献

Hagino, Y.（1991）A new species of the genus *Fagepauropus*（Pauropoda, Pauropodidae, Polypauropodinae）from central Japan. Edaphologia（47）：11-15／萩野康則（1992a）日本産エダヒゲムシ類（Pauropoda）の新産地と新記録種.Takakuwaia（24）：85-97／萩野康則（1992b）日本産エダヒゲムシ類（Pauropoda）分類学の現状.Edaphologia（48）：35-46／Hagino, Y.（1993）A new species of the genus *Allopauropus*（Pauropoda, Pauropodidae）from the Boso Peninsula, central Japan.Nat.Hist.Res.2:175-177／萩野康則（2002）エダヒゲムシ綱.千葉県史料研究財団（編）, 千葉県の自然誌.本編6.千葉県の動物1.陸と淡水の動物：pp.297-299.千葉県／萩野康則（2003）千葉県のエダヒゲムシ類（第1報）.Takakuwaia（32）：1-4／ Hagino, Y.（2005）Contribution to the knowledge of the Japanese pauropod fauna I：A cumulative list of identified pauropod specimens from Japan during1985-2003.Nat.Hist.Res., 8（2）：15-51／萩野康則（2015）エダヒゲムシ綱.青木淳一（編）, 日本産土壌動物ー分類のための図解検索【第二版】：pp.xxiii, 917-940.東海大学出版部.神奈川／石井清（1977）ウスアカフサヤスデ*Monographis takakuwai takakuwai* MIYOSIの生活史について.清澄（6）：35-39／Ishii, K.（1988a）On the significance of the mandible as a diagnostic character in the taxonomy of penicillate diplopods（Diplopoda：Polyxenidae）.Can.Ent.120：955-963. ／石井清（1996）多足類.千葉県史料研究財団（編）,千葉県の自然誌.本編1.千葉県の自然:pp.350-357.千葉県／石井清（2002a）ヤスデ綱.千葉県史料研究財団（編）, 千葉県の自然誌.本編6.千葉県の動物1.陸と淡水の動物：pp.287-296.千葉県／石井清（2002b）ムカデ綱.千葉県史料研究財団（編）, 千葉県の自然誌.本編6.千葉県の動物1.陸と淡水の動物：pp.300-310.千葉県／石井清（2004）ヤスデ・ムカデ.自然環境研究センター（編）, 千葉市の保護上重要な野生生物ー千葉市レッドリスト：pp.76-77.千葉市環境局環境保全部環境保全推進課.千葉市／Ishii, K. and H.Tamura（1994）Taxonomic study of the order Lithobioentipedes（Lithobiidae）from the Kanto area, central Japan.Edaphologia（52）：1-18／石井清・山岡寛人（1983）清澄山の樹上営巣性アリ類の巣に共生するフサヤスデについての一例.清澄（10）：41／篠原圭三郎・高野光男・石井清（2015）ムカデ綱.青木淳一（編）, 日本産土壌動物ー分類のための図解検索【第二版】:pp.xxii-xxiii, 873-910.東海大学出版部.神奈川／篠原圭三郎・田辺力・Z.コルソス（2015）ヤスデ綱.青木淳一（編）, 日本産土壌動物ー分類のための図解検索【第二版】：pp.xxivi, 943-984.東海大学出版部.神奈川.

（8）貝類

①選定基準について

1）2011年版と同様に、陸域・淡水域・汽水域及び海域の上部浅海帯（潮下帯）に生息する貝類を対象とした。

2）対象年代も、これまでと同様に基本的には明治期初頭に設定した。しかし、完新世の自然貝層（松島1984）や貝塚（小宮・黒住1999）等からのみ知られている主に小形の種でも、明治期初頭に生息していた可能性の高い種は今回登載した。チリメンユキガイ等の中・大形で、明らかに明治期以前に滅んだものは対象から除いた。

3）今回も、貝類全体として一括してランクごとに示した。同じランク内では、報告者の見解による分類順に配列した。

4）種レベルで同定できなかったものは対象外とした。

5）報告者の見解により、外来群が定着したものと判断した種（例えばハマグリ）では、外来群は評価の対象としなかった。

6）貝類分科会のメンバーによる県内での現地調査の結果と日本各地における各種の動態（個体数及び分布域の増減）の報告・観察を基に、ランクの変更を行った。

7）ランクは、2011年版と同じである。

②参考文献

秋山章男（1988）干潟の底生生物ー干潟におけるマクロベントス相とその特徴ー.「小櫃川河口域自然環境学術調査報告書1988」（千葉県環境部自然保護課編）, pp.189-195.千葉県環境部自然保護課, 千葉／秋山章男・松田道生（1988）干潟の生物観察ハンドブック.干潟の生態学入門.東洋館出版社, 東京／馬渡和華・荒尾一樹・芝原達也・風呂田利夫（2018）東京湾の干潟で確認されたウミニナ.南紀生物 60（2）:225-228. ／千葉県外来種対策（動物）検討委員会（編）（2007）外来種（動物）の現状等に関する報告書.72pp.千葉県生活環境部自然保護課, 千葉／千葉県環境部自然保護課（編）（2000）千葉県の保護上重要な野生生物ー千葉県レッドデータブックー動物編.438pp.千葉県, 千葉. ／千葉県環境財団（編）（2006）千葉県の保護上重要な野生生物.千葉県レッドリスト（動物編）. ／天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査委員会（編）（1996）平成5～7年度天然記念物「ミヤコタナゴ」保護増殖調査事業報告書.千葉県教育委員会, 千葉／Fukuda,H.（1994）Estuarine mollusks of the Edogawa drain,central Honshu,Japan.Sci.Rep.Takao Mus.Nat.Hist.（16）:1-14. ／風呂田利夫（1980）新浜湖の底生動物調査（1979年度）.「千葉県新浜水鳥保護区（行徳近郊緑地特別保全地区）生物調査報告V」（千葉県・新浜研究会編）, pp.10-27.千葉県・新浜研究会, 千葉
風呂田利夫（2000）内湾の貝類、絶滅と保全ー東京湾のウミニナ類衰退からの考察ー.月刊海洋.号外20:74-82.

風呂田利夫・鈴木嘉平（1999）東京湾奥部谷津干潟の1986-87年冬期における底質環境ならびにマクロベントスの生息状況と垂直分布.日本ベントス学会誌 54:36-43.／風呂田利夫・山西良平・福田宏・森野浩（1996）東京湾奥部三番瀬北西域におけるマクロベントス相の分布特性.千葉生物誌 46:1-7.／波部忠重（1961）続原色日本貝類図鑑.xiv+183+42pp.+66pls.保育社,大阪／波部忠重（1977）日本産軟体動物分類学.二枚貝綱/掘足綱.xiii+372pp.図鑑の北隆館,東京／波部忠重・伊藤潔（1965）原色世界貝類図鑑.I.北太平洋編.viii+176pp.+56pls.保育社,大阪.
波部忠重・小菅貞男（1967）標準原色図鑑全集.3.貝.xviii+223pp.+64pls.保育社,大阪／堀越増興（1990）房総半島最南部と伊豆大島の海浜打ち上げ貝類相から見た黒潮系暖水要素の卓越.千葉大海洋生態系研究センター年報 10:38-49.／飯島明子・黒住耐二・風呂田利夫（2002）東京湾の人工潟湖に形成された絶滅危惧種の干潟産腹足類カワアイ*Cerithidea djadjariensis*（Martin）（軟体動物門，腹足綱）の個体群.日本ベントス学会誌 57:34-37.／池田等（1994）相模湾から消えゆく貝類.潮騒だより 5:6-7.／稲葉亨（1955a）“吸上げ”の貝類.千葉県生物学会会報 5（2）:6-7.／稲葉亨（1955b）太海の貝（II）.千葉県生物学会会報 5（5）:54-56.／稲葉亨（1963a）銚子市長崎を中心とした沿岸性貝類概観.千葉生物誌 13（2）:31-56.／稲葉亨（1963b）房州産現棲や貝塚の貝類について.「千葉県史料.原始古代編.安房国」（千葉県編），pp.43-67.千葉県／稲葉亨（1964）館山採集会.千葉県生物学会会報 14（2）:45-48／稲葉亨（1965）銚子半島の貝.「銚子の自然」（銚子市環境協会編），pp.136-159.銚子市環境協会，銚子／稲葉亨（1975）Non-marine mollusks of Chiba Prefecture.自刊／稲葉亨（1976）布良の小貝.ちりぼたん 9（2）:表紙3面.／石山尚珍（1966）東京近海の現生貝類の調査.地調月報 18（5）:223-238.／石山尚珍（1967）千葉県（東京湾側）における遺骸群集の研究.地調月報 17(4):341-359.／日本ベントス学会（編）（2012）干潟の絶滅危惧動物図鑑.海岸ベントスのレッドデータブック.Xvii+285pp.東海大学出版会,東京.／Kato,M. and G.Itani（1995）Commensalism of a bivalve,*Peregrinamor ohshimai*,with a thalassinidean burrowing shrimp,*Upogebia major*.J.Mar.Biol.Ass.UK 75:941-945.／川名美佐男（1997）軟体動物（陸産及び淡水産貝類）.「さいたまレッドデータブックー埼玉県希少野生生物調査報告書.動物編ー」（埼玉県環境部自然保護課編），pp.281-295.埼玉県環境部自然保護課，浦和.／川名興（2003）大房岬（富浦町多田良）周辺の海産貝類.千葉生物誌 52（2）:113-119.／小島英二（1982）利根川河口部貝類調査.千葉県内水面水産試験場試験調査報告 5:24-42.／小島茂明・小関祥子・飯島直子・木村妙子・大越健嗣・鈴木孝男・林育夫・風呂田利夫（2008）最近発見された東日本のカワアイ集団の遺伝的特性.Venus 67（1/2）:144.／近藤高貴（1995）マツカサガイ.「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料,Ⅱ」（（社）日本水産資源保護協会編）,pp.3-6,115.（社）日本水産資源保護協会,東京.／Kondo,T.（1998）Revision of the genus *Inversiunio*（Bivalvia:Unionidae）,Venus 57（2）:85-93.／黒住耐二（1995）ウミニナ.「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料,Ⅱ」（（社）日本水産資源保護協会編）,pp.73-78,124.（社）日本水産資源保護協会,東京.／黒住耐二（1997）オカミミガイ.「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料,Ⅳ」（（社）日本水産資源保護協会編）,pp.12-17,111.（社）日本水産資源保護協会（編）,東京.／黒住耐二（1998）日本における絶滅の危機に瀕する海産貝類.海洋と生物 20(1):21-26.／黒住耐二（1999）イタボガキは絶滅危惧種? 九州の貝（52）:23-31.／黒住耐二（2000）日本における貝類の保全生物学ー貝塚の時代から将来へー.月刊海洋・号外20:42-56.／黒住耐二（2003）多摩川水系の貝類から見た自然環境の現状把握と保全に関する研究，（財）とうきゅう環境浄化財団.研究助成・学術研究31（226）:1-242.（財）とうきゅう環境浄化財団,東京.／黒住耐二（2004）貝類.千葉市の保護上重要な野生生物ー千葉市レッドリストー（（財）自然環境研究センター編），pp.78-84.千葉市環境局，千葉／黒住耐二（2006）貝類を中心とした小形動物からみた人工海浜の環境の評価と新たな海浜環境の創出.「生物多様性を指標とした人工海浜及び護岸の環境影響評価と新たな人工海岸創出の検討（科研費報告書）」（萩野康則・黒住耐二編），pp.39-61.千葉県立中央博物館，千葉／黒住耐二（2010）バイー絶滅寸前から復活.ちば水辺の生命 149.讀賣新聞地域版34面.／黒住耐二（2015）水神下遺跡の近世貝塚から得られた貝類遺体「水神下遺跡発掘調査報告書,袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書,第24集」（田中大介編）.Pp.68-73.袖ヶ浦市教育委員会.／黒住耐二・成毛光之・渡辺富夫（1993）千葉県高宕山周辺の陸産貝類相とその特徴.千葉中央博自然誌研究報告 2（2）:145-149.／黒住耐二・岡本正豊（1994a）千葉県市原市の貝類.「市原市自然環境実態調査報告書」（市原市自然環境実態調査団編），pp.7-34.市原市環境部環境保全課，千葉／黒住耐二・岡本正豊（1994b）千葉市の貝類IIー貝類相に関する中間報告Iー.「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告」（千葉自然環境調査会編），pp.270-301.千葉市環境衛生局環境部，千葉／黒住耐二・岡本正豊（1996）千葉市の貝類2ー湾岸域の貝類相ー.「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」（千葉自然環境調査会編），pp.623-685.千葉市環境衛生局環境部，千葉／黒住耐二・尾崎煙雄・大木淳一（2004）房総丘陵のダム湖における淡水産貝類の種組成と生態分布.千葉中央博自然誌研究報告特別号（6）:33-42.／前田和俊・松隈明彦・上島励（1990）国立科学博物館収蔵稲葉コレクション陸産貝類目録.柏市教育委員会，柏／前田和俊・大熊量平（1972）陸貝採集地めぐり（29）ー房総三石山ー.ちりぼたん 7（3）:60-61.／増田修（1996）ヒロクチカノコガイ.「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料,Ⅲ」（（社）日本水産資源保護協会編）,pp.8-12,80-81.（社）日本水産資源保護協会（編）,東京.／松島義章（1979）南関東における縄文海進に伴う貝類群集の変遷.第四紀研究 17（4）:243-265.／成毛光之（1985）貝のなかま.「房総の生物」（房総の生物編集委員会編），pp.194-203.河出書房新社，東京／成毛光之（1999）千葉県非海産貝類目録.「千葉県動物誌」（千葉県生物学会編），pp.62-73.文一総合出版，東京／村岡健作・内藤武彦（1991）野村洋太郎氏寄贈貝類標本目録.神奈川県立博物館自然部門資料目録（5）:1-167.／小畠裕子（1972）みちくさ.みちくさ 5:11-16.／岡田要（編）（1965）新日本動物図鑑［中］.北隆館,東京.／岡本正豊（1993）千葉県産貝類（納付標本リスト）.「平成4年度標本資料収集動物・植物標本目録」（千葉県自然誌資料調査会編），pp.5-12.千葉県自然誌資料調査会，千葉／岡本正豊（1994）千葉県産貝類資料（1993年度）.「平成5年度標本資料収集動物・植物標本目録」（千葉県自然誌資料調査会編），pp.4-12.千葉県自然誌資料調査会，千葉／岡本正豊（1995）クロヘナタリ.「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料,Ⅱ」（（社）日本水産資源保護協会編）,pp.79-82,124-125.（社）日本水産資源保護協会（編）,東京／岡本正豊（2005）いつまで棲息していたのか小櫃川河口のヘナタリ類.ちりぼたん 35（4）:114-118.／岡本正豊・黒住耐二（1996）千葉市の貝類1ー人工海浜の貝類ー.「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告書」（千葉自然環境調査会編），pp.581-622.千葉市環境衛生局環境部，千葉／奥谷喬司（編）（1986）決定版生物大図鑑貝類.世界文化社，東京／奥谷喬司（編）（2000）日本近海産貝類図鑑.xlviii+1173pp.東海大学出版会,東京／大島喜平次（1993）南外房の貝.145pp.自刊／大嶋剛・風呂田利夫（1980）小櫃川河口干潟周辺における底生生物の分布.「千葉県木更津市小櫃川河口干潟の生態学的研究I」（東邦大学理学部海洋生物学研究室・千葉県生物学会編），pp.45-68.東邦大学理学部海洋生物学研究室・千葉県生物学会，千葉／Oyama,K.（1973）Revision of Matajiro Yokoyama's type Mollusca from the Tertiary and Quaternary of the Kanto area.Palae.Soc.Japan,Spec.Pap.（17）:1-148,57 pls.Oyama,K.,K.Sakurai and Y.Takemura（1959）The Molluscan Shells.Vol.III,Modiolus（1）,（2）.Resources Exploitation Institute,Tokyo.／坂井昭（1989）失われたウミホウズキを求めて.自刊／笹生一雄（1983）千葉県南部の陸の貝と淡水の貝について.冬虫夏草 19:21-28／清水利厚（2001）千葉県の軟体動物相.千葉県水産試験場研究報告（57）:1-159.／Sorita,E.（1986a）Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe,1955 from mainly Kanto district,

Honshu,Japan-I.A new subspecies of *Nipponochloritis pumila* (Gude,1902) and a new subspecies of *N.bracteatus* (Pilsbry,1902) . Venus 45 (2) :90-108. ／ Sorita,E. (1986b) Studies on species of the genus *Nipponochloritis* Habe,1955 from mainly Kanto district,Honshu,Japan-III.On *N.oscitans kiyosumienis* Azuma,1982 and *N.kawanai* Sorita,1980,with a conclusive remark.Venus 45 (2) :186-193. ／須藤雅彦 (2008) 手賀沼の水生生物.水の館だより (66) :6. ／立川浩之 (2011) 千葉県勝浦市吉尾周辺の潮間帯で採集された亜海産軟体動物.千葉中央博自然誌研究報告特別号 (9) :61-88. ／立川浩之・黒住耐二・藍澤正宏 (2007) 和田隆治氏採集貝類標本目録.千葉中央博自然誌研究報告特別号 (8) :1-55. ／高橋茂 (1984) 群馬県陸産及び淡水産貝類 目録.自刊／多留聖典・中山聖子・高崎隆志・駒井智幸 (2007) カイヤドリウミグモ*Nymphonella tapetis*の東京湾盤洲干潟における二枚貝類への寄生状況について.うみうし通信 (56) :4-5. ／多々良有紀・福田宏 (2011) トウキョウコオオベソマイマイ (腹足綱：有肺目：オナジマイマイ科) の千葉県における新産地.千葉生物誌 60 (2) :2-7. ／多々良有紀・福田宏 (2009) 東京湾小櫃川河口産オウギウロコガイ (二枚貝綱:マルダレガイ目:ウロコガイ科) .Molluscan Diversity 1 (1) :12-17. ／和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山岸良平・西川輝昭・五嶋聖冶・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏 (1996) 日本の干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状.WWF Japan Science Report 3:1-181. ／渡辺富夫・伊豆守彦 (1999) 千葉県外房海域の海産貝類.「千葉県動物誌」(千葉県生物学会編), pp.74-138.文一総合出版, 東京／渡辺富夫・成毛光之 (1988) 銚子現生貝類目録.銚子・自然を親しむ会会報 4:1-140. ／Yamashita,H.,M. Okamoto,M.Harato and H.Fukuda (1997) The present status and conservation values of endangered mollusks in tidal flats and estuaries of Japan-1.*Tellina* (*Serratina*) *capsoides* (Bivalvia:Veneroida:Tellinidae) .The Yuriyagai (5) :101-115. ／柚原剛・多留聖典・風呂田利夫 (2013) 東京湾における干潟ベントスの分布と希少種を含む生物多様性保全における人工水路の重要性.日本ベントス学会誌 68:16-27. ／柚原剛・多留聖典・中川雅博 (2012) 東京湾小櫃川河口域のベントス相と希少種について.千葉生物誌 62 (2) :28-38. ／柚原剛・海上智央・多留聖典 (2014) 17年ぶりに確認された小櫃川河口干潟のカワアイ.千葉生物誌 64 (1) :15-17. ／柚原剛・海上智央・多留聖典 (2014) 夷隅川河口域 (三軒屋川河口) より採集されたフトヘナタリの生貝.千葉生物誌 64 (1) :18-19. ／柚原剛・多々良有紀・多留聖典 (2010) 東京湾岸人工水路で確認されたサザナミツボ (新生腹足上目：サザナミツボ科) .Molluscan Diversity 1 (2) :33-36.

9. お問合せ先

千葉県レッドデータブック、千葉県レッドリストについては下記までお問い合わせください。

千葉県環境生活部自然保護課　生物多様性センター
〒260-8682千葉市中央区青葉町955-2　千葉県立中央博物館内　　電話 (043) 265-3601
千葉県生物多様性センター・ホームページ　http://www.bdcchiba.jp

<改訂履歴>

1.レッドデータブック植物編 公表	1999年3月
2.レッドデータブック動物編 公表	2000年3月
3.シダ植物・種子植物 改訂	2003年3月
4.レッドリスト植物編 改訂	2004年3月
5.レッドリスト動物編 改訂	2006年3月
6.レッドデータブック植物・菌類編 改訂	2009年3月
7.レッドデータブック動物編 改訂	2011年3月
8.レッドリスト植物・菌類編 改訂	2017年3月
9.レッドリスト動物編 改訂	2019年3月

千葉県の保護上重要な野生生物
―千葉県レッドリスト―　動物編／①脊椎動物

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
1	哺乳類1	X 消息不明・絶滅生物	ヒナコウモリ科		ヤマコウモリ
2	哺乳類2	X 消息不明・絶滅生物	イタチ科		カワウソ
3	哺乳類3	X 消息不明・絶滅生物	アシカ科		ニホンアシカ
4	哺乳類4	B 重要保護生物	ヒナコウモリ科		モモジロコウモリ
5	哺乳類5	B 重要保護生物	オナガザル科	**	ニホンザル
6	哺乳類6	B 重要保護生物	イヌ科		アカギツネ
7	哺乳類7	B 重要保護生物	ネズミイルカ科	**	スナメリ
8	哺乳類8	C 要保護生物	キクガシラコウモリ科		キクガシラコウモリ
9	哺乳類9	C 要保護生物	キクガシラコウモリ科		コキクガシラコウモリ
10	哺乳類10	C 要保護生物	リス科		ニホンリス
11	哺乳類11	C 要保護生物	イタチ科		ニホンアナグマ
12	哺乳類12	D 一般保護生物	トガリネズミ科		ニホンジネズミ
13	哺乳類13	D 一般保護生物	モグラ科		ヒミズ
14	哺乳類14	D 一般保護生物	ユビナガコウモリ科		ユビナガコウモリ
15	哺乳類15	D 一般保護生物	ネズミ科		カヤネズミ
16	哺乳類16	D 一般保護生物	ネズミ科		ヒメネズミ
17	哺乳類17	D 一般保護生物	イタチ科		ニホンテン
18	哺乳類18	情報不足	ヒナコウモリ科		ヒナコウモリ
19	哺乳類19	情報不足	コククジラ科	**	コククジラ
20	鳥類1	X 消息不明・絶滅生物	カモ科		サカツラガン
21	鳥類2	X 消息不明・絶滅生物	カモ科		ヒシクイ
22	鳥類3	X 消息不明・絶滅生物	カモ科		マガン
23	鳥類4	X 消息不明・絶滅生物	カモ科		カリガネ
24	鳥類5	X 消息不明・絶滅生物	カモ科		ハクガン
25	鳥類6	X 消息不明・絶滅生物	ハト科		カラスバト
26	鳥類7	X 消息不明・絶滅生物	コウノトリ科		コウノトリ
27	鳥類8	X 消息不明・絶滅生物	サギ科		オオヨシゴイ
28	鳥類9	X 消息不明・絶滅生物	トキ科		クロトキ
29	鳥類10	X 消息不明・絶滅生物	トキ科		トキ
30	鳥類11	X 消息不明・絶滅生物	クイナ科		クイナ
31	鳥類12	X 消息不明・絶滅生物	クイナ科		ヒメクイナ
32	鳥類13	X 消息不明・絶滅生物	ヨタカ科		ヨタカ
33	鳥類14	X 消息不明・絶滅生物	シギ科		コシギ
34	鳥類15	X 消息不明・絶滅生物	シギ科		アオシギ
35	鳥類16	X 消息不明・絶滅生物	ツバメチドリ科	**	ツバメチドリ
36	鳥類17	X 消息不明・絶滅生物	ヤイロチョウ科		ヤイロチョウ
37	鳥類18	X 消息不明・絶滅生物	サンショウクイ科		サンショウクイ
38	鳥類19	X 消息不明・絶滅生物	モズ科		チゴモズ
39	鳥類20	X 消息不明・絶滅生物	モズ科		アカモズ
40	鳥類21	A 最重要保護生物	キジ科		ウズラ
41	鳥類22	A 最重要保護生物	カモ科		アカハジロ
42	鳥類23	A 最重要保護生物	サギ科		サンカノゴイ
43	鳥類24	A 最重要保護生物	サギ科		ヨシゴイ
44	鳥類25	A 最重要保護生物	サギ科		ミゾゴイ
45	鳥類26	A 最重要保護生物	サギ科		カラシラサギ
46	鳥類27	A 最重要保護生物	トキ科		クロツラヘラサギ
47	鳥類28	A 最重要保護生物	クイナ科		シマクイナ
48	鳥類29	A 最重要保護生物	クイナ科		ヒクイナ
49	鳥類30	A 最重要保護生物	アマツバメ科		アマツバメ
50	鳥類31	A 最重要保護生物	チドリ科		ケリ
51	鳥類32	A 最重要保護生物	チドリ科	**	ダイゼン
52	鳥類33	A 最重要保護生物	チドリ科		シロチドリ
53	鳥類34	A 最重要保護生物	ミヤコドリ科		ミヤコドリ
54	鳥類35	A 最重要保護生物	セイタカシギ科		セイタカシギ
55	鳥類36	A 最重要保護生物	シギ科		オオジシギ
56	鳥類37	A 最重要保護生物	シギ科		チュウジシギ
57	鳥類38	A 最重要保護生物	シギ科		シベリアオオハシシギ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
58	鳥類39	A 最重要保護生物	シギ科		ハリモモチュウシャク
59	鳥類40	A 最重要保護生物	シギ科		ダイシャクシギ
60	鳥類41	A 最重要保護生物	シギ科		ホウロクシギ
61	鳥類42	A 最重要保護生物	シギ科	**	ツルシギ
62	鳥類43	A 最重要保護生物	シギ科		カラフトアオアシシギ
63	鳥類44	A 最重要保護生物	シギ科	**	メリケンキアシシギ
64	鳥類45	A 最重要保護生物	シギ科		イソシギ
65	鳥類46	A 最重要保護生物	シギ科		ヘラシギ
66	鳥類47	A 最重要保護生物	タマシギ科		タマシギ
67	鳥類48	A 最重要保護生物	カモメ科		アカアシミツユビカモメ
68	鳥類49	A 最重要保護生物	カモメ科		ズグロカモメ
69	鳥類50	A 最重要保護生物	カモメ科		コアジサシ
70	鳥類51	A 最重要保護生物	ウミスズメ科		ケイマフリ
71	鳥類52	A 最重要保護生物	ウミスズメ科		カンムリウミスズメ
72	鳥類53	A 最重要保護生物	タカ科		チュウヒ
73	鳥類54	A 最重要保護生物	タカ科		サシバ
74	鳥類55	A 最重要保護生物	フクロウ科		アオバズク
75	鳥類56	A 最重要保護生物	フクロウ科		コミミズク
76	鳥類57	A 最重要保護生物	カワセミ科	**	ヤマセミ
77	鳥類58	A 最重要保護生物	ハヤブサ科	*	ハヤブサ
78	鳥類59	A 最重要保護生物	カササギヒタキ科		サンコウチョウ
79	鳥類60	A 最重要保護生物	センニュウ科		オオセッカ
80	鳥類61	A 最重要保護生物	ヒタキ科		トラツグミ
81	鳥類62	A 最重要保護生物	ヒタキ科		クロツグミ
82	鳥類63	A 最重要保護生物	ヒタキ科		アカコッコ
83	鳥類64	A 最重要保護生物	ヒタキ科		コサメビタキ
84	鳥類65	A 最重要保護生物	ヒタキ科		キビタキ
85	鳥類66	A 最重要保護生物	ホオジロ科		コジュリン
86	鳥類67	B 重要保護生物	カモ科		コクガン
87	鳥類68	B 重要保護生物	カモ科		オシドリ
88	鳥類69	B 重要保護生物	カモ科		ヨシガモ
89	鳥類70	B 重要保護生物	カモ科		トモエガモ
90	鳥類71	B 重要保護生物	カモ科		ビロードキンクロ
91	鳥類72	B 重要保護生物	カモ科		ホオジロガモ
92	鳥類73	B 重要保護生物	ハト科		シラコバト
93	鳥類74	B 重要保護生物	ハト科		アオバト
94	鳥類75	B 重要保護生物	ウ科	**	ヒメウ
95	鳥類76	B 重要保護生物	ウ科		ウミウ
96	鳥類77	B 重要保護生物	サギ科		チュウサギ
97	鳥類78	B 重要保護生物	サギ科	**	コサギ
98	鳥類79	B 重要保護生物	ツル科	**	マナヅル
99	鳥類80	B 重要保護生物	ツル科	**	クロヅル
100	鳥類81	B 重要保護生物	ツル科	**	ナベヅル
101	鳥類82	B 重要保護生物	クイナ科		バン
102	鳥類83	B 重要保護生物	チドリ科	**	ムナグロ
103	鳥類84	B 重要保護生物	チドリ科		コチドリ
104	鳥類85	B 重要保護生物	シギ科		アカアシシギ
105	鳥類86	B 重要保護生物	シギ科	**	アオアシシギ
106	鳥類87	B 重要保護生物	シギ科		タカブシギ
107	鳥類88	B 重要保護生物	シギ科		ウズラシギ
108	鳥類89	B 重要保護生物	シギ科		チシマシギ
109	鳥類90	B 重要保護生物	シギ科		ハマシギ
110	鳥類91	B 重要保護生物	シギ科		キリアイ
111	鳥類92	B 重要保護生物	カモメ科		ベニアジサシ
112	鳥類93	B 重要保護生物	ウミスズメ科		マダラウミスズメ
113	鳥類94	B 重要保護生物	ウミスズメ科		ウミスズメ
114	鳥類95	B 重要保護生物	ミサゴ科		ミサゴ
115	鳥類96	B 重要保護生物	タカ科		ハチクマ
116	鳥類97	B 重要保護生物	タカ科		オジロワシ
117	鳥類98	B 重要保護生物	タカ科		オオワシ
118	鳥類99	B 重要保護生物	タカ科		ハイタカ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
119	鳥類100	B 重要保護生物	フクロウ科		オオコノハズク
120	鳥類101	B 重要保護生物	フクロウ科		フクロウ
121	鳥類102	B 重要保護生物	ツバメ科		コシアカツバメ
122	鳥類103	B 重要保護生物	ヒタキ科		オオルリ
123	鳥類104	B 重要保護生物	セキレイ科		キセキレイ
124	鳥類105	C 要保護生物	キジ科		ヤマドリ
125	鳥類106	C 要保護生物	カモ科		オカヨシガモ
126	鳥類107	C 要保護生物	カイツブリ科		カイツブリ
127	鳥類108	C 要保護生物	サギ科		クロサギ
128	鳥類109	C 要保護生物	クイナ科		オオバン
129	鳥類110	C 要保護生物	カッコウ科		ホトトギス
130	鳥類111	C 要保護生物	カッコウ科		ツツドリ
131	鳥類112	C 要保護生物	カッコウ科		カッコウ
132	鳥類113	C 要保護生物	アマツバメ科		ヒメアマツバメ
133	鳥類114	C 要保護生物	チドリ科		イカルチドリ
134	鳥類115	C 要保護生物	チドリ科		メダイチドリ
135	鳥類116	C 要保護生物	シギ科		オグロシギ
136	鳥類117	C 要保護生物	シギ科		オオソリハシシギ
137	鳥類118	C 要保護生物	シギ科		チュウシャクシギ
138	鳥類119	C 要保護生物	シギ科	**	クサシギ
139	鳥類120	C 要保護生物	シギ科		キアシシギ
140	鳥類121	C 要保護生物	シギ科		ソリハシシギ
141	鳥類122	C 要保護生物	シギ科		キョウジョシギ
142	鳥類123	C 要保護生物	シギ科		オバシギ
143	鳥類124	C 要保護生物	カモメ科		セグロアジサシ
144	鳥類125	C 要保護生物	タカ科	*	オオタカ
145	鳥類126	C 要保護生物	タカ科		ノスリ
146	鳥類127	C 要保護生物	フクロウ科		トラフズク
147	鳥類128	C 要保護生物	カワセミ科		カワセミ
148	鳥類129	C 要保護生物	キツツキ科		アカゲラ
149	鳥類130	C 要保護生物	キツツキ科		アオゲラ
150	鳥類131	C 要保護生物	ウグイス科		ヤブサメ
151	鳥類132	C 要保護生物	ムシクイ科		センダイムシクイ
152	鳥類133	C 要保護生物	ミソサザイ科		ミソサザイ
153	鳥類134	C 要保護生物	イワヒバリ科		イワヒバリ
154	鳥類135	C 要保護生物	アトリ科		ハギマシコ
155	鳥類136	C 要保護生物	ホオジロ科		ホオジロ
156	鳥類137	C 要保護生物	ホオジロ科		ホオアカ
157	鳥類138	D 一般保護生物	カモ科		スズガモ
158	鳥類139	D 一般保護生物	カモ科		シノリガモ
159	鳥類140	D 一般保護生物	カモ科		ウミアイサ
160	鳥類141	D 一般保護生物	カイツブリ科		カンムリカイツブリ
161	鳥類142	D 一般保護生物	サギ科	*	ダイサギ
162	鳥類143	D 一般保護生物	チドリ科	*	タゲリ
163	鳥類144	D 一般保護生物	シギ科		ミユビシギ
164	鳥類145	D 一般保護生物	シギ科		トウネン
165	鳥類146	D 一般保護生物	タカ科	*	ツミ
166	鳥類147	D 一般保護生物	カラス科	*	カケス
167	鳥類148	D 一般保護生物	ヒバリ科		ヒバリ
168	鳥類149	D 一般保護生物	ツバメ科		イワツバメ
169	鳥類150	D 一般保護生物	ヨシキリ科		オオヨシキリ
170	鳥類151	D 一般保護生物	ヨシキリ科		コヨシキリ
171	鳥類152	D 一般保護生物	セッカ科		セッカ
172	鳥類153	D 一般保護生物	イワヒバリ科		カヤクグリ
173	鳥類154	D 一般保護生物	アトリ科		イカル
174	鳥類155	D 一般保護生物	ホオジロ科		クロジ
175	鳥類156	D 一般保護生物	ホオジロ科		オオジュリン
176	爬虫類1	A 最重要保護生物	ウミガメ科		アカウミガメ
177	爬虫類2	A 最重要保護生物	イシガメ科		ニホンイシガメ
178	爬虫類3	B 重要保護生物	トカゲ科		ヒガシニホントカゲ
179	爬虫類4	B 重要保護生物	ナミヘビ科		シロマダラ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
180	爬虫類6	B 重要保護生物	ナミヘビ科		ジムグリ
181	爬虫類5	B 重要保護生物	クサリヘビ科		ニホンマムシ
182	爬虫類7	C 要保護生物	ナミヘビ科	**	シマヘビ
183	爬虫類8	D 一般保護生物	ヤモリ科		ニホンヤモリ
184	爬虫類9	D 一般保護生物	カナヘビ科		ニホンカナヘビ
185	爬虫類10	D 一般保護生物	ナミヘビ科		アオダイショウ
186	爬虫類11	D 一般保護生物	ナミヘビ科		ヤマカガシ
187	爬虫類12	D 一般保護生物	ナミヘビ科		ヒバカリ
188	爬虫類13	情報不足	スッポン科		ニホンスッポン
189	両生類1	A 最重要保護生物	サンショウウオ科		トウキョウサンショウウオ
190	両生類2	A 最重要保護生物	イモリ科		アカハライモリ
191	両生類3	A 最重要保護生物	アカガエル科		ツチガエル
192	両生類4	A 最重要保護生物	アカガエル科		ニホンアカガエル
193	両生類5	B 重要保護生物	アカガエル科		カジカガエル
194	両生類6	B 重要保護生物	アカガエル科		タゴガエル
195	両生類7	B 重要保護生物	アカガエル科		トウキョウダルマガエル
196	両生類8	C 要保護生物	アオガエル科		モリアオガエル
197	両生類9	C 要保護生物	アカガエル科		ヤマアカガエル
198	両生類10	C 要保護生物	ヒキガエル科		アズマヒキガエル
199	両生類11	D 一般保護生物	アオガエル科		シュレーゲルアオガエル
200	魚類1	X 消息不明・絶滅生物	コイ科		ゼニタナゴ
201	魚類2	X 消息不明・絶滅生物	キス科		アオギス
202	魚類3	A 最重要保護生物	ヤツメウナギ科	*	スナヤツメ種群
203	魚類4	A 最重要保護生物	コイ科		ミヤコタナゴ
204	魚類5	A 最重要保護生物	コイ科		タナゴ
205	魚類6	A 最重要保護生物	コイ科	*	アカヒレタビラ
206	魚類7	A 最重要保護生物	コイ科	*	アブラハヤ
207	魚類8	B 重要保護生物	コイ科	*	ヤリタナゴ
208	魚類9	B 重要保護生物	コイ科	*	キンブナ
209	魚類10	B 重要保護生物	コイ科		カマツカ
210	魚類11	B 重要保護生物	ギギ科		ギバチ
211	魚類12	B 重要保護生物	ナマズ科		ナマズ
212	魚類13	B 重要保護生物	メダカ科		ミナミメダカ
213	魚類14	B 重要保護生物	ハゼ科		ジュズカケハゼ
214	魚類15	B 重要保護生物	ハゼ科		トビハゼ
215	魚類16	B 重要保護生物	ハゼ科	*	マサゴハゼ
216	魚類17	C 要保護生物	ウナギ科	*	ニホンウナギ
217	魚類18	C 要保護生物	コイ科		ニゴイ
218	魚類19	C 要保護生物	ドジョウ科		ヒガシシマドジョウ
219	魚類20	C 要保護生物	ドジョウ科		ホトケドジョウ
220	魚類21	C 要保護生物	シラウオ科		シラウオ
221	魚類22	C 要保護生物	サヨリ科		クルメサヨリ
222	魚類23	C 要保護生物	ハゼ科	*	エドハゼ
223	魚類24	C 要保護生物	ハゼ科	*	チクゼンハゼ
224	魚類25	D 一般保護生物	コイ科		モツゴ
225	魚類26	D 一般保護生物	コイ科		ギンブナ
226	魚類27	D 一般保護生物	ハゼ科		ビリンゴ
227	魚類28	D 一般保護生物	ハゼ科		シロウオ
228	魚類29	D 一般保護生物	ハゼ科		ヌマチチブ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

千葉県の保護上重要な野生生物
―千葉県レッドリスト―　動物編／②無脊椎動物

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
229	昆虫1	X 消息不明・絶滅生物	バッタ目バッタ科		アカハネバッタ
230	昆虫2	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目アオイトトンボ科		コバネアオイトトンボ
231	昆虫3	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目エゾトンボ科		エゾトンボ
232	昆虫4	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目トンボ科		ベッコウトンボ
233	昆虫5	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目トンボ科		ミヤマアカネ
234	昆虫6	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目トンボ科		キトンボ
235	昆虫7	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目トンボ科		オオキトンボ
236	昆虫8	X 消息不明・絶滅生物	トンボ目ヤンマ科	**	マダラヤンマ
237	昆虫9	X 消息不明・絶滅生物	カメムシ目サシガメ科		アカヘリサシガメ
238	昆虫10	X 消息不明・絶滅生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		ゲンゴロウ
239	昆虫11	X 消息不明・絶滅生物	コウチュウ目コガネムシ科		ダイコクコガネ
240	昆虫12	X 消息不明・絶滅生物	コウチュウ目ハムシ科		キイロネクイハムシ
241	昆虫13	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		クロイエバエ
242	昆虫14	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		ミドリイエバエ
243	昆虫15	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		コミドリイエバネ
244	昆虫16	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		ノサシバエ
245	昆虫17	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		ミナミサシバエ
246	昆虫18	X 消息不明・絶滅生物	ハエ目イエバエ科		カエルキンバエ
247	昆虫19	X 消息不明・絶滅生物	トビケラ目シンテイトビケラ科		シンテイトビケラ
248	昆虫20	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目シロチョウ科		ツマグロキチョウ
249	昆虫21	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目シジミチョウ科		クロシジミ
250	昆虫22	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目タテハチョウ科		ウラギンスジヒョウモン
251	昆虫23	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目タテハチョウ科		オオウラギンヒョウモン
252	昆虫24	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目タテハチョウ科		ヒョウモンモドキ
253	昆虫25	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目ヒトリガ科		マエアカヒトリ
254	昆虫26	X 消息不明・絶滅生物	チョウ目ヒトリガ科		キバラヒトリ
255	昆虫27	A 最重要保護生物	カゲロウ目ヒトリガカゲロウ科		ヒトリガカゲロウ
256	昆虫28	A 最重要保護生物	カゲロウ目ヒラタカゲロウ科		サトキハダヒラタカゲロウ
257	昆虫29	A 最重要保護生物	トンボ目イトトンボ科		オオセスジイトトンボ
258	昆虫30	A 最重要保護生物	トンボ目イトトンボ科	**	オオイトトンボ
259	昆虫31	A 最重要保護生物	トンボ目イトトンボ科		ベニイトトンボ
260	昆虫32	A 最重要保護生物	トンボ目イトトンボ科		ヒヌマイトトンボ
261	昆虫33	A 最重要保護生物	トンボ目イトトンボ科	**	モートンイトトンボ
262	昆虫34	A 最重要保護生物	トンボ目モノサシトンボ科		オオモノサシトンボ
263	昆虫35	A 最重要保護生物	トンボ目アオイトトンボ科		オツネントンボ
264	昆虫36	A 最重要保護生物	トンボ目カワトンボ科	*	アオハダトンボ
265	昆虫37	A 最重要保護生物	トンボ目カワトンボ科	**	アサヒナカワトンボの地域個体群（シロバネカワトンボ）
266	昆虫38	A 最重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ミヤマサナエ
267	昆虫39	A 最重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		オジロサナエ
268	昆虫40	A 最重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ナゴヤサナエ
269	昆虫41	A 最重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科	**	コサナエ
270	昆虫42	A 最重要保護生物	トンボ目エゾトンボ科		トラフトンボ
271	昆虫43	A 最重要保護生物	トンボ目エゾトンボ科		キイロヤマトンボ
272	昆虫44	A 最重要保護生物	トンボ目エゾトンボ科		ハネビロエゾトンボ
273	昆虫45	A 最重要保護生物	トンボ目トンボ科		ヨツボシトンボ
274	昆虫46	A 最重要保護生物	トンボ目トンボ科		ヒメアカネ
275	昆虫47	A 最重要保護生物	トンボ目トンボ科		ネキトンボ
276	昆虫48	A 最重要保護生物	カワゲラ目アミメカワゲラ科		クサカワゲラ属の一種
277	昆虫49	A 最重要保護生物	バッタ目コオロギ科		オオオカメコオロギ
278	昆虫50	A 最重要保護生物	バッタ目ヒバリモドキ科		ハマスズ
279	昆虫51	A 最重要保護生物	バッタ目マツムシ科		カヤコオロギ
280	昆虫52	A 最重要保護生物	バッタ目キリギリス科		カスミササキリ
281	昆虫53	A 最重要保護生物	バッタ目キリギリス科		オオクサキリ
282	昆虫54	A 最重要保護生物	バッタ目バッタ科		セグロイナゴ
283	昆虫55	A 最重要保護生物	バッタ目バッタ科		イナゴモドキ
284	昆虫56	A 最重要保護生物	カメムシ目セミ科	**	ハルゼミ
285	昆虫57	A 最重要保護生物	カメムシ目コオイムシ科		タガメ
286	昆虫58	A 最重要保護生物	カメムシ目コバンムシ科		コバンムシ
287	昆虫59	A 最重要保護生物	カメムシ目ナベブタムシ科		ナベブタムシ
288	昆虫60	A 最重要保護生物	カメムシ目イトアメンボ科		イトアメンボ
289	昆虫61	A 最重要保護生物	カメムシ目ハナカメムシ科		ズイムシハナカメムシ
290	昆虫62	A 最重要保護生物	カメムシ目カメムシ目	*	オオクチブトカメムシ
291	昆虫63	A 最重要保護生物	カメムシ目カメムシ科		キュウシュウクチブトカメムシ
292	昆虫64	A 最重要保護生物	カメムシ目サシガメ科		アダチアカサシガメ
293	昆虫65	A 最重要保護生物	カメムシ目マキバサシガメ科	*	ベニモンマキバサシガメ
294	昆虫66	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		ホソハンミョウ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
295	昆虫67	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		カワラハンミョウ
296	昆虫68	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	**	シロヘリハンミョウ
297	昆虫69	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		クロカタビロオサムシ
298	昆虫70	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		コハンミョウモドキ
299	昆虫71	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		キバネキバナガミズギワゴミムシ
300	昆虫72	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		オオキバナガミズギワゴミムシ
301	昆虫73	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		ギョウトクコミズギワゴミムシ
302	昆虫74	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	**	ツツイキバナガミズギワゴミムシ
303	昆虫75	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	**	オオズミズギワゴミムシ
304	昆虫76	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		ハマベゴミムシ
305	昆虫77	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		スナハラゴミムシ
306	昆虫78	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		アオヘリアオゴミムシ
307	昆虫79	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		チビアオゴミムシ
308	昆虫80	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		クマガイクロアオゴミムシ
309	昆虫81	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	**	アリスアトキリゴミムシ
310	昆虫82	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		キイロホソゴミムシ
311	昆虫83	A 最重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		イスミナガゴミムシ
312	昆虫84	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガシラミズムシ科	**	キイロコガシラミズムシ
313	昆虫85	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガシラミズムシ科	**	クビボソコガシラミズムシ
314	昆虫86	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガシラミズムシ科	**	カミヤコガシラミズムシ
315	昆虫87	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	**	シャープツブゲンゴロウ
316	昆虫88	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		コガタノゲンゴロウ
317	昆虫89	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		キボシツブゲンゴロウ
318	昆虫90	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	**	シャープゲンゴロウモドキ
319	昆虫91	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		オオイチモンジシマゲンゴロウ
320	昆虫92	A 最重要保護生物	コウチュウ目コツブゲンゴロウ科		キボシチビコツブゲンゴロウ
321	昆虫93	A 最重要保護生物	コウチュウ目コツブゲンゴロウ科	**	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ
322	昆虫94	A 最重要保護生物	コウチュウ目ダルマガムシ科	**	ニッポンセスジダルマガムシ
323	昆虫95	A 最重要保護生物	コウチュウ目ガムシ科	**	ヤマトホソガムシ
324	昆虫96	A 最重要保護生物	コウチュウ目ガムシ科	**	マルヒラタガムシ
325	昆虫97	A 最重要保護生物	コウチュウ目ガムシ科	**	コガタガムシ
326	昆虫98	A 最重要保護生物	コウチュウ目クワガタムシ科		ネブトクワガタ本土亜種
327	昆虫99	A 最重要保護生物	コウチュウ目クワガタムシ科	**	オオクワガタ
328	昆虫100	A 最重要保護生物	コウチュウ目コブスジコガネ科		オオコブスジコガネ
329	昆虫101	A 最重要保護生物	コウチュウ目コブスジコガネ科	**	マルコブスジコガネ
330	昆虫102	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		アラメエンマコガネ
331	昆虫103	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		ヒメキイロマグソコガネ
332	昆虫104	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		キバネマグソコガネ
333	昆虫105	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		クロモンマグソコガネ
334	昆虫106	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		セマルオオマグソコガネ
335	昆虫107	A 最重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		ダルママルマグソコガネ
336	昆虫108	A 最重要保護生物	コウチュウ目ホタル科	**	ヒメボタル
337	昆虫109	A 最重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科	**	ヨツボシカミキリ
338	昆虫110	A 最重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		オオトラカミキリ
339	昆虫111	A 最重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		ハンノキカミキリ
340	昆虫112	A 最重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		アサカミキリ
341	昆虫113	A 最重要保護生物	コウチュウ目ハムシ科		シナノオオネクイハムシ
342	昆虫114	A 最重要保護生物	コウチュウ目ハムシ科		ウスグロタマノミハムシ
343	昆虫115	A 最重要保護生物	コウチュウ目ゾウムシ科		ハマベゾウムシ
344	昆虫116	A 最重要保護生物	ハチ目コマユバチ科		シブオナガコマユバチ
345	昆虫117	A 最重要保護生物	ハチ目ツチバチ科		ヤスマツツチバチ
346	昆虫118	A 最重要保護生物	ハチ目クモバチ科		ムツボシクモバチ
347	昆虫119	A 最重要保護生物	ハチ目ハキリバチ科		フルカワフトハキリバチ
348	昆虫120	A 最重要保護生物	ハチ目ミツバチ科		シロスジフトハナバチ
349	昆虫121	A 最重要保護生物	ハチ目ミツバチ科		ウスルリモンハナバチ
350	昆虫122	A 最重要保護生物	ハエ目アブ科		イシハラアブ
351	昆虫123	A 最重要保護生物	ハエ目ハナアブ科		コブアリノスアブ
352	昆虫124	A 最重要保護生物	ハエ目ニクバエ科		クダマキモドキヤドリニクバエ
353	昆虫125	A 最重要保護生物	ハエ目ニクバエ科		バッタヤドリニクバエ
354	昆虫126	A 最重要保護生物	ハエ目ニクバエ科		メッツゲルニクバエ
355	昆虫127	A 最重要保護生物	トビケラ目トビケラ科		ツマグロトビケラ
356	昆虫128	A 最重要保護生物	トビケラ目ヒゲナガトビケラ科		ミサキツノトビケラ
357	昆虫129	A 最重要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ウラキンシジミ
358	昆虫130	A 最重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		オオウラギンスジヒョウモン
359	昆虫131	A 最重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ウラギンヒョウモン
360	昆虫132	A 最重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		クモガタヒョウモン
361	昆虫133	A 最重要保護生物	チョウ目シャチホコガ科		カバイロシャチホコ
362	昆虫134	B 重要保護生物	トンボ目イトトンボ科	*	ホソミイトトンボ
363	昆虫135	B 重要保護生物	トンボ目イトトンボ科		ムスジイトトンボ
364	昆虫136	B 重要保護生物	トンボ目イトトンボ科	**	セスジイトトンボ
365	昆虫137	B 重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ホンサナエ
366	昆虫138	B 重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		キイロサナエ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
367	昆虫139	B 重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		アオサナエ
368	昆虫140	B 重要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		オナガサナエ
369	昆虫141	B 重要保護生物	トンボ目ヤンマ科		アオヤンマ
370	昆虫142	B 重要保護生物	トンボ目ヤンマ科		ネアカヨシヤンマ
371	昆虫143	B 重要保護生物	トンボ目ヤンマ科		カトリヤンマ
372	昆虫144	B 重要保護生物	トンボ目トンボ科		タカネトンボ
373	昆虫145	B 重要保護生物	トンボ目トンボ科		ハラビロトンボ
374	昆虫146	B 重要保護生物	トンボ目トンボ科		リスアカネ
375	昆虫147	B 重要保護生物	バッタ目ヒバリモドキ科		リュウキュウチビスズ
376	昆虫148	B 重要保護生物	バッタ目キリギリス科		ヒサゴクサキリ
377	昆虫149	B 重要保護生物	バッタ目バッタ科	＊	ヤマトマダラバッタ
378	昆虫150	B 重要保護生物	バッタ目ヒシバッタ科		ボウソウサワヒシバッタ
379	昆虫151	B 重要保護生物	カメムシ目セミ科	＊＊	ヒメハルゼミ
380	昆虫152	B 重要保護生物	カメムシ目タイコウチ科		ヒメミズカマキリ
381	昆虫153	B 重要保護生物	カメムシ目アメンボ科		エサキアメンボ
382	昆虫154	B 重要保護生物	カメムシ目アメンボ科		ハネナシアメンボ
383	昆虫155	B 重要保護生物	カメムシ目マキバサシガメ科		キバネアシブトマキバサシガメ
384	昆虫156	B 重要保護生物	アミメカゲロウ目カマキリモドキ科		ヒメカマキリモドキ
385	昆虫157	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		アイヌハンミョウ
386	昆虫158	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		アカガネオサムシ本州亜種
387	昆虫159	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		セアカオサムシ
388	昆虫160	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	ヒョウゴチビヒョウタンゴミムシ
389	昆虫161	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	トネガワナガゴミムシ
390	昆虫162	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	ハマベミズギワゴミムシ本土亜種
391	昆虫163	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	ムツモンコミズギワゴミムシ
392	昆虫164	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	ハガクビナガゴミムシ
393	昆虫165	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		カズサヒラタゴミムシ
394	昆虫166	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	チョウセンゴモクムシ
395	昆虫167	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	コバヤシツヤゴモクムシ
396	昆虫168	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	クビナガヨツボシゴミムシ
397	昆虫169	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	エチゴトックリゴミムシ
398	昆虫170	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		オオマルクビゴミムシ
399	昆虫171	B 重要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		キベリマルクビゴミムシ
400	昆虫172	B 重要保護生物	コウチュウ目コガシラミズムシ科		マダラコガシラミズムシ
401	昆虫173	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		マルガタゲンゴロウ
402	昆虫174	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		トダセスジゲンゴロウ
403	昆虫175	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	コマルケシゲンゴロウ
404	昆虫176	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	マルケシゲンゴロウ
405	昆虫177	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	ヒメケシゲンゴロウ基亜種
406	昆虫178	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	キボシケシゲンゴロウ
407	昆虫179	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	コウベツブゲンゴロウ
408	昆虫180	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	ルイスツブゲンゴロウ
409	昆虫181	B 重要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	キベリクロヒメゲンゴロウ
410	昆虫182	B 重要保護生物	コウチュウ目ミズスマシ科	＊＊	コオナガミズスマシ
411	昆虫183	B 重要保護生物	コウチュウ目ミズスマシ科	＊＊	コミズスマシ
412	昆虫184	B 重要保護生物	コウチュウ目エンマムシ科	＊＊	ツヤハマベエンマムシ
413	昆虫185	B 重要保護生物	コウチュウ目エンマムシ科	＊＊	ニセハマベエンマムシ
414	昆虫186	B 重要保護生物	コウチュウ目クワガタムシ科		ヒラタクワガタ本土亜種
415	昆虫187	B 重要保護生物	コウチュウ目シデムシ科		ヤマトモンシデムシ
416	昆虫188	B 重要保護生物	コウチュウ目アカマダラセンチコガネ科		アカマダラセンチコガネ
417	昆虫189	B 重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		アカマダラハナムグリ
418	昆虫190	B 重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科	＊＊	トラハナムグリ
419	昆虫191	B 重要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		オオフタホシマグソコガネ
420	昆虫192	B 重要保護生物	コウチュウ目タマムシ科		アオタマムシ
421	昆虫193	B 重要保護生物	コウチュウ目タマムシ科		クロマダラタマムシ
422	昆虫194	B 重要保護生物	コウチュウ目タマムシ科	＊	トゲフタオタマムシ
423	昆虫195	B 重要保護生物	コウチュウ目ホタル科		ゲンジボタル
424	昆虫196	B 重要保護生物	コウチュウ目ゴミムシダマシ科	＊＊	クロズハマベゴミムシダマシ
425	昆虫197	B 重要保護生物	コウチュウ目アリモドキ科	＊＊	ワタラセミズギワアリモドキ
426	昆虫198	B 重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		ベーツヒラタカミキリ
427	昆虫199	B 重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科	＊＊	モモグロハナカミキリ
428	昆虫200	B 重要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		アカアシオオアオカミキリ
429	昆虫201	B 重要保護生物	コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科		クロホシチビヒゲナガゾウムシ
430	昆虫202	B 重要保護生物	コウチュウ目ハムシ科	＊＊	キンイロネクイハムシ
431	昆虫203	B 重要保護生物	コウチュウ目ハムシ科		オオルリハムシ
432	昆虫204	B 重要保護生物	コウチュウ目イボゾウムシ科		ウキクサミズゾウムシ
433	昆虫205	B 重要保護生物	ハチ目コンボウハバチ科		ヨウロウヒラクチハバチ
434	昆虫206	B 重要保護生物	ハチ目セイボウ科		フジセイボウモドキ
435	昆虫207	B 重要保護生物	ハチ目ドロバチ科		ハグロフタオビドロバチ
436	昆虫208	B 重要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		アカオビケラトリバチ
437	昆虫209	B 重要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		フクイジガバチモドキ
438	昆虫210	B 重要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		コウライクモカリバチ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
439	昆虫211	B 重要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		キアシハナダカバチモドキ
440	昆虫212	B 重要保護生物	ハチ目ヒメハナバチ科		ヤスマツヒメハナバチ
441	昆虫213	B 重要保護生物	シリアゲムシ目シリアゲムシ科		キシタトゲシリアゲ
442	昆虫214	B 重要保護生物	ハエ目アブ科		キンイロアブ
443	昆虫215	B 重要保護生物	ハエ目ハナアブ科		カワムラモモブトハナアブ
444	昆虫216	B 重要保護生物	ハエ目ハナアブ科		マガリモンハナアブ
445	昆虫217	B 重要保護生物	ハエ目ハナアブ科		キヒゲアシブトハナアブ
446	昆虫218	B 重要保護生物	ハエ目ヒメイエバエ科		ホリヒメイエバエ
447	昆虫219	B 重要保護生物	ハエ目ヒメイエバエ科		シナハマヒメイエバエ
448	昆虫220	B 重要保護生物	ハエ目ヒメイエバエ科		ホホヒゲヒメイエバエ
449	昆虫221	B 重要保護生物	ハエ目イエバエ科		チビトゲアシメマトイ
450	昆虫222	B 重要保護生物	ハエ目イエバエ科		ウミベカトリバエ
451	昆虫223	B 重要保護生物	ハエ目ニクバエ科		ヒグラシヤチニクバエ
452	昆虫224	B 重要保護生物	トビケラ目エグリトビケラ科		エグリトビケラ
453	昆虫225	B 重要保護生物	トビケラ目エグリトビケラ科		セグロトビケラ
454	昆虫226	B 重要保護生物	チョウ目セセリチョウ科		アオバセセリ
455	昆虫227	B 重要保護生物	チョウ目セセリチョウ科		ミヤマセセリ
456	昆虫228	B 重要保護生物	チョウ目セセリチョウ科		ホソバセセリ
457	昆虫229	B 重要保護生物	チョウ目セセリチョウ科		オオチャバネセセリ
458	昆虫230	B 重要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		コツバメ
459	昆虫231	B 重要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		シルビアシジミ
460	昆虫232	B 重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		スミナガシ
461	昆虫233	B 重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ヒオドシチョウ
462	昆虫234	B 重要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		オオムラサキ
463	昆虫235	B 重要保護生物	チョウ目スズメガ科	＊	オビグロスズメ
464	昆虫236	B 重要保護生物	チョウ目ヒトリガ科	＊＊	ヒトリガ
465	昆虫237	B 重要保護生物	チョウ目ヤガ科		ミスジキリガ
466	昆虫238	B 重要保護生物	チョウ目ヤガ科		ヤクシマキリガ
467	昆虫239	C 要保護生物	トンボ目イトトンボ科		キイトトンボ
468	昆虫240	C 要保護生物	トンボ目モノサシトンボ科		モノサシトンボ
469	昆虫241	C 要保護生物	トンボ目アオイトトンボ科		アオイトトンボ
470	昆虫242	C 要保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ダビドサナエ
471	昆虫243	C 要保護生物	トンボ目ヤンマ科		コシボソヤンマ
472	昆虫244	C 要保護生物	トンボ目ヤンマ科		マルタンヤンマ
473	昆虫245	C 要保護生物	カマキリ目カマキリ科		ヒメカマキリ
474	昆虫246	C 要保護生物	バッタ目コオロギ科	＊	クロツヤコオロギ
475	昆虫247	C 要保護生物	バッタ目コオロギ科	＊	コガタコオロギ
476	昆虫248	C 要保護生物	バッタ目クツワムシ科		クツワムシ
477	昆虫249	C 要保護生物	カメムシ目アメンボ科		ケシウミアメンボ
478	昆虫250	C 要保護生物	カメムシ目サシガメ科		クロバアカサシガメ
479	昆虫251	C 要保護生物	カメムシ目ヘリカメムシ科		アズキヘリカメムシ
480	昆虫252	C 要保護生物	カメムシ目クヌギカメムシ科		ナシカメムシ
481	昆虫253	C 要保護生物	カメムシ目ツチカメムシ科		ヨコヅナツチカメムシ
482	昆虫254	C 要保護生物	カメムシ目ツチカメムシ科		フタボシツチカメムシ
483	昆虫255	C 要保護生物	カメムシ目キンカメムシ科		オオキンカメムシ
484	昆虫256	C 要保護生物	カメムシ目カメムシ科		フタテンカメムシ
485	昆虫257	C 要保護生物	カメムシ目カメムシ科		トゲカメムシ
486	昆虫258	C 要保護生物	カメムシ目カメムシ科		トホシカメムシ
487	昆虫259	C 要保護生物	カメムシ目カメムシ科		イネカメムシ
488	昆虫260	C 要保護生物	カメムシ目カメムシ科	＊＊	ルリクチブトカメムシ
489	昆虫261	C 要保護生物	カメムシ目ツノカメムシ科		ベニモンツノカメムシ
490	昆虫262	C 要保護生物	アミメカゲロウ目ツノトンボ科		ツノトンボ
491	昆虫263	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	コハンミョウ
492	昆虫264	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		カワラゴミムシ
493	昆虫265	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		クロオサムシ関東地方北西部亜種
494	昆虫266	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		コクロナガオサムシ東北地方南部亜種
495	昆虫267	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		オサムシモドキ
496	昆虫268	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		キバナガミズギワゴミムシ
497	昆虫269	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		カジムラヒメナガゴミムシ
498	昆虫270	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科		コハラアカモリヒラタゴミムシ
499	昆虫271	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	タナカツヤハネゴミムシ
500	昆虫272	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	イグチケブカゴミムシ
501	昆虫273	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	オオトックリゴミムシ
502	昆虫274	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	オオサカアオゴミムシ
503	昆虫275	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	クビナガキベリアオゴミムシ
504	昆虫276	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	ツヤキベリアオゴミムシ
505	昆虫277	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	コアトワアオゴミムシ
506	昆虫278	C 要保護生物	コウチュウ目オサムシ科	＊＊	コホソクビゴミムシ
507	昆虫279	C 要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		オオヒメゲンゴロウ
508	昆虫280	C 要保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	＊＊	クロゲンゴロウ
509	昆虫281	C 要保護生物	コウチュウ目ミズスマシ科		オオミズスマシ
510	昆虫282	C 要保護生物	コウチュウ目ミズスマシ科		ヒメミズスマシ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
511	昆虫283	C 要保護生物	コウチュウ目ミズスマシ科		ミズスマシ
512	昆虫284	C 要保護生物	コウチュウ目ガムシ科	**	ガムシ
513	昆虫285	C 要保護生物	コウチュウ目シデムシ科	**	オニヒラタシデムシ
514	昆虫286	C 要保護生物	コウチュウ目ハネカクシ科	**	オオツノハネカクシ
515	昆虫287	C 要保護生物	コウチュウ目クシヒゲムシ科		クチキクシヒゲムシ
516	昆虫288	C 要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		ヤマトケシマグソコガネ
517	昆虫289	C 要保護生物	コウチュウ目コガネムシ科		シロスジコガネ
518	昆虫290	C 要保護生物	コウチュウ目ヒゲブトハナムグリ科		ヒゲブトハナムグリ
519	昆虫291	C 要保護生物	コウチュウ目タマムシ科		クロタマムシ本土亜種
520	昆虫292	C 要保護生物	コウチュウ目タマムシ科		アオマダラタマムシ
521	昆虫293	C 要保護生物	コウチュウ目コメツキムシ科		ルリツヤハダコメツキ
522	昆虫294	C 要保護生物	コウチュウ目コメツキムシ科		カワイヒラアシコメツキ
523	昆虫295	C 要保護生物	コウチュウ目ホタル科		ヘイケボタル
524	昆虫296	C 要保護生物	コウチュウ目ホタル科		クロマドボタル
525	昆虫297	C 要保護生物	コウチュウ目ジョウカイモドキ科		イソジョウカイモドキ
526	昆虫298	C 要保護生物	コウチュウ目オオキノコムシ科	**	アカモンチビオオキノコ
527	昆虫299	C 要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		ベニバハナカミキリ
528	昆虫300	C 要保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科	**	ネジロカミキリ
529	昆虫301	C 要保護生物	コウチュウ目ハムシ科		キアシネクイハムシ
530	昆虫302	C 要保護生物	コウチュウ目ハムシ科		フトネクイハムシ
531	昆虫303	C 要保護生物	コウチュウ目ハムシ科	**	イネネクイハムシ
532	昆虫304	C 要保護生物	コウチュウ目ハムシ科	*	スゲハムシ
533	昆虫305	C 要保護生物	ハチ目ミフシハバチ科		ワレモコウチュウレンジ
534	昆虫306	C 要保護生物	ハチ目キバチ科		ヒゲジロキバチ
535	昆虫307	C 要保護生物	ハチ目クキバチ科		モンクキバチ
536	昆虫308	C 要保護生物	ハチ目ヤドリキバチ科		トサヤドリキバチ
537	昆虫309	C 要保護生物	ハチ目コマユバチ科		ウマノオバチ
538	昆虫310	C 要保護生物	ハチ目ヒラタタマバチ科		ニホンヒラタタマバチ
539	昆虫311	C 要保護生物	ハチ目セイボウ科		セイドウマルセイボウ
540	昆虫312	C 要保護生物	ハチ目クモバチ科		スギハラクモバチ
541	昆虫313	C 要保護生物	ハチ目クモバチ科		ミイロツメボソクモバチ
542	昆虫314	C 要保護生物	ハチ目ドロバチ科		キボシトックリバチ
543	昆虫315	C 要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		ニッポントゲアナバチ
544	昆虫316	C 要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		ハクサンツヤアナバチ
545	昆虫317	C 要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		オオドロバチモドキ
546	昆虫318	C 要保護生物	ハチ目ギングチバチ科		ニッポントゲアワフキバチ
547	昆虫319	C 要保護生物	ハチ目コハナバチ科		チバヤドリコハナバチ
548	昆虫320	C 要保護生物	ハチ目ケアシハナバチ科		シロスジフデアシハナバチ
549	昆虫321	C 要保護生物	ハチ目ミツバチ科		シロスジムカシハナバチヤドリ
550	昆虫322	C 要保護生物	ハチ目ミツバチ科		クロマルハナバチ
551	昆虫323	C 要保護生物	シリアゲムシ目ガガンボモドキ科		ガガンボモドキ（ヤマトガガンボモドキ）
552	昆虫324	C 要保護生物	シリアゲムシ目シリアゲムシ科		ミスジシリアゲ
553	昆虫325	C 要保護生物	シリアゲムシ目シリアゲムシ科		ホシシリアゲ
554	昆虫326	C 要保護生物	ハエ目ハナアブ科		カルマイツヤタマヒラタアブ
555	昆虫327	C 要保護生物	ハエ目ハナアブ科		カクモンハラブトハナアブ
556	昆虫328	C 要保護生物	ハエ目ニクバエ科		シュッツェニクバエ
557	昆虫329	C 要保護生物	ハエ目ニクバエ科		キーガンニクバエ
558	昆虫330	C 要保護生物	トビケラ目ナガレトビケラ科		キヨスミナガレトビケラ
559	昆虫331	C 要保護生物	トビケラ目カクスイトビケラ科		ニイガタツツトビケラ
560	昆虫332	C 要保護生物	トビケラ目カタツムリトビケラ科		カタツムリトビケラ
561	昆虫333	C 要保護生物	トビケラ目ツノツツトビケラ科		ツノツツトビケラ
562	昆虫334	C 要保護生物	トビケラ目グマガトビケラ科		トウヨウグマガトビケラ
563	昆虫335	C 要保護生物	チョウ目セセリチョウ科		ミヤマチャバネセセリ
564	昆虫336	C 要保護生物	チョウ目アゲハチョウ科		オナガアゲハ
565	昆虫337	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ミズイロオナガシジミ
566	昆虫338	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ウラゴマダラシジミ
567	昆虫339	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		オオミドリシジミ
568	昆虫340	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		アカシジミ
569	昆虫341	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ウラナミアカシジミ
570	昆虫342	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ミドリシジミ
571	昆虫343	C 要保護生物	チョウ目シジミチョウ科		ルーミスシジミ
572	昆虫344	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		アサマイチモンジ
573	昆虫345	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		コムラサキ
574	昆虫346	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科	**	ゴマダラチョウ
575	昆虫347	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ミドリヒョウモン
576	昆虫348	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ミスジチョウ
577	昆虫349	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ジャノメチョウ
578	昆虫350	C 要保護生物	チョウ目タテハチョウ科		ヤマキマダラヒカゲ房総亜種（ボウソウヤマキマダラヒカゲ）
579	昆虫351	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科	*	ウスズミケンモン
580	昆虫352	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科	*	ツマグロキヨトウ
581	昆虫353	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科		ガマヨトウ
582	昆虫354	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科		オオチャバネヨトウ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
583	昆虫355	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科		イチモジヒメヨトウ
584	昆虫356	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科		キュウシュウスジヨトウ
585	昆虫357	C 要保護生物	チョウ目ヤガ科		ミヤケジマヨトウ
586	昆虫358	D 一般保護生物	カゲロウ目シロイロカゲロウ科		アカツキシロカゲロウ
587	昆虫359	D 一般保護生物	カゲロウ目ヒメシロカゲロウ科		ミツトゲヒメシロカゲロウ
588	昆虫360	D 一般保護生物	カゲロウ目マダラカゲロウ科		イシワタマダラカゲロウ
589	昆虫361	D 一般保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ヤマサナエ
590	昆虫362	D 一般保護生物	トンボ目サナエトンボ科		ウチワヤンマ
591	昆虫363	D 一般保護生物	トンボ目サナエトンボ科		サラサヤンマ
592	昆虫364	D 一般保護生物	トンボ目ヤンマ科		ヤブヤンマ
593	昆虫365	D 一般保護生物	トンボ目ヤンマ科		クロスジギンヤンマ
594	昆虫366	D 一般保護生物	トンボ目トンボ科		コノシメトンボ
595	昆虫367	D 一般保護生物	トンボ目トンボ科		チョウトンボ
596	昆虫368	D 一般保護生物	トンボ目トンボ科	**	マイコアカネ
597	昆虫369	D 一般保護生物	トンボ目トンボ科	**	クロイトトンボ
598	昆虫370	D 一般保護生物	カワゲラ目カワゲラ科		クロヒゲカワゲラ
599	昆虫371	D 一般保護生物	ゴキブリ目オオゴキブリ科		オオゴキブリ
600	昆虫372	D 一般保護生物	カマキリ目ヒナカマキリ科		ヒナカマキリ
601	昆虫373	D 一般保護生物	バッタ目コオロギ科		ナツノツヅレサセコオロギ
602	昆虫374	D 一般保護生物	バッタ目マツムシ科		クチキコオロギ
603	昆虫375	D 一般保護生物	バッタ目マツムシ科		マツムシ
604	昆虫376	D 一般保護生物	バッタ目カネタタキ科		イソカネタタキ
605	昆虫377	D 一般保護生物	バッタ目バッタ科	**	ツマグロバッタ
606	昆虫378	D 一般保護生物	ナナフシ目ナナフシ科	*	トゲナナフシ
607	昆虫379	D 一般保護生物	カメムシ目アメンボ科	*	ヤスマツアメンボ
608	昆虫380	D 一般保護生物	カメムシ目アメンボ科		オオアメンボ
609	昆虫381	D 一般保護生物	カメムシ目ナガカメムシ科		ヒメマダラナガカメムシ
610	昆虫382	D 一般保護生物	カメムシ目ナガカメムシ科		ヒメジュウジナガカメムシ
611	昆虫383	D 一般保護生物	カメムシ目カメムシ科		ハナダカカメムシ
612	昆虫384	D 一般保護生物	カメムシ目カメムシ科	*	オオツノカメムシ
613	昆虫385	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科	*	マイマイカブリ関東・中部地方亜種
614	昆虫386	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科		ルイスオサムシ房総半島南部亜種
615	昆虫387	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科		ヒョウタンゴミムシ
616	昆虫388	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科		オオキベリアオゴミムシ
617	昆虫389	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科		コアオアトキリゴミムシ
618	昆虫390	D 一般保護生物	コウチュウ目オサムシ科		アオバネホソクビゴミムシ
619	昆虫391	D 一般保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科	**	ケシゲンゴロウ
620	昆虫392	D 一般保護生物	コウチュウ目ゲンゴロウ科		シマゲンゴロウ
621	昆虫393	D 一般保護生物	コウチュウ目ガムシ科		コガムシ
622	昆虫394	D 一般保護生物	コウチュウ目シデムシ科		ベッコウヒラタシデムシ
623	昆虫395	D 一般保護生物	コウチュウ目ムネアカセンチコガネ科		ムネアカセンチコガネ
624	昆虫396	D 一般保護生物	コウチュウ目コメツキムシ科		フタモンウバタマコメツキ
625	昆虫397	D 一般保護生物	コウチュウ目ゴミムシダマシ科		オオモンキゴミムシダマシ
626	昆虫398	D 一般保護生物	コウチュウ目カミキリムシ科		チャイロヒメハナカミキリ
627	昆虫399	D 一般保護生物	コウチュウ目ハムシ科	*	ジュンサイハムシ
628	昆虫400	D 一般保護生物	シリアゲムシ目シリアゲムシ科		ヤマトシリアゲ（シリアゲムシ）
629	昆虫401	D 一般保護生物	ハエ目アブ科		ヨスジキンメアブ
630	昆虫402	D 一般保護生物	ハエ目アブ科		シロスネアブ
631	昆虫403	D 一般保護生物	ハエ目アブ科		ハタケヤマアブ
632	昆虫404	D 一般保護生物	ハエ目クロバエ科		ミドリバエ
633	昆虫405	D 一般保護生物	トビケラ目エグリトビケラ科		トビイロトビケラ
634	昆虫406	D 一般保護生物	トビケラ目エグリトビケラ科		ウルマートビイロトビケラ
635	昆虫407	D 一般保護生物	トビケラ目マルバネトビケラ科		マルバネトビケラ
636	昆虫408	D 一般保護生物	トビケラ目カクツツトビケラ科		トウヨウカクツツトビケラ
637	昆虫409	D 一般保護生物	チョウ目ヤガ科	*	ホソバオビキリガ
638	昆虫410	D 一般保護生物	チョウ目ヤガ科		サヌキキリガ
639	昆虫411	情報不足	カマキリ目カマキリ科	**	ウスバカマキリ
640	昆虫412	情報不足	バッタ目ヒバリモドキ科	**	カヤヒバリ
641	昆虫413	情報不足	バッタ目ヒバリモドキ科	**	ヒメスズ
642	昆虫414	情報不足	バッタ目ヒバリモドキ科	**	ウスモンナギサスズ
643	昆虫415	情報不足	バッタ目カネタタキ科	**	アシジマカネタタキ
644	昆虫416	情報不足	チョウ目ヤガ科	*	カバイロキヨトウ
645	昆虫417	情報不足	チョウ目ヤガ科	**	シロシタバ
646	昆虫418	情報不足	チョウ目ヤガ科	**	ベニシタバ
647	クモ類1	A 最重要保護生物	クモ目トタテグモ科		カネコトタテグモ
648	クモ類2	A 最重要保護生物	クモ目ジグモ科		ワスレナグモ
649	クモ類3	A 最重要保護生物	クモ目コガネグモ科		コケオニグモ
650	クモ類4	B 重要保護生物	クモ目トタテグモ科		キノボリトタテグモ
651	クモ類5	B 重要保護生物	クモ目トタテグモ科		キシノウエトタテグモ
652	クモ類6	B 重要保護生物	クモ目アシナガグモ科	**	キヌアシナガグモ
653	クモ類7	C 要保護生物	クモ目コガネグモ科		コガネグモ
654	クモ類8	C 要保護生物	クモ目コモリグモ科		シッチコモリグモ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
655	クモ類9	D 一般保護生物	クモ目コガネグモ科		ナカムラオニグモ
656	クモ類10	D 一般保護生物	クモ目コガネグモ科		オニグモ
657	甲殻類1	A 最重要保護生物	スナホリムシ科		ヒガタスナホリムシ
658	甲殻類2	A 最重要保護生物	コツブムシ科		ヒメコツブムシ
659	甲殻類3	A 最重要保護生物	ヌマエビ科		ミゾレヌマエビ
660	甲殻類4	A 最重要保護生物	ヌマエビ科		トゲナシヌマエビ
661	甲殻類5	A 最重要保護生物	ヌマエビ科		ヒメヌマエビ
662	甲殻類6	A 最重要保護生物	テナガエビ科		コンジンテナガエビ
663	甲殻類7	A 最重要保護生物	テッポウエビ科	＊	ユメユムシテッポウエビ
664	甲殻類8	A 最重要保護生物	ムツハアリアケガニ科		アリアケモドキ
665	甲殻類9	A 最重要保護生物	ムツハアリアケガニ科		カワスナガニ
666	甲殻類10	A 最重要保護生物	ベンケイガニ科		ウモレベンケイガニ
667	甲殻類11	A 最重要保護生物	モクズガニ科	＊	ハマガニ
668	甲殻類12	A 最重要保護生物	モクズガニ科		トゲアシヒライソモドキ
669	甲殻類13	A 最重要保護生物	ベンケイガニ科		オオユビアカベンケイガニ
670	甲殻類14	A 最重要保護生物	カクレガニ科		バンズマメガニ
671	甲殻類15	B 重要保護生物	フナムシ科		キヨスミチビヒメフナムシ
672	甲殻類16	B 重要保護生物	オサガニ科		オサガニ
673	甲殻類17	B 重要保護生物	ベンケイガニ科		ベンケイガニ
674	甲殻類18	C 要保護生物	ウシオワラジムシ科	＊	ニッポンヒイロワラジムシ
675	甲殻類19	C 要保護生物	ウミベワラジムシ科		ニホンハマワラジムシ
676	甲殻類20	C 要保護生物	ヌマエビ科		ヤマトヌマエビ
677	甲殻類21	C 要保護生物	ヌマエビ科		ヌマエビ
678	甲殻類22	C 要保護生物	ヌマエビ科		ヌカエビ
679	甲殻類23	C 要保護生物	ハサミシャコエビ科		ハサミシャコエビ
680	甲殻類24	C 要保護生物	サワガニ科		サワガニ
681	甲殻類25	D 一般保護生物	テナガエビ科		スジエビ
682	甲殻類26	D 一般保護生物	テナガエビ科		テナガエビ
683	甲殻類27	D 一般保護生物	テナガエビ科		ミナミテナガエビ
684	甲殻類28	D 一般保護生物	テナガエビ科		ヒラテテナガエビ
685	甲殻類29	D 一般保護生物	コブシガニ科		マメコブシ
686	甲殻類30	D 一般保護生物	ベンケイガニ科		クロベンケイガニ
687	甲殻類31	D 一般保護生物	ベンケイガニ科		アカテガニ
688	甲殻類32	D 一般保護生物	モクズガニ科		モクズガニ
689	甲殻類33	D 一般保護生物	モクズガニ科		アシハラガニ
690	甲殻類34	D 一般保護生物	コメツキガニ科		チゴガニ
691	甲殻類35	情報不足	コメツキガニ科	＊	ハラグクレチゴガニ
692	多足類1	A 最重要保護生物	ヤスデ綱フサヤスデ科		ハイイロチビケフサヤスデ
693	多足類2	A 最重要保護生物	ヤスデ綱フサヤスデ科		イソフサヤスデ
694	多足類3	A 最重要保護生物	ヤスデ綱フサヤスデ科		シノハラフサヤスデ
695	多足類4	A 最重要保護生物	ヤスデ綱ハガヤスデ科		コブヤスデ
696	多足類5	A 最重要保護生物	ヤスデ綱ババヤスデ科		トラフババヤスデ
697	多足類6	A 最重要保護生物	ヤスデ綱オビヤスデ科		トワダオビヤスデ
698	多足類7	B 重要保護生物	ヤスデ綱タマヤスデ科		ヤマトタマヤスデ
699	多足類8	B 重要保護生物	ヤスデ綱タマヤスデ科		フイリタマヤスデ
700	多足類9	B 重要保護生物	ヤスデ綱ヒゲヤスデ科		ヒゲヤスデ
701	多足類10	B 重要保護生物	ヤスデ綱クロヒメヤスデ科	＊＊	クロヒメヤスデ
702	多足類11	B 重要保護生物	ヤスデ綱ヒラタヤスデ科		タマモヒラタヤスデ
703	多足類12	B 重要保護生物	ヤスデ綱ババヤスデ科		タカクワヤスデ
704	多足類13	C 要保護生物	ヤスデ綱イトヤスデ科		イトヤスデ
705	多足類14	C 要保護生物	ヤスデ綱ヒラタヤスデ科		アカヒラタヤスデ
706	多足類15	C 要保護生物	ヤスデ綱エリヤスデ科		ヒメヨロイヤスデ
707	多足類16	D 一般保護生物	ヤスデ綱ババヤスデ科		オビババヤスデ
708	多足類17	A 最重要保護生物	エダヒゲムシ綱エダヒゲムシ科		サンゴホンエダヒゲムシ
709	多足類18	A 最重要保護生物	エダヒゲムシ綱モロタマエダヒゲムシ科		イシイカワリモロタマエダヒゲムシ
710	多足類19	X 消息不明・絶滅生物	ムカデ綱イッスンムカデ科		オオイッスンムカデ
711	多足類20	X 消息不明・絶滅生物	ムカデ綱ツチジムカデ科		ホソツチムカデ
712	多足類21	X 消息不明・絶滅生物	ムカデ綱ツチジムカデ科		チョウシシマジムカデ
713	多足類22	A 最重要保護生物	ムカデ綱イシムカデ科		キスジイシムカデ
714	多足類23	A 最重要保護生物	ムカデ綱イシムカデ科		タジマガハラヒトフシムカデ
715	多足類24	A 最重要保護生物	ムカデ綱アカムカデ科		ケアカムカデ
716	多足類25	A 最重要保護生物	ムカデ綱サキブトジムカデ科		サキブトジムカデ
717	多足類26	A 最重要保護生物	ムカデ綱ベニジムカデ科	＊＊	カチベニジムカデ
718	多足類27	A 最重要保護生物	ムカデ綱ナガズジムカデ科	＊＊	タカシマジムカデ
719	多足類28	B 重要保護生物	ムカデ綱ゲジ科		ゲジ
720	多足類29	B 重要保護生物	ムカデ綱ゲジ科	＊＊	オオゲジ
721	多足類30	B 重要保護生物	ムカデ綱イシムカデ科		ケズネイシムカデ
722	多足類31	B 重要保護生物	ムカデ綱メナシムカデ科		ニホンメナシムカデ
723	多足類32	B 重要保護生物	ムカデ綱メナシムカデ科		スジメナシムカデ
724	多足類33	B 重要保護生物	ムカデ綱オビジムカデ科		ヨシヤジムカデ
725	多足類34	C 要保護生物	ムカデ綱イッスンムカデ科		ヨシイッスンムカデ
726	多足類35	C 要保護生物	ムカデ綱トゲイシムカデ科		ニホントゲイシムカデ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
727	多足類36	C 要保護生物	ムカデ綱ベニジムカデ科		エリジロベニジムカデ
728	多足類37	C 要保護生物	ムカデ綱ベニジムカデ科		キヨスミベニジムカデ
729	貝類1	X 消息不明・絶滅生物	アマオブネ科		ヒロクチカノコ
730	貝類2	X 消息不明・絶滅生物	ウミニナ科		イボウミニナ
731	貝類3	X 消息不明・絶滅生物	ヘナタリ科		クロヘナタリ
732	貝類4	X 消息不明・絶滅生物	トウガタガイ科		シゲヤスイトカケギリ
733	貝類5	X 消息不明・絶滅生物	トウガタガイ科		イソチドリ
734	貝類6	X 消息不明・絶滅生物	ウツセミガイ科		ウツセミガイ
735	貝類7	X 消息不明・絶滅生物	オカミミガイ科		オカミミガイ
736	貝類8	X 消息不明・絶滅生物	イタボガキ科		イタボガキ
737	貝類9	X 消息不明・絶滅生物	ザルガイ科		モクハチアオイ
738	貝類10	X 消息不明・絶滅生物	ウロコガイ科		マゴコロガイ
739	貝類11	X 消息不明・絶滅生物	ニッコウガイ科		イチョウシラトリ
740	貝類12	X 消息不明・絶滅生物	ニッコウガイ科		アオサギガイ
741	貝類13	X 消息不明・絶滅生物	バカガイ科		ユキガイ
742	貝類14	X 消息不明・絶滅生物	マルスダレガイ科		シオヤガイ
743	貝類15	X 消息不明・絶滅生物	マルスダレガイ科		シラオガイ
744	貝類16	X 消息不明・絶滅生物	マルスダレガイ科		イオウハマグリ
745	貝類17	X 消息不明・絶滅生物	マルスダレガイ科		ウラカガミ
746	貝類18	X 消息不明・絶滅生物	マルスダレガイ科		ハマグリ
747	貝類19	A 最重要保護生物	ユキスズメ科		ミヤコドリ
748	貝類20	A 最重要保護生物	オニノツノガイ科		カヤノミカニモリ
749	貝類21	A 最重要保護生物	ウキツボ科		ウネハマツボ
750	貝類22	A 最重要保護生物	ヘナタリ科		フトヘナタリ
751	貝類23	A 最重要保護生物	ヘナタリ科		ヘナタリ
752	貝類24	A 最重要保護生物	ヘナタリ科		カワアイ
753	貝類25	A 最重要保護生物	モツボ科		シマモツボ
754	貝類26	A 最重要保護生物	ワカウラツボ科		ワカウラツボ
755	貝類27	A 最重要保護生物	イツマデガイ科		カタヤマガイ
756	貝類28	A 最重要保護生物	エゾマメタニシ科		マメタニシ
757	貝類29	A 最重要保護生物	ササナミツボ科		ササナミツボ
758	貝類30	A 最重要保護生物	イソマイマイ科		イトコシタダミ
759	貝類31	A 最重要保護生物	イソマイマイ科		シラギク
760	貝類32	A 最重要保護生物	イソマイマイ科		アラウズマキ
761	貝類33	A 最重要保護生物	イソマイマイ科		イソマイマイ
762	貝類34	A 最重要保護生物	ミズゴマツボ科		ミズゴマツボ
763	貝類35	A 最重要保護生物	タマガイ科		アダムズタマガイ
764	貝類36	A 最重要保護生物	センマイドオシガイ科		ホソセンマイドオシ
765	貝類37	A 最重要保護生物	ハナゴウナ科		ヒモイカリナマコツマミガイ
766	貝類38	A 最重要保護生物	ハナゴウナ科		ヘソアキゴウナ
767	貝類39	A 最重要保護生物	スイショウガイ科	＊	フドロ
768	貝類40	A 最重要保護生物	フトコロガイ科		マルテンスマツムシ
769	貝類41	A 最重要保護生物	フトコロガイ科		スミスシラゲガイ
770	貝類42	A 最重要保護生物	フトコロガイ科		クダマキマツムシ
771	貝類43	A 最重要保護生物	テングニシ科		テングニシ
772	貝類44	A 最重要保護生物	フデシャジク科	＊	トウキョウコウシツブ
773	貝類45	A 最重要保護生物	イモガイ科	＊	サヤガタイモ
774	貝類46	A 最重要保護生物	イモガイ科	＊	ベニイモ
775	貝類47	A 最重要保護生物	タケノコガイ科	＊	コゲチャタケ
776	貝類48	A 最重要保護生物	タケノコガイ科		イボヒメトクサ
777	貝類49	A 最重要保護生物	タクミニナ科		タクミニナ
778	貝類50	A 最重要保護生物	トウガタガイ科	＊	ヒメゴウナ
779	貝類51	A 最重要保護生物	トウガタガイ科		マキモノガイ
780	貝類52	A 最重要保護生物	スイフガイ科		ツマベニカイコガイダマシ
781	貝類53	A 最重要保護生物	スイフガイ科		カミスジカイコガイダマシ
782	貝類54	A 最重要保護生物	スイフガイ科		ツララガイ
783	貝類55	A 最重要保護生物	ヘコミツララガイ科		トウキョウシリブトカイコガイダマシ
784	貝類56	A 最重要保護生物	ヘコミツララガイ科		ヒメコメツブ
785	貝類57	A 最重要保護生物	オカミミガイ科		マキスジコミミガイ
786	貝類58	A 最重要保護生物	オカミミガイ科		カシノメガイ
787	貝類59	A 最重要保護生物	オカミミガイ科		スジケシガイ
788	貝類60	A 最重要保護生物	モノアラガイ科	＊	モノアラガイ
789	貝類61	A 最重要保護生物	ヒラマキガイ科		ミズコハクガイ
790	貝類62	A 最重要保護生物	キバサナギガイ科		ナタネキバサナギガイ
791	貝類63	A 最重要保護生物	キセルガイ科		スルガギセル
792	貝類64	A 最重要保護生物	キセルガイ科		オクガタギセル
793	貝類65	A 最重要保護生物	キセルガイ科		ヒメギセル
794	貝類66	A 最重要保護生物	イガイ科		ケガイ
795	貝類67	A 最重要保護生物	イガイ科		カラスノマクラ
796	貝類68	A 最重要保護生物	イガイ科	＊	ヤマホトトギス
797	貝類69	A 最重要保護生物	ハボウキガイ科		タイラギ
798	貝類70	A 最重要保護生物	イシガイ科		カラスガイ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
799	貝類71	A 最重要保護生物	ソトオリガイ科		コオキナガイ
800	貝類72	A 最重要保護生物	エゾオオノガイ科		クシケマスオ
801	貝類73	A 最重要保護生物	エゾオオノガイ科		ハマカゼ
802	貝類74	A 最重要保護生物	マテガイ科		オオマテ
803	貝類75	A 最重要保護生物	マテガイ科		バラフマテ
804	貝類76	A 最重要保護生物	ユキノアシタ科		ユキノアシタ
805	貝類77	A 最重要保護生物	ツキガイ科		イセシラガイ
806	貝類78	A 最重要保護生物	フタバシラガイ科		シオガマ
807	貝類79	A 最重要保護生物	フタバシラガイ科		マンゲツシオガマ
808	貝類80	A 最重要保護生物	ブンブクヤドリガイ科		マルヘノジガイ
809	貝類81	A 最重要保護生物	ウロコガイ科		オウギウロコガイ
810	貝類82	A 最重要保護生物	ケヅメガイ科		イソカゼ
811	貝類83	A 最重要保護生物	ザルガイ科	＊	ヒシガイ
812	貝類84	A 最重要保護生物	ザルガイ科		チゴトリガイ
813	貝類85	A 最重要保護生物	ニッコウガイ科		ヒラザクラ
814	貝類86	A 最重要保護生物	ニッコウガイ科		クモリザクラ
815	貝類87	A 最重要保護生物	ニッコウガイ科		アミメザクラ
816	貝類88	A 最重要保護生物	ニッコウガイ科		ユウシオガイ
817	貝類89	A 最重要保護生物	ニッコウガイ科		アワジチガイ
818	貝類90	A 最重要保護生物	アサジガイ科		ヨセギザクラ
819	貝類91	A 最重要保護生物	イソシジミ科	＊	フジナミガイ
820	貝類92	A 最重要保護生物	バカガイ科		アリソガイ
821	貝類93	A 最重要保護生物	バカガイ科		オオトリガイ
822	貝類94	A 最重要保護生物	バカガイ科		カモジガイ
823	貝類95	A 最重要保護生物	バカガイ科		ミルクイ
824	貝類96	A 最重要保護生物	バカガイ科		ヤチヨノハナガイ
825	貝類97	A 最重要保護生物	イソハマグリ科		チドリマスオ
826	貝類98	A 最重要保護生物	イソハマグリ科		クチバガイ
827	貝類99	A 最重要保護生物	フナガタガイ科		タガソデモドキ
828	貝類100	A 最重要保護生物	フナガタガイ科		ウネナシトマヤガイ
829	貝類101	A 最重要保護生物	ハナグモリ科	＊	ハナグモリ
830	貝類102	A 最重要保護生物	シジミ科		マシジミ
831	貝類103	A 最重要保護生物	マルスダレガイ科		ミジンシラオ
832	貝類104	A 最重要保護生物	マルスダレガイ科		フスマガイ
833	貝類105	A 最重要保護生物	マルスダレガイ科		オキアサリ
834	貝類106	A 最重要保護生物	イワホリガイ科		クシケガイ
835	貝類107	A 最重要保護生物	イワホリガイ科		チヂミガイ
836	貝類108	B 重要保護生物	ユキノカサ科	＊	ツボミ
837	貝類109	B 重要保護生物	アマオブネ科		イシマキ
838	貝類110	B 重要保護生物	ゴマオカタニシ科		ゴマオカタニシ
839	貝類111	B 重要保護生物	ヤマタニシ科		サドヤマトガイ
840	貝類112	B 重要保護生物	ゴマガイ科		イブキゴマガイ
841	貝類113	B 重要保護生物	オニノツノガイ科		コベルトカニモリ
842	貝類114	B 重要保護生物	カワザンショウガイ科		ヨシダカワザンショウ
843	貝類115	B 重要保護生物	カワザンショウガイ科	＊	ヘソカドガイ
844	貝類116	B 重要保護生物	ハナゴウナ科		ハナゴウナ
845	貝類117	B 重要保護生物	ハナゴウナ科		シロハリゴウナ
846	貝類118	B 重要保護生物	スイショウガイ科		シドロ
847	貝類119	B 重要保護生物	トウカムリ科	＊	カズラガイ
848	貝類120	B 重要保護生物	アッキガイ科		カゴメガイ
849	貝類121	B 重要保護生物	アッキガイ科		オウウヨウラク
850	貝類122	B 重要保護生物	エゾバイ科		トウイト
851	貝類123	B 重要保護生物	マクラガイ科		マクラガイ
852	貝類124	B 重要保護生物	コロモガイ科		トカシオリイレ
853	貝類125	B 重要保護生物	イモガイ科	＊	ベッコウイモ
854	貝類126	B 重要保護生物	タケノコガイ科		トクサガイ
855	貝類127	B 重要保護生物	トウガタガイ科		クチキレガイ
856	貝類128	B 重要保護生物	クチキレガイ科	＊	チャイロクチキレ
857	貝類129	B 重要保護生物	トウガタガイ科		ミガキクチキレ
858	貝類130	B 重要保護生物	キジビキガイ科		ムラクモキジビキガイ
859	貝類131	B 重要保護生物	スイフガイ科		コヤスツララガイ
860	貝類132	B 重要保護生物	ヘコミツララガイ科		マツシマコメツブガイ
861	貝類133	B 重要保護生物	ヒラマキガイ科		ヒラマキミズマイマイ
862	貝類134	B 重要保護生物	ヒラマキガイ科		トウキョウヒラマキガイ
863	貝類135	B 重要保護生物	キセルガイ科		チュウゼンジギセル
864	貝類136	B 重要保護生物	ベッコウマイマイ科		ヒメカサキビ
865	貝類137	B 重要保護生物	ベッコウマイマイ科		オオウエキビ
866	貝類138	B 重要保護生物	ベッコウマイマイ科		ウメムラシタラガイ
867	貝類139	B 重要保護生物	ベッコウマイマイ科		タカキビ
868	貝類140	B 重要保護生物	ベッコウマイマイ科		レンズガイ
869	貝類141	B 重要保護生物	オナジマイマイ科		カドコオオベソマイマイ
870	貝類142	B 重要保護生物	キヌタレガイ科		キヌタレガイ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

分類群番号		カテゴリー	目・科名		種名
871	貝類143	B 重要保護生物	イガイ科		アケガラス
872	貝類144	B 重要保護生物	ハボウキガイ科		ハボウキガイ
873	貝類145	B 重要保護生物	イシガイ科		マツカサガイ
874	貝類146	B 重要保護生物	スエモノガイ科		シナヤカスエモノガイ
875	貝類147	B 重要保護生物	ソトオリガイ科		オキナガイ
876	貝類148	B 重要保護生物	エゾオオノガイ科		ヒメマスオ
877	貝類149	B 重要保護生物	マテガイ科		ダンダラマテ
878	貝類150	B 重要保護生物	ユキノアシタ科		タカノハガイ
879	貝類151	B 重要保護生物	ツキガイ科		コボレウメ
880	貝類152	B 重要保護生物	ツキガイ科		チヂミウメ
881	貝類153	B 重要保護生物	ニッコウガイ科		クサビザラ
882	貝類154	B 重要保護生物	ニッコウガイ科	＊	モモノハナ
883	貝類155	B 重要保護生物	ニッコウガイ科	＊	ベニガイ
884	貝類156	B 重要保護生物	ニッコウガイ科		オオモモノハナ
885	貝類157	B 重要保護生物	ニッコウガイ科		サビシラトリ
886	貝類158	B 重要保護生物	イソシジミ科		オチバガイ
887	貝類159	B 重要保護生物	イソシジミ科		ムラサキガイ
888	貝類160	B 重要保護生物	イソシジミ科	＊	イソシジミ
889	貝類161	B 重要保護生物	シジミ科		ヤマトシジミ
890	貝類162	B 重要保護生物	マルスダレガイ科		ケマンガイ
891	貝類163	B 重要保護生物	マルスダレガイ科		イヨスダレ
892	貝類164	B 重要保護生物	イワホリガイ科		シオツガイ
893	貝類165	C 要保護生物	イボキサゴ		イボキサゴ
894	貝類166	C 要保護生物	ウミニナ科	＊	ウミニナ
895	貝類167	C 要保護生物	クビキレガイ科		キュウシュウクビキレガイ
896	貝類168	C 要保護生物	タマキビ科		モロハタマキビ
897	貝類169	C 要保護生物	タマガイ科	＊	フロガイダマシ
898	貝類170	C 要保護生物	タマガイ科		ホウシュノタマ
899	貝類171	C 要保護生物	エゾバイ科		ミクリガイ
900	貝類172	C 要保護生物	オリイレヨフバイ科		ムシロガイ
901	貝類173	C 要保護生物	バイ科	＊	バイ
902	貝類174	C 要保護生物	フデガイ科	＊	ヤタテガイ
903	貝類175	C 要保護生物	オカモノアラガイ科		ナガオカモノアラガイ
904	貝類176	C 要保護生物	タケノコガイ科		シチクガイ
905	貝類177	C 要保護生物	オカミミガイ科		ハマシイノミガイ
906	貝類178	C 要保護生物	オカミミガイ科		ナギサノシタタリ
907	貝類179	C 要保護生物	キセルモドキ科		キセルモドキ
908	貝類180	C 要保護生物	ベッコウマイマイ科		コシダカシタラガイ
909	貝類181	C 要保護生物	ナンバンマイマイ科		キヌビロードマイマイ
910	貝類182	C 要保護生物	ナンバンマイマイ科		キヨスミビロードマイマイ
911	貝類183	C 要保護生物	オナジマイマイ科		トウキョウコオオベソマイマイ
912	貝類184	C 要保護生物	イシガイ科		ヨコハマシジラガイ
913	貝類185	C 要保護生物	ソトオリガイ科		ソトオリガイ
914	貝類186	C 要保護生物	コダキガイ科		クチベニガイ
915	貝類187	C 要保護生物	ニッコウガイ科		トゲウネガイ
916	貝類188	C 要保護生物	フジノハナガイ科		ナミノコガイ
917	貝類189	C 要保護生物	マメシジミ科		ニホンマメシジミ
918	貝類190	C 要保護生物	マルスダレガイ科		ウスハマグリ
919	貝類191	C 要保護生物	マルスダレガイ科		ヒナガイ
920	貝類192	C 要保護生物	マルスダレガイ科		オキシジミ
921	貝類193	D 一般保護生物	タニシ科		マルタニシ
922	貝類194	D 一般保護生物	ワカウラツボ科		カワグチツボ
923	貝類195	D 一般保護生物	カワザンショウガイ科		ヒナタムシヤドリカワザンショウ
924	貝類196	D 一般保護生物	ミズゴマツボ科		ウミゴマツボ（エドガワミズゴマツボ）
925	貝類197	D 一般保護生物	イトカケガイ科	＊	オダマキ
926	貝類198	D 一般保護生物	エゾバイ科		モスソガイ
927	貝類199	D 一般保護生物	オリイレヨフバイ科		キヌボラ
928	貝類200	D 一般保護生物	マクラガイ科	＊	ホタルガイ
929	貝類201	D 一般保護生物	キセルガイ科		オオタキコギセル
930	貝類202	D 一般保護生物	イシガイ科		イシガイ
931	貝類203	D 一般保護生物	イガイ科		エゾヒバリガイ
932	貝類204	D 一般保護生物	ユキノアシタ科		ミゾガイ
933	貝類205	D 一般保護生物	ニッコウガイ科	＊	サギガイ
934	貝類206	D 一般保護生物	マルスダレガイ科		ワスレガイ

「＊」は2019年改訂版で変更等があったもの
「＊＊」は特に留意が必要な種

千葉県レッドリスト変更点一覧

本書（2019年３月）に掲載した分類群の種名等は、
「千葉県レッドデータブック－動物編（2011年改訂版）」（2011年３月）の発表時から一部変更されている。
以下に、変更点の一覧を示す。

哺乳類の変更点		2011	2019	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
ニホンザル	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	交雑していない個体の減少
スナメリ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	カテゴリー基準の見直し（5頁参照）
コククジラ	追加	ー	情報不足	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
鳥類の変更点		**2011**	**2019**	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
ツバメチドリ	ランク変更	A 最重要保護生物	X 消息不明・絶滅生物	近年繁殖記録がない
ダイゼン	ランク変更	C 要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ツルシギ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
メリケンキアシシギ	追加	ー	A 最重要保護生物	新たな標本、文献等による生息記録の発見
ヤマセミ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ハヤブサ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
ヒメウ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
コサギ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
マナヅル	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
クロヅル	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
ナベヅル	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
ムナグロ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
アオアシシギ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
クサシギ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	個体数の減少
オオタカ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	繁殖地の増加
ダイサギ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	個体数の増加
タゲリ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	個体数の増加
ツミ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	個体数の増加
カケス	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
カワウ	削除	D 一般保護生物		個体数の増加
カナダヅル	削除	C 要保護生物		カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
トビ	削除	D 一般保護生物		繁殖地の増加
チョウゲンボウ	削除	D 一般保護生物		カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
ツバメ	削除	D 一般保護生物		カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
イソヒヨドリ	削除	C 要保護生物		カテゴリー基準の見直し（6頁参照）
爬虫類の変更点		**2011**	**2019**	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
クサガメ	削除	情報不足		カテゴリ基準の見直し
魚類の変更点		**2011**	**2019**	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
アカヒレタビラ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
アブラハヤ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ヤリタナゴ	追加		B 重要保護生物	カテゴリー基準の見直し（8頁参照）
キンブナ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
マサゴハゼ	追加		B 重要保護生物	個体数の減少
ニホンウナギ	追加		C 要保護生物	個体数の減少
エドハゼ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	個体数の減少
チクゼンハゼ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	個体数の減少
ヤリタナゴ（小櫃川水系・養老川水系下流域の在来個体群）	削除	B 重要保護生物		和名・学名ほか、分類学的位置の変更
ヤリタナゴ（利根川水系の在来個体群）	削除	C 要保護生物		和名・学名ほか、分類学的位置の変更
昆虫類の変更点		**2011**	**2019**	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
マダラヤンマ	追加		X 消息不明・絶滅生物	新たな標本、文献等による生息記録の発見
モートンイトトンボ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
オオイトトンボ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
アオハダトンボ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	A 最重要保護生物	新たな標本、文献等による生息記録の発見
コサナエ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
オオクチブトカメムシ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	A 最重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ペニモンマキバサシガメ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	A 最重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
シロヘリハンミョウ	ランク変更	C 要保護生物	A 最重要保護生物	1999年以降の記録がない
ツツイキバナガミズギワゴミムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、南房総市白浜町で初めて記録された
オオズミズギワゴミムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	近年の記録がない
アリスアトキリゴミムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、1999年以降の記録がない
キイロコガシラミズムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、1999年以降の記録がない
クビボソコガシラミズムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、1999年以降の記録がない
カミヤコガシラミズムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、1999年以降の記録がない
シャープツブゲンゴロウ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録がとても少ない
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録がとても少ない
ニッポンセスジダルマガムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、銚子市名洗町で初めて記録された
ヤマトホソガムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録がとても少ない
マルヒラタガムシ	追加	ー	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録がとても少ない

コガタガムシ	追加	―	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録がとても少ない
マルコブスジコガネ	追加	―	A 最重要保護生物	環境省RL2018掲載種、2011年に野田市で確認された記録のみ
ヨツボシカミキリ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	1999年以降の記録がない
ヤマトマダラバッタ	ランク変更	A 最重要保護生物	B 重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ホソミイトトンボ	ランク変更	A 最重要保護生物	B 重要保護生物	新たな標本、文献等による生息記録の発見
セスジイトトンボ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
ヒメハルゼミ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
ヒョウゴチビヒョウタンゴミムシ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
トネガワナガゴミムシ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
ハマベミズギワゴミムシ本土亜種	追加	―	B 重要保護生物	近年の記録が少ない
ムツモンコミズギワゴミムシ	追加	―	B 重要保護生物	近年の記録が少ない
ハガクビナガゴミムシ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
チョウセンゴモクムシ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
コバヤシツヤゴモクムシ	追加	―	B 重要保護生物	近年の記録が少ない
クビナガヨツボシゴミムシ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
エチゴトックリゴミムシ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
コマルケシゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
マルケシゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
ヒメケシゲンゴロウ基亜種	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
キボシケシゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
コウベツブゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
ルイスツブゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
キベリクロヒメゲンゴロウ	追加	―	B 重要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録が少ない
コオナガミズスマシ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
コミズスマシ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
ツヤハマベエンマムシ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	1999年以降の記録がない
ニセハマベエンマムシ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	1999年以降の記録がない
トラハナムグリ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
トゲフタオタマムシ	ランク変更	A 最重要保護生物	B 重要保護生物	近年も個体数は少数ながら一定の記録がある
クロズハマベゴミムシダマシ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	近年の記録が全くない
ワタラセミズギワアリモドキ	追加	―	B 重要保護生物	県内の記録は少ない
モモグロハナカミキリ	追加	―	B 重要保護生物	県内の記録は6件で、2005年以降の記録がない
キンイロネクイハムシ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	記録は2市町村で、個体数は少ない
オビグロスズメ	ランク変更	A 最重要保護生物	B 重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ヒトリガ	ランク変更	D 一般保護生物	B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
クロツヤコオロギ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
コガタコオロギ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ルリクチブトカメムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
コハンミョウ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
タナカツヤハネゴミムシ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
イグチケブカゴミムシ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
オオトックリゴミムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
オオサカアオゴミムシ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
クビナガキベリアオゴミムシ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
ツヤキベリアオゴミムシ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
コアトワアオゴミムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
コホソクビゴミムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
クロゲンゴロウ	追加	―	C 要保護生物	環境省RL2018掲載種、記録は多くない
オニヒラタシデムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
オオツノハネカクシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
アカモンチビオオキノコ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
ネジロカミキリ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
イネネクイハムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	近年の記録が数件しかない
スゲハムシ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	分布・記録はフトネクイハムシとキアシネクイハムシと同程度
ゴマダラチョウ	追加		C 要保護生物	個体数の減少
ウスズミケンモン	ランク変更	A 最重要保護生物	C 要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ツマグロキヨトウ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ツマグロバッタ	追加	―	D 一般保護生物	生息地の減少、環境の悪化
トゲナナフシ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
マイコアカネ	追加		D 一般保護生物	生息地の減少、環境の悪化
クロイトトンボ	追加		D 一般保護生物	生息地の減少、環境の悪化
ヤスマツアメンボ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
オオツノカメムシ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
マイマイカブリ関東・中部地方亜種	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	県内ほぼ全域に記録があり、生息域が近隣県と接している
ケシゲンゴロウ	追加	―	D 一般保護生物	環境省RL2018掲載種、記録はあまり多くない
ジュンサイハムシ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	食餌のヒシ類が生育する水辺は少ないが、個体数は多い
トビイロトビケラ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ウルマートビイロトビケラ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ホソバオビキリガ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
アシジマカネタタキ	追加	―	情報不足	生息地の減少、環境の悪化
カヤヒバリ	追加	―	情報不足	生息地の減少、環境の悪化
ヒメスズ	追加	―	情報不足	生息地の減少、環境の悪化

ウスモンナギサスズ	追加	―	情報不足	生息地の減少、環境の悪化
カバイロキヨトウ	ランク変更	B 重要保護生物	情報不足	木更津市の1例のみの記録につき、判断を保留
シロシタバ	追加	―	情報不足	県内で初めて生息を確認（新規発見）
ベニシタバ	追加	―	情報不足	新たな標本、文献等による生息記録の発見
ウスミミモンキリガ	削除	D 一般保護生物		新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
コシロシタバ	削除	D 一般保護生物		新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
オニベニシタバ	削除	D 一般保護生物		新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ジョナスキシタバ	削除	D 一般保護生物		新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ミヤコグサマメゾウムシ	削除	A 最重要保護生物		外来種につき削除
ヒメツチハンミョウ	削除	C 要保護生物		県内の広範囲に近年の記録がある
ニセノコギリカミキリ	削除	C 要保護生物		少ないながらも近年の記録がある
ホソカミキリ	削除	C 要保護生物		少ないながらも近年の記録がある
エゴヒゲナガゾウムシ（ウシヅラヒゲナガゾウムシ）	削除	C 要保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
オオアオゾウムシ	削除	C 要保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
ミヤマクワガタ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
オオセンチコガネ	削除	D 一般保護生物		シカ等獣の増加と共に、個体数は増加傾向
ゴホンダイコクコガネ	削除	D 一般保護生物		シカ等獣の増加と共に、個体数は増加傾向
コカブト	削除	D 一般保護生物		個体数の減少は見られず、近年の記録がある
ヒゲナガハナノミ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
ヤマトタマムシ基亜種	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
アオスジカミキリ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
ホシベニカミキリ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
セミスジコブヒゲカミキリ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
イボタサビカミキリ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
イタヤハマキチョッキリ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
エゴシギゾウムシ	削除	D 一般保護生物		近年も記録がある、生息状況に大きな変化がない
ギンイチモンジセセリ	削除	D 一般保護生物		新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
クモ類の変更点		2011	2019	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
キヌアシナガグモ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
甲殻類の変更点		2011	2019	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
ハマガニ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	A 最重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ニッポンヒイロワラジムシ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ニホンハマワラジムシ	ランク変更	D 一般保護生物	C 要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
ハラグクレチゴガニ	ランク変更	A 最重要保護生物	情報不足	千葉県での出現記録は無効分散や国内移入の可能性が高い
多足類の変更点		2011	2019	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
クロヒメヤスデ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
カチベニジムカデ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
タカシマジムカデ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
オオゲジ	追加		B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
貝類の変更点		2011	2019	
種名	変更内容	カテゴリー	カテゴリー	備　考
フドロ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
トウキョウコウシツブ	追加		A 最重要保護生物	個体数の減少
サヤガタイモ	追加		A 最重要保護生物	個体数の減少
ベニイモ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
コゲチャタケ	追加		A 最重要保護生物	個体数の減少
ヒメゴウナ	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
モノアラガイ	ランク変更	C 要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ヤマホトギス	ランク変更	B 重要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ヒシガイ	追加		A 最重要保護生物	個体数の減少
フジナミガイ	ランク変更	X 消息不明・絶滅生物	A 最重要保護生物	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見
ハナグモリ	ランク変更	C 要保護生物	A 最重要保護生物	個体数の減少
ヘソカドガイ	追加		B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
カズラガイ	追加		B 重要保護生物	生息地の減少、環境の悪化
ベッコウイモ	追加		B 重要保護生物	個体数の減少
チャイロクチキレ	追加		B 重要保護生物	個体数の減少
モモノハナ	追加		B 重要保護生物	個体数の減少
ベニガイ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
イソシジミ	ランク変更	C 要保護生物	B 重要保護生物	個体数の減少
ウミニナ	ランク変更	A 最重要保護生物	C 要保護生物	個体数の増加
フロガイダマシ	追加		C 要保護生物	個体数の減少
バイ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	個体数の増加
ヤタテガイ	ランク変更	B 重要保護生物	C 要保護生物	個体数の増加
オダマキ	追加		D 一般保護生物	個体数の減少
ホタルガイ	追加		D 一般保護生物	個体数の減少
サギガイ	ランク変更	C 要保護生物	D 一般保護生物	個体数の増加
ミジンマイマイ	削除	C 要保護生物		外来群が増加しており、土着群との識別が極めて困難なため、レッドリストから削除
スナガイ	削除	C 要保護生物		外来群が増加しており、土着群との識別が極めて困難なため、レッドリストから削除

特に留意が必要な種

本書（2019年3月）に掲載した種のうち、特に留意が必要な種について内容を示す。

分類群番号		カテゴリー	種名	留意点
5	哺乳類5	B	ニホンザル	交雑していない個体の減少.
7	哺乳類7	B	スナメリ	カテゴリー基準の見直し（5頁参照）.
19	哺乳類19	情報不足	コククジラ	新たな集団、生息地、繁殖地などの発見.千葉県沿岸域の利用状況や来遊する個体数などの情報が不足.
35	鳥類16	X	ツバメチドリ	近年繁殖記録がない.
51	鳥類32	A	ダイゼン	個体数の減少.
61	鳥類42	A	ツルシギ	個体数の減少.
63	鳥類44	A	メリケンキアシシギ	新たな標本、文献等による生息記録の発見.
76	鳥類57	A	ヤマセミ	個体数の減少.
94	鳥類75	B	ヒメウ	個体数の減少.
97	鳥類78	B	コサギ	個体数の減少.
98	鳥類79	B	マナヅル	個体数の減少.
99	鳥類80	B	クロヅル	個体数の減少.
100	鳥類81	B	ナベヅル	個体数の減少.
102	鳥類83	B	ムナグロ	個体数の減少.
105	鳥類86	B	アオアシシギ	個体数の減少.
138	鳥類119	C	クサシギ	個体数の減少.
182	爬虫類7	C	シマヘビ	今後意識的に確認をしていきたい種.
236	昆虫8	X	マダラヤンマ	新たな標本、文献等による生息記録の発見
262	昆虫34	A	モートンイトトンボ	生息地の減少、環境の悪化
263	昆虫35	A	オオイトトンボ	生息地の減少、環境の悪化
265	昆虫37	A	アサヒナカワトンボの地域個体群（シロバネカワトンボ）	生息地の減少.
276	昆虫48	A	コサナエ	生息地の減少、環境の悪化
284	昆虫56	A	ハルゼミ	生息地の減少.
296	昆虫68	A	シロヘリハンミョウ	個体数の減少.
302	昆虫74	A	ツツイキバナガミズギワゴミムシ	環境省RL2018掲載種で南房総市白浜町より初報告.
303	昆虫75	A	オオズミズギワゴミムシ	近年の記録がない.
309	昆虫81	A	アリスアトキリゴミムシ	環境省RL2018掲載種.笠原（1999）以降の記録なし.
312	昆虫84	A	キイロコガシラミズムシ	環境省RL2018掲載種.山﨑（1999）以降の記録なし.
313	昆虫85	A	クビボソコガシラミズムシ	環境省RL2018掲載種.山﨑（1999）以降の記録なし.
314	昆虫86	A	カミヤコガシラミズムシ	環境省RL2018掲載種.山﨑（1999）以降の記録なし.
315	昆虫87	A	シャープツブゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録はとても少ない.
318	昆虫90	A	シャープゲンゴロウモドキ	生息地の減少、環境の悪化、個体数の急激な減少.
321	昆虫93	A	ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録はとても少ない.
322	昆虫94	A	ニッポンセスジダルマガムシ	環境省RL2018掲載種で銚子市名洗町から初記録.
323	昆虫95	A	ヤマトホソガムシ	環境省RL2018掲載種で記録はとても少ない.
324	昆虫96	A	マルヒラタガムシ	環境省RL2018掲載種で記録はとても少ない.
325	昆虫97	A	コガタガムシ	環境省RL2018掲載種で記録はとても少ない.
327	昆虫99	A	オオクワガタ	生息地の減少.
329	昆虫101	A	マルコブスジコガネ	環境省RL2018掲載種で笠原（2011）野田市のみ.
336	昆虫108	A	ヒメボタル	環境の悪化、個体数の減少.
337	昆虫109	A	ヨツボシカミキリ	伊藤（1999）以降の記録がない.
368	昆虫140	B	セスジイトトンボ	生息地の減少、環境の悪化.
379	昆虫151	B	ヒメハルゼミ	個体数の減少.
388	昆虫160	B	ヒョウゴチビヒョウタンゴミムシ	生息地の減少、環境の悪化.
389	昆虫161	B	トネガワナガゴミムシ	近年の記録が全くない.
390	昆虫162	B	ハマベミズギワゴミムシ本土亜種	近年の記録が少ない.
391	昆虫163	B	ムツモンコミズギワゴミムシ	近年の記録が少ない.
392	昆虫164	B	ハガクビナガゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
394	昆虫166	B	チョウセンゴモクムシ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
395	昆虫167	B	コバヤシツヤゴモクムシ	近年の記録が少ない.
396	昆虫168	B	クビナガヨツボシゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
397	昆虫169	B	エチゴトックリゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
403	昆虫175	B	コマルケシゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
404	昆虫176	B	マルケシゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.

分類群番号		カテゴリー	種名	留意点
405	昆虫177	B	ヒメケシゲンゴロウ基亜種	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
406	昆虫178	B	キボシケシゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
407	昆虫179	B	コウベツブゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
408	昆虫180	B	ルイスツブゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
409	昆虫181	B	キベリクロヒメゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は少ない.
410	昆虫182	B	コオナガミズスマシ	近年の記録が全くない.
411	昆虫183	B	コミズスマシ	近年の記録が全くない.
412	昆虫184	B	ツヤハマベエンマムシ	山﨑 (1999) 以降の記録がない.
413	昆虫185	B	ニセハマベエンマムシ	山﨑 (1999) 以降の記録がない.
418	昆虫190	B	トラハナムグリ	近年の記録が全くない.
424	昆虫196	B	クロズハマベゴミムシダマシ	近年の記録が全くない.
425	昆虫197	B	ワタラセミズギワアリモドキ	県内の記録は少ない.
427	昆虫199	B	モモグロハナカミキリ	県内の記録は6件で、宮内 (2005) 以降の記録がない.
430	昆虫202	B	キンイロネクイハムシ	記録は2市町村で、個体数は少ない.
464	昆虫236	B	ヒトリガ	近年の記録が数件しかない.
488	昆虫260	C	ルリクチブトカメムシ	近年の記録が数件しかない.
491	昆虫263	C	コハンミョウ	近年の記録が数件しかない.
499	昆虫271	C	タナカツヤハネゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
500	昆虫272	C	イグチケブカゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
501	昆虫273	C	オオトックリゴミムシ	近年の記録が数件しかない.
502	昆虫274	C	オオサカアオゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
503	昆虫275	C	クビナガキベリアオゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
504	昆虫276	C	ツヤキベリアオゴミムシ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
505	昆虫277	C	コアトワアオゴミムシ	近年の記録が数件しかない.
506	昆虫278	C	コホソクビゴミムシ	近年の記録が数件しかない.
508	昆虫280	C	クロゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録は多くない.
512	昆虫284	C	ガムシ	生息地の減少.
513	昆虫285	C	オニヒラタシデムシ	近年の記録が数件しかない.
514	昆虫286	C	オオツノハネカクシ	近年の記録が数件しかない.
526	昆虫298	C	アカモンチビオオキノコ	近年の記録が数件しかない.
528	昆虫300	C	ネジロカミキリ	近年の記録が数件しかない.
531	昆虫303	C	イネネクイハムシ	近年の記録が数件しかない.
574	昆虫346	C	ゴマダラチョウ	生息地の減少、環境の悪化.
595	昆虫367	D	ツマグロバッタ	生息地の減少、環境の悪化.
604	昆虫376	D	マイコアカネ	生息地の減少、環境の悪化.
605	昆虫377	D	クロイトトンボ	生息地の減少、環境の悪化.
619	昆虫391	D	ケシゲンゴロウ	環境省RL2018掲載種で記録はあまり多くない.
639	昆虫411	情報不足	ウスバカマキリ	アセスメント報告書の記録で詳細は不明.
640	昆虫412	情報不足	アシジマカネタタキ	生息地の減少、環境の悪化.
641	昆虫413	情報不足	カヤヒバリ	生息地の減少、環境の悪化.
642	昆虫414	情報不足	ヒメスズ	生息地の減少、環境の悪化.
643	昆虫415	情報不足	ウスモンナギサスズ	生息地の減少、環境の悪化.
645	昆虫417	情報不足	シロシタバ	新たな標本、文献等による生息記録の発見
646	昆虫418	情報不足	ベニシタバ	新たな標本、文献等による生息記録の発見
652	クモ類6	B	キヌアシナガグモ	生息地の減少、環境の悪化.
701	多足類10	B	クロヒメヤスデ	生息地の減少、環境の悪化.
717	多足類26	A	カチベニジムカデ	生息地の減少、環境の悪化.
718	多足類27	A	タカシマジムカデ	生息地の減少、環境の悪化.
720	多足類29	B	オオゲジ	生息地の減少、環境の悪化.

索引

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
アイヌハンミョウ	B	昆虫157	
アオアシシギ	B	鳥類86	**
アオイトトンボ	C	昆虫241	
アオギス	X	魚類2	
アオゲラ	C	鳥類130	
アオサギガイ	X	貝類12	
アオサナエ	B	昆虫139	
アオシギ	X	鳥類15	
アオダイショウ	D	爬虫類10	
アオタマムシ	B	昆虫192	
アオバズク	A	鳥類55	
アオバセセリ	B	昆虫226	
アオハダトンボ	A	昆虫36	*
アオバト	B	鳥類74	
アオバネホソクビゴミムシ	D	昆虫390	
アオヘリアオゴミムシ	A	昆虫78	
アオマダラタマムシ	C	昆虫292	
アオヤンマ	B	昆虫141	
アカアシオオアオカミキリ	B	昆虫200	
アカアシシギ	B	鳥類85	
アカアシミツユビカモメ	A	鳥類48	
アカウミガメ	A	爬虫類1	
アカオビケラトリバチ	B	昆虫208	
アカガネオサムシ本州亜種	B	昆虫158	
アカギツネ	B	哺乳類6	
アカゲラ	C	鳥類129	
アカコッコ	A	鳥類63	
アカシジミ	C	昆虫340	
アカツキシロカゲロウ	D	昆虫358	
アカテガニ	D	甲殻類31	
アカハジロ	A	鳥類22	
アカハネバッタ	X	昆虫1	
アカハライモリ	A	両生類2	
アカヒラタヤスデ	C	多足類14	
アカヒレタビラ	A	魚類6	*
アカヘリサシガメ	X	昆虫9	
アカマダラセンチコガネ	B	昆虫188	
アカマダラハナムグリ	B	昆虫189	
アカモズ	X	鳥類20	
アカモンチビオオキノコ	C	昆虫298	**
アケガラス	B	貝類143	
アサカミキリ	A	昆虫112	
アサヒナカワトンボの地域個体群（シロバネカワトンボ）	A	昆虫37	**
アサマイチモンジ	C	昆虫344	
アシジマカネタタキ	情報不足	昆虫415	**
アシハラガニ	D	甲殻類33	
アズキヘリカメムシ	C	昆虫251	
アズマヒキガエル	C	両生類10	
アダチアカサシガメ	A	昆虫64	
アダムズタマガイ	A	貝類35	
アブラハヤ	A	魚類7	*
アマツバメ	A	鳥類30	
アミメザクラ	A	貝類87	
アラウズマキ	A	貝類32	
アラメエンマコガネ	A	昆虫102	
アリアケモドキ	A	甲殻類8	
アリスアトキリゴミムシ	A	昆虫81	**
アリソガイ	A	貝類92	
アワジチガイ	A	貝類89	
イオウハマグリ	X	貝類16	
イカル	D	鳥類154	
イカルチドリ	C	鳥類114	
イグチケブカゴミムシ	C	昆虫272	**
イシイカワリモロタマエダヒゲムシ	A	多足類18	
イシガイ	D	貝類202	
イシハラアブ	A	昆虫122	
イシマキ	B	貝類109	
イシワタマダラカゲロウ	D	昆虫360	
イスミナガゴミムシ	A	昆虫83	
イセシラガイ	A	貝類77	
イソカゼ	A	貝類82	
イソカネタタキ	D	昆虫376	
イソシギ	A	鳥類45	
イソシジミ	B	貝類160	*
イソジョウカイモドキ	C	昆虫297	
イソチドリ	X	貝類5	
イソフサヤスデ	A	多足類2	
イソマイマイ	A	貝類33	
イタボガキ	X	貝類8	
イチモジヒメヨトウ	C	昆虫355	
イチョウシラトリ	X	貝類11	
イトアメンボ	A	昆虫60	
イトコシタダミ	A	貝類30	
イトヤスデ	C	多足類13	
イナゴモドキ	A	昆虫55	
イネカメムシ	C	昆虫259	
イネネクイハムシ	C	昆虫303	**
イブキゴマガイ	B	貝類112	
イボウミニナ	X	貝類2	
イボキサゴ	C	貝類165	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
イボヒメトクサ	A	貝類48	
イヨスダレ	B	貝類163	
イワツバメ	D	鳥類149	
イワヒバリ	C	鳥類134	
ウキクサミズゾウムシ	B	昆虫204	
ウスグロタマノミハムシ	A	昆虫114	
ウスズミケンモン	C	昆虫351	*
ウスバカマキリ	情報不足	昆虫411	**
ウスハマグリ	C	貝類190	
ウスモンナギサスズ	情報不足	昆虫414	**
ウズラ	A	鳥類21	
ウズラシギ	B	鳥類88	
ウスルリモンハナバチ	A	昆虫121	
ウチワヤンマ	D	昆虫362	
ウツセミガイ	X	貝類6	
ウネナシトマヤガイ	A	貝類100	
ウネハマツボ	A	貝類21	
ウマノオバチ	C	昆虫309	
ウミアイサ	D	鳥類140	
ウミウ	B	鳥類76	
ウミゴマツボ（エドガワミズゴマツボ）	D	貝類196	
ウミスズメ	B	鳥類94	
ウミニナ	C	貝類166	*
ウミベカトリバエ	B	昆虫222	
ウメムラシタラガイ	B	貝類138	
ウモレベンケイガニ	A	甲殻類10	
ウラカガミ	X	貝類17	
ウラキンシジミ	A	昆虫129	
ウラギンスジヒョウモン	X	昆虫22	
ウラギンヒョウモン	A	昆虫131	
ウラゴマダラシジミ	C	昆虫338	
ウラナミアカシジミ	C	昆虫341	
ウルマートビイロトビケラ	D	昆虫406	
エグリトビケラ	B	昆虫224	
エサキアメンボ	B	昆虫153	
エゾトンボ	X	昆虫3	
エゾヒバリガイ	D	貝類203	
エチゴトックリゴミムシ	B	昆虫169	**
エドハゼ	C	魚類23	*
エリジロペニジムカデ	C	多足類36	
オウウヨウラク	B	貝類121	
オウギウロコガイ	A	貝類81	
オオアメンボ	D	昆虫380	
オオイチモンジシマゲンゴロウ	A	昆虫91	
オオイッスンムカデ	X	多足類19	
オオイトトンボ	A	昆虫30	**
オオウエキビ	B	貝類137	
オオウラギンスジヒョウモン	A	昆虫130	
オオウラギンヒョウモン	X	昆虫23	
オオオカメコオロギ	A	昆虫49	
オオキトンボ	X	昆虫7	
オオキバナガミズギワゴミムシ	A	昆虫72	
オオキベリアオゴミムシ	D	昆虫388	
オオキンカメムシ	C	昆虫255	
オオクサキリ	A	昆虫53	
オオクチブトカメムシ	A	昆虫62	*
オオクワガタ	A	昆虫99	**
オオゲジ	B	多足類29	**
オオゴキブリ	D	昆虫371	
オオコノハズク	B	鳥類100	
オオコブスジコガネ	A	昆虫100	
オオサカアオゴミムシ	C	昆虫274	**
オオジシギ	A	鳥類36	
オオジュリン	D	鳥類156	
オオズミズギワゴミムシ	A	昆虫75	**
オオセスジイトトンボ	A	昆虫29	
オオセッカ	A	鳥類60	
オオソリハシシギ	C	鳥類117	
オオタカ	C	鳥類125	*
オオタキコギセル	D	貝類201	
オオチャバネセセリ	B	昆虫229	
オオチャバネヨトウ	C	昆虫354	
オオツノカメムシ	D	昆虫384	*
オオツノハネカクシ	C	昆虫286	**
オオトックリゴミムシ	C	昆虫273	**
オオトラカミキリ	A	昆虫110	
オオトリガイ	A	貝類93	
オオドロバチモドキ	C	昆虫317	
オオバン	C	鳥類109	
オオヒメゲンゴロウ	C	昆虫279	
オオフタホシマグソコガネ	B	昆虫191	
オオマテ	A	貝類74	
オオマルクビゴミムシ	B	昆虫170	
オオミズスマシ	C	昆虫281	
オオミドリシジミ	C	昆虫339	
オオムラサキ	B	昆虫234	
オオモノサシトンボ	A	昆虫34	
オオモモノハナ	B	貝類156	
オオモンキゴミムシダマシ	D	昆虫397	
オオユビアカベンケイガニ	A	甲殻類13	
オオヨシキリ	D	鳥類150	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
オオヨシゴイ	X	鳥類8	
オオルリ	B	鳥類103	
オオルリハムシ	B	昆虫203	
オオワシ	B	鳥類98	
オカミミガイ	X	貝類7	
オカヨシガモ	C	鳥類106	
オキアサリ	A	貝類105	
オキシジミ	C	貝類192	
オキナガイ	B	貝類147	
オクガタギセル	A	貝類64	
オグロシギ	C	鳥類116	
オサガニ	B	甲殻類16	
オサムシモドキ	C	昆虫267	
オシドリ	B	鳥類68	
オジロサナエ	A	昆虫39	
オジロワシ	B	鳥類97	
オダマキ	D	貝類197	*
オチバガイ	B	貝類158	
オツネントンボ	A	昆虫35	
オナガアゲハ	C	昆虫336	
オナガサナエ	B	昆虫140	
オニグモ	D	クモ類10	
オニヒラタシデムシ	C	昆虫285	**
オバシギ	C	鳥類123	
オビグロスズメ	B	昆虫235	*
オビババヤスデ	D	多足類16	
カイツブリ	C	鳥類107	
カエルキンバエ	X	昆虫18	
ガガンボモドキ（ヤマトガガンボモドキ）	C	昆虫323	
カクモンハラブトハナアブ	C	昆虫327	
カケス	D	鳥類147	*
カゴメガイ	B	貝類120	
カジカガエル	B	両生類5	
カシノメガイ	A	貝類58	
カジムラヒメナガゴミムシ	C	昆虫269	
カズサヒラタゴミムシ	B	昆虫165	
カスミササキリ	A	昆虫52	
カズラガイ	B	貝類119	*
カタツムリトビケラ	C	昆虫332	
カタヤマガイ	A	貝類27	
カチベニジムカデ	A	多足類26	**
カッコウ	C	鳥類112	
カドコオオベソマイマイ	B	貝類141	
カトリヤンマ	B	昆虫143	
カネコトタテグモ	A	クモ類1	
カバイロキヨトウ	情報不足	昆虫416	*
カバイロシャチホコ	A	昆虫133	
カマツカ	B	魚類10	
ガマヨトウ	C	昆虫353	
カミスジカイコガイダマシ	A	貝類53	
カミヤコガシラミズムシ	A	昆虫86	**
ガムシ	C	昆虫284	**
カモジガイ	A	貝類94	
カヤクグリ	D	鳥類153	
カヤコオロギ	A	昆虫51	
カヤネズミ	D	哺乳類15	
カヤノミカニモリ	A	貝類20	
カヤヒバリ	情報不足	昆虫412	**
カラシラサギ	A	鳥類26	
カラスガイ	A	貝類70	
カラスノマクラ	A	貝類67	
カラスバト	X	鳥類6	
カラフトアオアシシギ	A	鳥類43	
カリガネ	X	鳥類4	
カルマイツヤタマヒラタアブ	C	昆虫326	
カワアイ	A	貝類24	
カワイヒラアシコメツキ	C	昆虫294	
カワウソ	X	哺乳類2	
カワグチツボ	D	貝類194	
カワスナガニ	A	甲殻類9	
カワセミ	C	鳥類128	
カワムラモモブトハナアブ	B	昆虫215	
カワラゴミムシ	C	昆虫264	
カワラハンミョウ	A	昆虫67	
カンムリウミスズメ	A	鳥類52	
カンムリカイツブリ	D	鳥類141	
キアシシギ	C	鳥類120	
キアシネクイハムシ	C	昆虫301	
キアシハナダカバチモドキ	B	昆虫211	
キイトトンボ	C	昆虫239	
キイロコガシラミズムシ	A	昆虫84	**
キイロサナエ	B	昆虫138	
キイロネクイハムシ	X	昆虫12	
キイロホソゴミムシ	A	昆虫82	
キイロヤマトンボ	A	昆虫43	
キーガンニクバエ	C	昆虫329	
キクガシラコウモリ	C	哺乳類8	
キシタトゲシリアゲ	B	昆虫213	
キシノウエトタテグモ	B	クモ類5	
キスジイシムカデ	A	多足類22	
キセキレイ	B	鳥類104	
キセルモドキ	C	貝類179	
キトンボ	X	昆虫6	
キヌアシナガグモ	B	クモ類6	**

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
キヌタレガイ	B	貝類142	
キヌビロードマイマイ	C	貝類181	
キヌボラ	D	貝類199	
キノボリトタテグモ	B	クモ類4	
ギバチ	B	魚類11	
キバナガミズギワゴミムシ	C	昆虫268	
キバネアシブトマキバサシガメ	B	昆虫155	
キバネキバナガミズギワゴミムシ	A	昆虫71	
キバネマグソコガネ	A	昆虫104	
キバラヒトリ	X	昆虫26	
キヒゲアシブトハナアブ	B	昆虫217	
キビタキ	A	鳥類65	
キベリクロヒメゲンゴロウ	B	昆虫181	**
キベリマルクビゴミムシ	B	昆虫171	
キボシケシゲンゴロウ	B	昆虫178	**
キボシチビコツブゲンゴロウ	A	昆虫92	
キボシツブゲンゴロウ	A	昆虫89	
キボシトックリバチ	C	昆虫314	
キュウシュウクチブトカメムシ	A	昆虫63	
キュウシュウクビキレガイ	C	貝類167	
キュウシュウスジヨトウ	C	昆虫356	
キョウジョシギ	C	鳥類122	
ギョウトクコミズギワゴミムシ	A	昆虫73	
キヨスミチビヒメフナムシ	B	甲殻類15	
キヨスミナガレトビケラ	C	昆虫330	
キヨスミビロードマイマイ	C	貝類182	
キヨスミベニジムカデ	C	多足類37	
キリアイ	B	鳥類91	
キンイロアブ	B	昆虫214	
キンイロネクイハムシ	B	昆虫202	**
キンブナ	B	魚類9	*
ギンブナ	D	魚類26	
クイナ	X	鳥類11	
クサカワゲラ属の一種	A	昆虫48	
クサシギ	C	鳥類119	**
クサビザラ	B	貝類153	
クシケガイ	A	貝類106	
クシケマスオ	A	貝類72	
クダマキマツムシ	A	貝類42	
クダマキモドキヤドリニクバエ	A	昆虫124	
クチキクシヒゲムシ	C	昆虫287	
クチキコオロギ	D	昆虫374	
クチキレガイ	B	貝類127	
クチバガイ	A	貝類98	
クチベニガイ	C	貝類186	
クツワムシ	C	昆虫248	
クビナガキベリアオゴミムシ	C	昆虫275	**
クビナガヨツボシゴミムシ	B	昆虫168	**
クビボソコガシラミズムシ	A	昆虫85	**
クマガイクロアオゴミムシ	A	昆虫80	
クモガタヒョウモン	A	昆虫132	
クモリザクラ	A	貝類86	
クルメサヨリ	C	魚類22	
クロイエバエ	X	昆虫13	
クロイトトンボ	D	昆虫369	**
クロオサムシ関東地方北西部亜種	C	昆虫265	
クロカタビロオサムシ	A	昆虫69	
クロゲンゴロウ	C	昆虫280	**
クロサギ	C	鳥類108	
クロジ	D	鳥類155	
クロシジミ	X	昆虫21	
クロスジギンヤンマ	D	昆虫365	
クロズハマベゴミムシダマシ	B	昆虫196	**
クロタマムシ本土亜種	C	昆虫291	
クロツグミ	A	鳥類62	
クロツヤコオロギ	C	昆虫246	*
クロツラヘラサギ	A	鳥類27	
クロヅル	B	鳥類80	**
クロトキ	X	鳥類9	
クロバアカサシガメ	C	昆虫250	
クロヒゲカワゲラ	D	昆虫370	
クロヒメヤスデ	B	多足類10	**
クロヘナタリ	X	貝類3	
クロベンケイガニ	D	甲殻類30	
クロホシチビヒゲナガゾウムシ	B	昆虫201	
クロマダラタマムシ	B	昆虫193	
クロマドボタル	C	昆虫296	
クロマルハナバチ	C	昆虫322	
クロモンマグソコガネ	A	昆虫105	
ケアカムカデ	A	多足類24	
ケイマフリ	A	鳥類51	
ケガイ	A	貝類66	
ゲジ	B	多足類28	
ケシウミアメンボ	C	昆虫249	
ケシゲンゴロウ	D	昆虫391	**
ケズネイシムカデ	B	多足類30	
ケマンガイ	B	貝類162	
ケリ	A	鳥類31	
ゲンゴロウ	X	昆虫10	
ゲンジボタル	B	昆虫195	
コアオアトキリゴミムシ	D	昆虫389	
コアジサシ	A	鳥類50	
コアトワアオゴミムシ	C	昆虫277	**
コウノトリ	X	鳥類7	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
コウベツブゲンゴロウ	B	昆虫179	**
コウライクモカリバチ	B	昆虫210	
コオキナガイ	A	貝類71	
コオナガミズスマシ	B	昆虫182	**
コガタガムシ	A	昆虫97	**
コガタコオロギ	C	昆虫247	*
コガタノゲンゴロウ	A	昆虫88	
コガネグモ	C	クモ類7	
コガムシ	D	昆虫393	
コキクガシラコウモリ	C	哺乳類9	
コクガン	B	鳥類67	
コククジラ	情報不足	哺乳類19	**
コクロナガオサムシ東北地方南部亜種	C	昆虫266	
コケオニグモ	A	クモ類3	
コゲチャタケ	A	貝類47	*
コサギ	B	鳥類78	**
コサナエ	A	昆虫41	**
コサメビタキ	A	鳥類64	
コシアカツバメ	B	鳥類102	
コシギ	X	鳥類14	
コシダカシタラガイ	C	貝類180	
コシボソヤンマ	C	昆虫243	
コジュリン	A	鳥類66	
コチドリ	B	鳥類84	
コツバメ	B	昆虫230	
コノシメトンボ	D	昆虫366	
コバネアオイトトンボ	X	昆虫2	
コバヤシツヤゴモクムシ	B	昆虫167	**
コハラアカモリヒラタゴミムシ	C	昆虫270	
コハンミョウ	C	昆虫263	**
コハンミョウモドキ	A	昆虫70	
コバンムシ	A	昆虫58	
コブアリノスアブ	A	昆虫123	
コブヤスデ	A	多足類4	
コベルトカニモリ	B	貝類113	
コホソクビゴミムシ	C	昆虫278	**
コボレウメ	B	貝類151	
ゴマオカタニシ	B	貝類110	
ゴマダラチョウ	C	昆虫346	**
コマルケシゲンゴロウ	B	昆虫175	**
コミズスマシ	B	昆虫183	**
コミドリイエバネ	X	昆虫15	
コミミズク	A	鳥類56	
コムラサキ	C	昆虫345	
コヤスツララガイ	B	貝類131	
コヨシキリ	D	鳥類151	
コンジンテナガエビ	A	甲殻類6	
サカツラガン	X	鳥類1	
サギガイ	D	貝類205	*
サキブトジムカデ	A	多足類25	
ササナミツボ	A	貝類29	
サシバ	A	鳥類54	
サトキハダヒラタカゲロウ	A	昆虫28	
サドヤマトガイ	B	貝類111	
サヌキキリガ	D	昆虫410	
サビシラトリ	B	貝類157	
サヤガタイモ	A	貝類45	*
サラサヤンマ	D	昆虫363	
サワガニ	C	甲殻類24	
サンカノゴイ	A	鳥類23	
サンコウチョウ	A	鳥類59	
サンゴホンエダヒゲムシ	A	多足類17	
サンショウクイ	X	鳥類18	
シオガマ	A	貝類78	
シオツガイ	B	貝類164	
シオヤガイ	X	貝類14	
シゲヤスイトカケギリ	X	貝類4	
シチクガイ	C	貝類176	
シッチコモリグモ	C	クモ類8	
シドロ	B	貝類118	
シナノオオネクイハムシ	A	昆虫113	
シナハマヒメイエバエ	B	昆虫219	
シナヤカスエモノガイ	B	貝類146	
シノハラフサヤスデ	A	多足類3	
シノリガモ	D	鳥類139	
シブオナガコマユバチ	A	昆虫116	
シベリアオオハシシギ	A	鳥類38	
シマクイナ	A	鳥類28	
シマゲンゴロウ	D	昆虫392	
シマヘビ	C	爬虫類7	**
シマモツボ	A	貝類25	
ジムグリ	B	爬虫類6	
ジャノメチョウ	C	昆虫349	
シャープゲンゴロウモドキ	A	昆虫90	**
シャープツブゲンゴロウ	A	昆虫87	**
ジュズカケハゼ	B	魚類14	
シュッツェニクバエ	C	昆虫328	
シュレーゲルアオガエル	D	両生類11	
ジュンサイハムシ	D	昆虫399	*
シラウオ	C	魚類21	
シラオガイ	X	貝類15	
シラギク	A	貝類31	
シラコバト	B	鳥類73	
シルビアシジミ	B	昆虫231	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
シロウオ	D	魚類28	
シロシタバ	情報不足	昆虫417	**
シロスジコガネ	C	昆虫289	
シロスジフデアシハナバチ	C	昆虫320	
シロスジフトハナバチ	A	昆虫120	
シロスジムカシハナバチヤドリ	C	昆虫321	
シロスネアブ	D	昆虫402	
シロチドリ	A	鳥類33	
シロハリゴウナ	B	貝類117	
シロヘリハンミョウ	A	昆虫68	**
シロマダラ	B	爬虫類4	
シンテイトビケラ	X	昆虫19	
ズイムシハナカメムシ	A	昆虫61	
スギハラクモバチ	C	昆虫312	
ズグロカモメ	A	鳥類49	
スゲハムシ	C	昆虫304	*
スジエビ	D	甲殻類25	
スジケシガイ	A	貝類59	
スジメナシムカデ	B	多足類32	
スズガモ	D	鳥類138	
スナハラゴミムシ	A	昆虫77	
スナメリ	B	哺乳類7	°
スナヤツメ種群	A	魚類3	*
スミスシラゲガイ	A	貝類41	
スミナガシ	B	昆虫232	
スルガギセル	A	貝類63	
セアカオサムシ	B	昆虫159	
セイタカシギ	A	鳥類35	
セイドウマルセイボウ	C	昆虫311	
セグロアジサシ	C	鳥類124	
セグロイナゴ	A	昆虫54	
セグロトビケラ	B	昆虫225	
セスジイトトンボ	B	昆虫136	**
セッカ	D	鳥類152	
ゼニタナゴ	X	魚類1	
セマルオオマグソコガネ	A	昆虫106	
センダイムシクイ	C	鳥類132	
ソトオリガイ	C	貝類185	
ソリハシシギ	C	鳥類121	
ダイコクコガネ	X	昆虫11	
ダイサギ	D	鳥類142	*
ダイシャクシギ	A	鳥類40	
ダイゼン	A	鳥類32	**
タイラギ	A	貝類69	
タカキビ	B	貝類139	
タカクワヤスデ	B	多足類12	
タカシマジムカデ	A	多足類27	**
タガソデモドキ	A	貝類99	
タカネトンボ	B	昆虫144	
タカノハガイ	B	貝類150	
タカブシギ	B	鳥類87	
タガメ	A	昆虫57	
タクミニナ	A	貝類49	
タゲリ	D	鳥類143	*
タゴガエル	B	両生類6	
タジマガハラヒトフシムカデ	A	多足類23	
タナカツヤハネゴミムシ	C	昆虫271	**
タナゴ	A	魚類5	
ダビドサナエ	C	昆虫242	
タマシギ	A	鳥類47	
タマモヒラタヤスデ	B	多足類11	
ダルママルマグソコガネ	A	昆虫107	
ダンダラマテ	B	貝類149	
チクゼンハゼ	C	魚類24	*
チゴガニ	D	甲殻類34	
チゴトリガイ	A	貝類84	
チゴモズ	X	鳥類19	
チシマシギ	B	鳥類89	
チヂミウメ	B	貝類152	
チヂミガイ	A	貝類107	
チドリマスオ	A	貝類97	
チバヤドリコハナバチ	C	昆虫319	
チビアオゴミムシ	A	昆虫79	
チビトゲアシメマトイ	B	昆虫221	
チャイロクチキレ	B	貝類128	*
チャイロヒメハナカミキリ	D	昆虫398	
チュウサギ	B	鳥類77	
チュウジシギ	A	鳥類37	
チュウシャクシギ	C	鳥類118	
チュウゼンジギセル	B	貝類135	
チュウヒ	A	鳥類53	
チョウシシマジムカデ	X	多足類21	
チョウセンゴモクムシ	B	昆虫166	**
チョウトンボ	D	昆虫367	
ツチガエル	A	両生類3	
ツツイキバナガミズギワゴミムシ	A	昆虫74	**
ツツドリ	C	鳥類111	
ツノツツトビケラ	C	昆虫333	
ツノトンボ	C	昆虫262	
ツバメチドリ	X	鳥類16	**
ツボミ	B	貝類108	*
ツマグロキチョウ	X	昆虫20	
ツマグロキヨトウ	C	昆虫352	*
ツマグロトビケラ	A	昆虫127	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
ツマグロバッタ	D	昆虫377	**
ツマベニカイコガイダマシ	A	貝類52	
ツミ	D	鳥類146	*
ツヤキベリアオゴミムシ	C	昆虫276	**
ツヤハマベエンマムシ	B	昆虫184	**
ツララガイ	A	貝類54	
ツルシギ	A	鳥類42	**
テナガエビ	D	甲殻類26	
テングニシ	A	貝類43	
トウイト	B	貝類122	
トウキョウコウシツブ	A	貝類44	*
トウキョウコオオベソマイマイ	C	貝類183	
トウキョウサンショウウオ	A	両生類1	
トウキョウシリブトカイコガイダマシ	A	貝類55	
トウキョウダルマガエル	B	両生類7	
トウキョウヒラマキガイ	B	貝類134	
トウネン	D	鳥類145	
トウヨウカクツツトビケラ	D	昆虫408	
トウヨウグマガトビケラ	C	昆虫334	
トカシオリイレ	B	貝類124	
トキ	X	鳥類10	
トクサガイ	B	貝類126	
トゲアシヒライソモドキ	A	甲殻類12	
トゲウネガイ	C	貝類187	
トゲカメムシ	C	昆虫257	
トゲナシヌマエビ	A	甲殻類4	
トゲナナフシ	D	昆虫378	*
トゲフタオタマムシ	B	昆虫194	*
トサヤドリキバチ	C	昆虫308	
トダセスジゲンゴロウ	B	昆虫174	
トネガワナガゴミムシ	B	昆虫161	**
トビイロトビケラ	D	昆虫405	
トビハゼ	B	魚類15	
トホシカメムシ	C	昆虫258	
トモエガモ	B	鳥類70	
トラツグミ	A	鳥類61	
トラハナムグリ	B	昆虫190	**
トラフズク	C	鳥類127	
トラフトンボ	A	昆虫42	
トラフババヤスデ	A	多足類5	
トワダオビヤスデ	A	多足類6	
ナガオカモノアラガイ	C	貝類175	
ナカムラオニグモ	D	クモ類9	
ナギサノシタタリ	C	貝類178	
ナゴヤサナエ	A	昆虫40	
ナシカメムシ	C	昆虫252	
ナタネキバサナギガイ	A	貝類62	
ナツノツヅレサセコオロギ	D	昆虫373	
ナベヅル	B	鳥類81	**
ナベブタムシ	A	昆虫59	
ナマズ	B	魚類12	
ナミノコガイ	C	貝類188	
ニイガタツツトビケラ	C	昆虫331	
ニゴイ	C	魚類18	
ニセハマベエンマムシ	B	昆虫185	**
ニッポンセスジダルマガムシ	A	昆虫94	**
ニッポントゲアナバチ	C	昆虫315	
ニッポントゲアワフキバチ	C	昆虫318	
ニッポンヒイロワラジムシ	C	甲殻類18	*
ニホンアカガエル	A	両生類4	
ニホンアシカ	X	哺乳類3	
ニホンアナグマ	C	哺乳類11	
ニホンイシガメ	A	爬虫類2	
ニホンウナギ	C	魚類17	*
ニホンカナヘビ	D	爬虫類9	
ニホンザル	B	哺乳類5	**
ニホンジネズミ	D	哺乳類12	
ニホンスッポン	情報不足	爬虫類13	
ニホンテン	D	哺乳類17	
ニホントゲイシムカデ	C	多足類35	
ニホンハマワラジムシ	C	甲殻類19	
ニホンヒラタタマバチ	C	昆虫310	
ニホンマムシ	B	爬虫類5	
ニホンマメシジミ	C	貝類189	
ニホンメナシムカデ	B	多足類31	
ニホンヤモリ	D	爬虫類8	
ニホンリス	C	哺乳類10	
ヌカエビ	C	甲殻類22	
ヌマエビ	C	甲殻類21	
ヌマチチブ	D	魚類29	
ネアカヨシヤンマ	B	昆虫142	
ネキトンボ	A	昆虫47	
ネジロカミキリ	C	昆虫300	**
ネブトクワガタ本土亜種	A	昆虫98	
ノサシバエ	X	昆虫16	
ノスリ	C	鳥類126	
バイ	C	貝類173	*
ハイイロチビケフサヤスデ	A	多足類1	
ハイタカ	B	鳥類99	
ハガクビナガゴミムシ	B	昆虫164	**
ハギマシコ	C	鳥類135	
ハクガン	X	鳥類5	
ハクサンツヤアナバチ	C	昆虫316	
ハグロフタオビドロバチ	B	昆虫207	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
ハサミシャコエビ	C	甲殻類23	
ハタケヤマアブ	D	昆虫403	
ハチクマ	B	鳥類96	
バッタヤドリニクバエ	A	昆虫125	
ハナグモリ	A	貝類101	*
ハナゴウナ	B	貝類116	
ハナダカカメムシ	D	昆虫383	
ハネナシアメンボ	B	昆虫154	
ハネビロエゾトンボ	A	昆虫44	
ハボウキガイ	B	貝類144	
ハマカゼ	A	貝類73	
ハマガニ	A	甲殻類11	*
ハマグリ	X	貝類18	
ハマシイノミガイ	C	貝類177	
ハマシギ	B	鳥類90	
ハマスズ	A	昆虫50	
ハマベゴミムシ	A	昆虫76	
ハマベゾウムシ	A	昆虫115	
ハマベミズギワゴミムシ本土亜種	B	昆虫162	**
ハヤブサ	A	鳥類58	*
ハラグクレチゴガニ	情報不足	甲殻類35	*
ハラビロトンボ	B	昆虫145	
バラフマテ	A	貝類75	
ハリモモチュウシャク	A	鳥類39	
ハルゼミ	A	昆虫56	**
バン	B	鳥類82	
バンズマメガニ	A	甲殻類14	
ハンノキカミキリ	A	昆虫111	
ヒオドシチョウ	B	昆虫233	
ヒガシシマドジョウ	C	魚類19	
ヒガシニホントカゲ	B	爬虫類3	
ヒガタスナホリムシ	A	甲殻類1	
ヒクイナ	A	鳥類29	
ヒグラシヤチニクバエ	B	昆虫223	
ヒゲジロキバチ	C	昆虫306	
ヒゲブトハナムグリ	C	昆虫290	
ヒゲヤスデ	B	多足類9	
ヒサゴクサキリ	B	昆虫148	
ヒシガイ	A	貝類83	*
ヒシクイ	X	鳥類2	
ヒトリガ	B	昆虫236	**
ヒトリガカゲロウ	A	昆虫27	
ヒナガイ	C	貝類191	
ヒナカマキリ	D	昆虫372	
ヒナコウモリ	情報不足	哺乳類18	
ヒナタムシヤドリカワザンショウ	D	貝類195	
ヒヌマイトトンボ	A	昆虫32	
ヒバカリ	D	爬虫類12	
ヒバリ	D	鳥類148	
ヒミズ	D	哺乳類13	
ヒメアカネ	A	昆虫46	
ヒメアマツバメ	C	鳥類113	
ヒメウ	B	鳥類75	**
ヒメカサキビ	B	貝類136	
ヒメカマキリ	C	昆虫245	
ヒメカマキリモドキ	B	昆虫156	
ヒメキイロマグソコガネ	A	昆虫103	
ヒメギセル	A	貝類65	
ヒメクイナ	X	鳥類12	
ヒメケシゲンゴロウ基亜種	B	昆虫177	**
ヒメゴウナ	A	貝類50	*
ヒメコツブムシ	A	甲殻類2	
ヒメコメツブ	A	貝類56	
ヒメジュウジナガカメムシ	D	昆虫382	
ヒメスズ	情報不足	昆虫413	**
ヒメヌマエビ	A	甲殻類5	
ヒメネズミ	D	哺乳類16	
ヒメハルゼミ	B	昆虫151	**
ヒメボタル	A	昆虫108	**
ヒメマスオ	B	貝類148	
ヒメマダラナガカメムシ	D	昆虫381	
ヒメミズカマキリ	B	昆虫152	
ヒメミズスマシ	C	昆虫282	
ヒメヨロイヤスデ	C	多足類15	
ヒモイカリナマコツマミガイ	A	貝類37	
ヒョウゴチビヒョウタンゴミムシ	B	昆虫160	**
ヒョウタンゴミムシ	D	昆虫387	
ヒョウモンモドキ	X	昆虫24	
ヒラザクラ	A	貝類85	
ヒラタクワガタ本土亜種	B	昆虫186	
ヒラテテナガエビ	D	甲殻類28	
ヒラマキミズマイマイ	B	貝類133	
ビリンゴ	D	魚類27	
ヒロクチカノコ	X	貝類1	
ビロードキンクロ	B	鳥類71	
フイリタマヤスデ	B	多足類8	
フクイジガバチモドキ	B	昆虫209	
フクロウ	B	鳥類101	
フジセイボウモドキ	B	昆虫206	
フジナミガイ	A	貝類91	*
フスマガイ	A	貝類104	
フタテンカメムシ	C	昆虫256	
フタボシツチカメムシ	C	昆虫254	
フタモンウバタマコメツキ	D	昆虫396	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
フトネクイハムシ	C	昆虫302	
フトヘナタリ	A	貝類22	
フドロ	A	貝類39	*
フルカワフトハキリバチ	A	昆虫119	
フロガイダマシ	C	貝類169	*
ヘイケボタル	C	昆虫295	
ヘソアキゴウナ	A	貝類38	
ヘソカドガイ	B	貝類115	*
ベッコウイモ	B	貝類125	*
ベッコウトンボ	X	昆虫4	
ベッコウヒラタシデムシ	D	昆虫394	
ベーツヒラタカミキリ	B	昆虫198	
ヘナタリ	A	貝類23	
ベニアジサシ	B	鳥類92	
ベニイトトンボ	A	昆虫31	
ベニイモ	A	貝類46	*
ベニガイ	B	貝類155	*
ベニシタバ	情報不足	昆虫418	**
ベニバハナカミキリ	C	昆虫299	
ベニモンツノカメムシ	C	昆虫261	
ベニモンマキバサシガメ	A	昆虫65	*
ヘラシギ	A	鳥類46	
ベンケイガニ	B	甲殻類17	
ホウシュノタマ	C	貝類170	
ボウソウサワヒシバッタ	B	昆虫150	
ホウロクシギ	A	鳥類41	
ホオアカ	C	鳥類137	
ホオジロ	C	鳥類136	
ホオジロガモ	B	鳥類72	
ホシシリアゲ	C	昆虫325	
ホソセンマイドオシ	A	貝類36	
ホソツチムカデ	X	多足類20	
ホソバオビキリガ	D	昆虫409	*
ホソバセセリ	B	昆虫228	
ホソハンミョウ	A	昆虫66	
ホソミイトトンボ	B	昆虫134	*
ホタルガイ	D	貝類200	*
ホトケドジョウ	C	魚類20	
ホトトギス	C	鳥類110	
ホホヒゲヒメイエバエ	B	昆虫220	
ホリヒメイエバエ	B	昆虫218	
ホンサナエ	B	昆虫137	
マイコアカネ	D	昆虫368	**
マイマイカブリ関東・中部地方亜種	D	昆虫385	*
マエアカヒトリ	X	昆虫25	
マガリモンハナアブ	B	昆虫216	
マガン	X	鳥類3	
マキスジコミミガイ	A	貝類57	
マキモノガイ	A	貝類51	
マクラガイ	B	貝類123	
マゴコロガイ	X	貝類10	
マサゴハゼ	B	魚類16	*
マシジミ	A	貝類102	
マダラウミスズメ	B	鳥類93	
マダラコガシラミズムシ	B	昆虫172	
マダラヤンマ	X	昆虫8	**
マツカサガイ	B	貝類145	
マツシマコメツブガイ	B	貝類132	
マツムシ	D	昆虫375	
マナヅル	B	鳥類79	**
マメコブシ	D	甲殻類29	
マメタニシ	A	貝類28	
マルガタゲンゴロウ	B	昆虫173	
マルケシゲンゴロウ	B	昆虫176	**
マルコブスジコガネ	A	昆虫101	**
マルタニシ	D	貝類193	
マルタンヤンマ	C	昆虫244	
マルテンスマツムシ	A	貝類40	
マルバネトビケラ	D	昆虫407	
マルヒラタガムシ	A	昆虫96	**
マルヘノジガイ	A	貝類80	
マンゲツシオガマ	A	貝類79	
ミイロツメボソクモバチ	C	昆虫313	
ミガキクチキレ	B	貝類129	
ミクリガイ	C	貝類171	
ミサキツノトビケラ	A	昆虫128	
ミサゴ	B	鳥類95	
ミジンシラオ	A	貝類103	
ミズイロオナガシジミ	C	昆虫337	
ミズコハクガイ	A	貝類61	
ミズゴマツボ	A	貝類34	
ミスジキリガ	B	昆虫237	
ミスジシリアゲ	C	昆虫324	
ミスジチョウ	C	昆虫348	
ミズスマシ	C	昆虫283	
ミゾガイ	D	貝類204	
ミゾゴイ	A	鳥類25	
ミソサザイ	C	鳥類133	
ミゾレヌマエビ	A	甲殻類3	
ミツトゲヒメシロカゲロウ	D	昆虫359	
ミドリイエバエ	X	昆虫14	
ミドリシジミ	C	昆虫342	
ミドリバエ	D	昆虫404	
ミドリヒョウモン	C	昆虫347	
ミナミサシバエ	X	昆虫17	

種名	カテゴリー	分類群番号	変更等
ミナミテナガエビ	D	甲殻類27	
ミナミメダカ	B	魚類13	
ミヤケジマヨトウ	C	昆虫357	
ミヤコタナゴ	A	魚類4	
ミヤコドリ	A	鳥類34	
ミヤコドリ	A	貝類19	
ミヤマアカネ	X	昆虫5	
ミヤマサナエ	A	昆虫38	
ミヤマセセリ	B	昆虫227	
ミヤマチャバネセセリ	C	昆虫335	
ミユビシギ	D	鳥類144	
ミルクイ	A	貝類95	
ムシロガイ	C	貝類172	
ムスジイトトンボ	B	昆虫135	
ムツボシクモバチ	A	昆虫118	
ムツボシツヤコツブゲンゴロウ	A	昆虫93	**
ムツモンコミズギワゴミムシ	B	昆虫163	**
ムナグロ	B	鳥類83	**
ムネアカセンチコガネ	D	昆虫395	
ムラクモキジビキガイ	B	貝類130	
ムラサキガイ	B	貝類159	
メダイチドリ	C	鳥類115	
メッツゲルニクバエ	A	昆虫126	
メリケンキアシシギ	A	鳥類44	**
モクズガニ	D	甲殻類32	
モクハチアオイ	X	貝類9	
モスソガイ	D	貝類198	
モツゴ	D	魚類25	
モートンイトトンボ	A	昆虫33	**
モノアラガイ	A	貝類60	*
モノサシトンボ	C	昆虫240	
モモグロハナカミキリ	B	昆虫199	**
モモジロコウモリ	B	哺乳類4	
モモノハナ	B	貝類154	*
モリアオガエル	C	両生類8	
モロハタマキビ	C	貝類168	
モンクキバチ	C	昆虫307	
ヤイロチョウ	X	鳥類17	
ヤクシマキリガ	B	昆虫238	
ヤスマツアメンボ	D	昆虫379	*
ヤスマツツチバチ	A	昆虫117	
ヤスマツヒメハナバチ	B	昆虫212	
ヤタテガイ	C	貝類174	*
ヤチヨノハナガイ	A	貝類96	
ヤブサメ	C	鳥類131	
ヤブヤンマ	D	昆虫364	
ヤマアカガエル	C	両生類9	
ヤマカガシ	D	爬虫類11	
ヤマキマダラヒカゲ房総亜種（ボウソウヤマキマダラヒカゲ）	C	昆虫350	
ヤマコウモリ	X	哺乳類1	
ヤマサナエ	D	昆虫361	
ヤマセミ	A	鳥類57	**
ヤマトケシマグソコガネ	C	昆虫288	
ヤマトシジミ	B	貝類161	
ヤマトシリアゲ（シリアゲムシ）	D	昆虫400	
ヤマトタマヤスデ	B	多足類7	
ヤマトヌマエビ	C	甲殻類20	
ヤマトホソガムシ	A	昆虫95	**
ヤマトマダラバッタ	B	昆虫149	*
ヤマトモンシデムシ	B	昆虫187	
ヤマドリ	C	鳥類105	
ヤマホトトギス	A	貝類68	*
ヤリタナゴ	B	魚類8	*
ユウシオガイ	A	貝類88	
ユキガイ	X	貝類13	
ユキノアシタ	A	貝類76	
ユビナガコウモリ	D	哺乳類14	
ユメユムシテッポウエビ	A	甲殻類7	*
ヨウロウヒラクチハバチ	B	昆虫205	
ヨコヅナツチカメムシ	C	昆虫253	
ヨコハマシジラガイ	C	貝類184	
ヨシイッスンムカデ	C	多足類34	
ヨシガモ	B	鳥類69	
ヨシゴイ	A	鳥類24	
ヨシダカワザンショウ	B	貝類114	
ヨシヤジムカデ	B	多足類33	
ヨスジキンメアブ	D	昆虫401	
ヨセギザクラ	A	貝類90	
ヨタカ	X	鳥類13	
ヨツボシカミキリ	A	昆虫109	**
ヨツボシトンボ	A	昆虫45	
リスアカネ	B	昆虫146	
リュウキュウチビスズ	B	昆虫147	
ルイスオサムシ房総半島南部亜種	D	昆虫386	
ルイスツブゲンゴロウ	B	昆虫180	**
ルーミスシジミ	C	昆虫343	
ルリクチブトカメムシ	C	昆虫260	**
ルリツヤハダコメツキ	C	昆虫293	
レンズガイ	B	貝類140	
ワカウラツボ	A	貝類26	
ワスレガイ	D	貝類206	
ワスレナグモ	A	クモ類2	
ワタラセミズギワアリモドキ	B	昆虫197	**
ワレモコウチュウレンジ	C	昆虫305	

千葉県の保護上重要な野生生物

千葉県レッドリスト

動物編　2019年改訂版

2019 年 3 月発行

編集・発行：千葉県環境生活部自然保護課
電話：043-265-3601

表表紙／ タゲリ（撮影：中込 哲，2015）
裏表紙／ニホンザル（撮影：池田文隆，1983）
＊裏表紙写真は千葉県レッドデータブック動物編 2011 より引用

千葉県の保護上重要な野生生物

千葉県レッドリスト

動物編　2019年改訂版